

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書 第49集

寺 中 A 遺 跡

一般国道 251 号道路改良工事（出平有明バイパス）に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 Ⅲ

2024

長崎県教育委員会



遺跡遠景（北東方向から雲仙岳・眉山を望む）



遺跡遠景（南東方向から有明海を望む）



調査区近景（南西方向から有明海を望む）



調査区近景（直上から 左上が北）

刊行にあたって

本書は、一般国道251号道路改良工事(島原道路出平有明バイパス)に伴い、2022(令和4)年度に実施した寺中A遺跡本発掘調査の報告書です。

この島原道路は、高速交通の空白地帯である島原地区にとって県民生活の基盤となることが期待される道路であり、早期の全線開通が望まれています。長崎県教育委員会も円滑な事業推進に協力すべく、事業に係る発掘調査の体制充実に努めているところです。

本書で報告する遺跡は、島原半島北東部に位置し、雲仙岳から広がるなだらかな台地上にある弥生時代を中心とした埋蔵文化財包蔵地です。今回の調査では縄文時代早期のおとし穴状遺構や押型文土器、縄文時代後晩期の土器などの良好な資料が発見されました。

調査した遺跡は島原道路の一部となりますが、本書のように記録として残されます。私たちは、埋蔵文化財の記録を後世に残すという責任を胸に、今後も文化財保護に努めていく所存です。

末筆ではございますが、発掘調査の実施と本書の作成にあたり様々な形で御支援・御協力をいただいた関係各位の皆様に厚く御礼申し上げます、刊行の挨拶といたします。

令和6年3月21日

長崎県教育委員会
教育長 前川 謙介

例 言

1. 本書は、一般国道251号道路改良工事(出平有明バイパス)に伴い2022(令和4)年度に実施した寺中A遺跡本発掘調査の報告書である。
2. 本書は、島原道路関係埋蔵文化財発掘調査及び島原分室経費に基づいて発行した。
3. 本事業は長崎県島原振興局建設部道路第二課が事業主体となり、発掘調査主体は長崎県教育委員会が、発掘調査は長崎県教育庁長崎県埋蔵文化財センター(調査課島原分室)が担当した。
4. 発掘調査の長崎県遺跡調査番号は、JCA202210である。
5. 発掘調査にあたっては以下の業務委託を行った。
発掘調査支援:株式会社プロレリック
自然科学分析:バリノ・サーヴェイ株式会社
6. 発掘調査及び報告書作成に係る指導・情報提供は、以下の方々より御協力を頂いた(敬称略、所属(当時)、順不同)
長井大輔(雲仙岳災害記念館)、**社**田直人・村子晴奈・原由樹乃(雲仙市教育委員会)、吉岡慈文・山下祐雨(島原市教育委員会)、川道寛(西海市教育委員会)、野澤哲朗(諫早市文化振興課)。
7. 本書に掲載した地質図は、産業技術総合研究所地質調査総合センターウェブサイトの20万分の1地質図幅「熊本」データを使用し、加工して作成したものである。
8. 本書に掲載した周辺遺跡分布図と調査位置図は長崎県遺跡地図を使用し、加工して作成したものである。
9. 座標数値は平面直角座標系を、測地系は世界測地系を使用した。
10. 土色の表記は、農林水産省農林水産技術会議監修『新版・標準土色帖』を使用した。
11. 遺構及び土層の実測は、株式会社プロレリックが行った。
調査写真の撮影は新井実和、濱村一成、株式会社プロレリックが行った。
12. 本書で使用した遺構略号は以下の通りである。
SK(土坑) SP(ピット状遺構) SX(不明遺構)
13. 本書に収録した遺物の実測と製図及び遺物の写真撮影は、長崎県埋蔵文化財センター(調査課島原分室)が行った。
14. 金属製品の透過エックス線撮影及び保存処理は、近藤佳恵が行った。
15. 黒曜石の産地推定は、片多雅樹、山崎円が行った。
16. 本書の執筆・編集は、新井が行った。
17. 記録類及び出土遺物は、長崎県埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

I. 遺跡の環境	1	図2 周辺遺跡分布図(S=1/50,000)	3
1. 地理的環境	1	図3 高規格道路の計画図	5
2. 歴史的環境	2	図4 調査位置図(S=1/10,000)	6
II. 調査に至る経緯	5	図5 試掘調査と本調査の位置図(1/2,000)	9
1. 事業計画の概要	5	図6 SK01 平面図及び断面図(S=1/60)	11
2. 調整と協議	5	図7 SK01 出土土器実測図(S=1/3)	11
3. 調査の概略	6	図8 SK01 出土土器実測図(S=2/3)	11
4. 調査体制	7	図9 調査区東壁土層断面図(1/60)	12
(1) 試掘調査	7	図10 調査区北壁及び南東トレンチ土層断面図(S=1/60)	13
(2) 本調査	7	図11 IIIa 層上面平面図及び等高線図(S=1/300)	14
(3) 整理作業・報告書作成	7	図12 IV 層上面平面図及び等高線図(S=1/300)	15
III. 調査	9	図13 SK02・03 平面図及び断面図(1/60)	16
1. 範囲確認調査	9	図14 SK02 出土遺物実測図(土器:S=1/3, 石器:S=2/3)	16
(1) 調査概要	9	図15 SK03 出土土器実測図(S=1/3)	16
2. 本調査	9	図16 SK04 平面図及び断面図(S=1/60)	16
(1) 調査概要	9	図17 SK04 出土土器実測図(S=1/3)	16
(2) 層序	10	図18 SK04 出土土器実測図(S=2/3)	16
(3) 遺構等	11	図19 SP01 平面図及び断面図(S=1/60)	17
(4) 遺物	24	図20 SP02 平面図及び断面図(S=1/60)	17
IV. 自然科学分析	62	図21 SP03 平面図及び断面図(S=1/60)	17
(1) 寺中A遺跡出土黒曜石資料の産地推定	62	図22 SP04 平面図及び断面図(S=1/60)	17
(2) 寺中A遺跡の自然科学分析	66	図23 SP05 平面図及び断面図(S=1/60)	18
V. 総括	75	図24 SP05 出土遺物実測図(S=1/3)	18
【引用・参考文献】		図25 SP06 平面図及び断面図(S=1/60)	18
【写真図版】		図26 SP07 平面図及び断面図(S=1/60)	18
		図27 SP07 出土土器実測図(S=1/3)	18
		図28 SX01 平面図及び断面図(S=1/60)	19
		図29 SX01 出土土器実測図(S=1/3)	19
		図30 SX01 出土土器実測図(S=1/3)	19
		図31 SK05 平面図及び断面図(S=1/60)	20
		図32 SK05 出土土器実測図(S=1/3)	20
		図33 SK06 平面図・断面図・見通し図	
図1 表層地質図	1		

図目次

(S=1/60).....	20	図69 II b 層出土石器実測図(S=2/3、S=1/3)	31
図34 SK06 出土石器実測図(S=1/3).....	20	図70 II b 層出土石器実測図(S=1/3).....	31
図35 SK07 平面図及び断面図(S=1/60).....	21	図71 III a 層上面遺物出土状況(S=1/300).....	33
図36 SK09 平面図及び断面図(S=1/60).....	21	図72 II c 層出土石器実測図(S=1/3).....	35
図37 SK10 平面図及び断面図(S=1/60).....	21	図73 II c 層出土石器実測図(S=1/3).....	36
図38 SP08 平面図及び断面図(S=1/60).....	21	図74 II c 層出土石器実測図(S=2/3、S=1/3)	37
図39 SP09 平面図及び断面図(S=1/60).....	21	図75 II c 層出土石器実測図(S=1/3).....	38
図40 SP10 平面図及び断面図(S=1/60).....	21	図76 III a 層上面出土石器実測図(S=1/3).....	41
図41 SP11 平面図及び断面図(S=1/60).....	22	図77 III a 層上面出土石器実測図(S=1/3).....	42
図42 SP11 出土石器実測図(S=1/3).....	22	図78 III a 層上面出土石器実測図(S=1/3).....	43
図43 SP12 平面図及び断面図(S=1/60).....	22	図79 III a 層上面出土土製品実測図(S=1/3).....	44
図44 SP14 平面図及び断面図(S=1/60).....	22	図80 III a 層上面出土石器実測図(S=2/3).....	45
図45 SP15 平面図及び断面図(S=1/60).....	22	図81 III a 層上面出土石器実測図(S=2/3、 S=1/3).....	46
図46 SP17 平面図及び断面図(S=1/60).....	22	図82 IV 層上面遺物出土状況(S=1/300).....	49
図47 SP18 平面図及び断面図(S=1/60).....	22	図83 III a 層出土遺物実測図(S=1/3).....	50
図48 SP19 平面図及び断面図(S=1/60).....	23	図84 III b 層出土石器実測図(S=1/3).....	50
図49 SP20 平面図及び断面図(S=1/60).....	23	図85 III c 層出土遺物実測図(S=1/3).....	50
図50 SP21 平面図及び断面図(S=1/60).....	23	図86 IV 層上面出土石器実測図(S=1/3).....	53
図51 SP22 平面図及び断面図(S=1/60).....	23	図87 IV 層上面出土石器実測図(S=1/3).....	54
図52 SP23 平面図及び断面図(S=1/60).....	23	図88 IV 層上面出土石器実測図(S=1/3).....	55
図53 SP24 平面図及び断面図(S=1/60).....	23	図89 IV 層上面出土石器実測図(S=1/3).....	56
図54 SP25 平面図及び断面図(S=1/60).....	23	図90 IV 層上面出土石器実測図(S=2/3、 S=1/3).....	57
図55 SP27 平面図及び断面図(S=1/60).....	23	図91 IV 層上面出土石器実測図(S=1/3、 S=1/6).....	58
図56 SP28 平面図及び断面図(S=1/60).....	23	図92 IV 層出土遺物実測図(S=1/3、S=2/3).....	61
図57 SP29 平面図及び断面図(S=1/60).....	24		
図58 SP29 出土石器実測図(S=2/3).....	24		
図59 SP30 平面図及び断面図(S=1/60).....	24		
図60 SP31 平面図及び断面図(S=1/60).....	24		
図61 SP32 平面図及び断面図(S=1/60).....	24		
図62 I 層出土石器実測図(S=1/3).....	25		
図63 I 層出土土製品実測図(S=1/3).....	26		
図64 I 層出土石器実測図(S=2/3、S=1/3).....	27		
図65 II a 層出土石器実測図(S=1/3).....	28		
図66 II a 層出土土製品実測図(S=1/3).....	28		
図67 II a 層出土石器実測図(S=2/3、S=1/3).....	29		
図68 II b 層出土石器実測図(S=1/3).....	30		

表目次

表 1 周辺遺跡一覧.....	4
表 2 遺物観察表(SK 土器).....	17
表 3 遺物観察表(SK 石器).....	17
表 4 遺物観察表(SP05・SP07 出土土器).....	18
表 5 遺物観察表(SP05 出土土製品).....	18
表 6 遺物観察表(SX01 出土土器).....	19
表 7 遺物観察表(SX01 出土石器).....	19

表 8	遺物観察表(SK05 出土土器) ……	20	土壌サンプル採取箇所(北から)
表 9	遺物観察表(SK06 出土土器) ……	21	Gr0226DⅢa 層上面遺物出土状況(東から)
表10	遺物観察表(SP11 出土土器) ……	22	Ⅳ 層上面層遺物出土状況(北から)
表11	遺物観察表(SP29 出土土器) ……	24	SK06 完掘状況(東から)
表12	Ⅰ層出土土器観察表 ……	26	SX01 検出状況(西から)
表13	Ⅰ層出土土製品観察表 ……	26	SX01 土層状況(北から)
表14	Ⅰ層出土土器観察表 ……	27	Ⅳ 層上面遺物出土状況(南から)
表15	Ⅱa 層出土土器観察表 ……	29	Ⅳ 層上面遺物出土状況(北から)
表16	Ⅱa 層出土土製品観察表 ……	29	調査風景
表17	Ⅱa 層出土土器観察表 ……	29	遺構出土遺物
表18	Ⅱb 層出土土器観察表 ……	32	包含層出土遺物 1
表19	Ⅱb 層出土土器観察表 ……	32	包含層出土遺物 2
表20	Ⅱb 層出土金属製品観察表 ……	32	包含層出土遺物 3
表21	Ⅱc 層出土土器観察表 ……	38	包含層出土遺物 4
表22	Ⅱc 層出土土器観察表 ……	39	包含層出土遺物 5
表23	Ⅲa 層上面出土土器観察表 ……	47	
表24	Ⅲa 層上面出土土製品観察表 ……	48	
表25	Ⅲa 層上面出土土器観察表 ……	48	
表26	Ⅲa 層土器出土土器観察表 ……	51	
表27	Ⅲa 層出土土器観察表 ……	51	
表28	Ⅲb 層出土土器観察表 ……	51	
表29	Ⅲc 層出土土器観察表 ……	51	
表30	Ⅲc 層出土土器観察表 ……	51	
表31	Ⅳ 層上面出土土器観察表 ……	59	
表32	Ⅳ 層上面出土土器観察表 ……	60	
表33	Ⅳ 層出土土器観察表 ……	61	
表34	Ⅳ 層出土土器観察表 ……	61	

写真目次

遺跡遠景(北東方向から雲仙岳・眉山を望む)
遺跡遠景(南東方向から有明海を望む)
調査区近景(南西方向から有明海を望む)
調査区近景(直上から 左上が北)
調査区北壁土層状況(南西から)
調査区東壁土層状況(北西から)
土壌サンプル採取箇所(西から)

I. 遺跡の環境

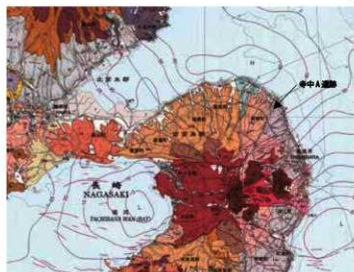
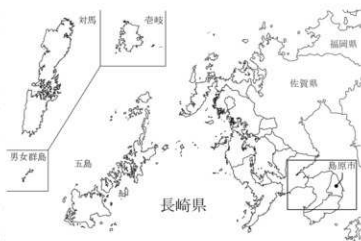
1. 地理的環境

寺中A遺跡は、長崎県南部の島原半島北東部に所在し、火山麓扇状地の中腹下方に立地する。標高は85m程度を測る。

島原半島は、北岸から東岸にかけては有明海に面し、南岸の有明海の開口部で宇土半島や天草諸島と対峙する。西岸は橘湾に面し、北西部で県央部と接する。島原半島の中央部に位置する雲仙火山は、古くから火山活動が活発であり、半島の大部分は第四期更新世中期から完新世に至るまでの噴出物によって形成されている。普賢岳、国見岳、妙見岳など20以上の山々から構成されるが、中央部の山体ほど古く更新世中期の古期雲仙火山の溶岩及び火砕流が表層となっている。半島の北東部の表層は完新世の新期雲仙火山に由来する火山麓扇状地堆積物により形成される。この中には普賢岳火山に由来する礫石原火砕流堆積物(14,000年前及び19,000年前)や鬼界アカホヤ火山灰(約7,300年前)を覆う島原岩屑なだれ堆積物、眉山火山(約4000年前)に由来する六ツ木火砕流堆積物などが分布を違えつつ重なっている(地質調査総合センターウェブサイト)。

有史以降の大きな火山活動については、1792年に眉山で山体崩壊が発生し(いわゆる「島原大変肥後迷惑」)、その約200年後の1990(平成2)年から1995(平成7)年に雲仙岳に平成新山が形成された際に、地震、火山ガス噴出、噴火、火砕流、土石流などにより広範囲で大規模な災害が発生している。

一方で、雲仙火山は豊かな自然も育み、



地質時代	地質単位	説明
更新世	沖積層	砂、砂及び泥
	中位級扇状地堆積物	礫、砂及び泥
	火山麓扇状地堆積物	礫、砂及び泥
第四紀	1991-95年火砕流堆積物	U4f 典阿志ダイヤク小火山
	1991-95年火砕流堆積物	U4b 火山麓及び火山角礫
	1991-95年溶岩ドーム	U4 典阿志ダイヤク小火山
	火山麓扇状地堆積物	U3f 典阿志ダイヤク-雲山麓火山灰
	火山麓扇状地堆積物	U3b 火山麓及び火山角礫
	溶岩	U3 典阿志ダイヤク-雲山麓溶岩
	古期雲仙火山	U2b 典阿志ダイヤク-雲山麓火山灰、火山麓及び火山角礫
	溶岩	U2 典阿志ダイヤク-雲山麓溶岩
	古期雲仙火山	U1b 典阿志ダイヤク小火山、火山麓及び火山角礫(新定を含む)
	溶岩	U1 典阿志ダイヤク溶岩

図1 表層地質図(産業技術総合研究所地質調査総合センターウェブサイトの20万分の1地質図幅「熊本」データを使用し加工して作成)

ミヤマキリシマなどの貴重な植物の群落のほか、温泉群や湧水群に恵まれ、県内有数の農業地帯が広がっている。2009(平成21)年には地球科学的特徴が認められ、「島原半島ユネスコ世界ジオパーク」として認定されている。現在は火山灰土を含む土質を活かした根菜類を中心とした耕作地が広がり、周囲には牛肉などの畜産を行う牧場もみられる。

2. 歴史的環境

調査地は、縄文時代から中世の遺跡が点在している地域にあり、近隣には長貫A遺跡、長貫B遺跡、上油堀遺跡、下油堀遺跡、2020(令和2)年度から2021(令和3)年度に本調査を実施した津吹遺跡、2021(令和3)年度に本調査を実施した原口B遺跡、大高野遺跡が存在する。

島原半島北東部の様相については、旧石器時代は、調査地から北西方向に約4kmの距離にある百花台遺跡や魚洗川遺跡、小ヶ倉遺跡が知られ、剥片尖頭器や細石刃などが出土している。調査地近接の旧石器時代の報告事例としては『長貫遺跡緊急調査報告』(古田正隆1986島原市文化財調査報告書第3号)に、「昭和32年7月謙早水害の直後頃、当時の三会中学校生徒が、長貫において2個の「ハンドアックス」(握槌)を川原化した道路にて発見…(中略)…慶応大学考古学研究室におられた江坂彌弥教授がみて、旧石器文化の遺物であることを述べられた。」との記述があるが、遺物包含層での確認はなされていない。

縄文時代は、早期、後期、晩期の遺跡が多く知られ、代表的な遺跡として、調査地より標高の低い場所では小原下遺跡、一野遺跡、大野原遺跡、調査地より標高の高い場所では礫石原遺跡、肥賀太郎遺跡、長貫A遺跡、下油堀遺跡などがある。これらの遺跡の主な特徴として、一野遺跡では、早期に位置づけられる貝殻条痕文形土器の一野式土器や、円筒型土器の弘法原式土器が出土している。大野原遺跡では、縄文時代後期後半の土器・石器が大量に出土している。また、小原下遺跡では、縄文時代後期後半の集落の一部が確認され、土偶も出土している。長貫A遺跡では、おとし穴状遺構が確認され、遺構内から押型文土器片が出土している。下油堀遺跡でもおとし穴状遺構が確認され、遺構内から平袴・塞ノ神式土器片が出土しているほか、焼土遺構から坂の下式土器と思われる底部が出土している。

弥生時代は、一野遺跡や大野原遺跡で石棺や甕棺が出土し、小原下遺跡では弥生時代中期の集落跡が確認されている。有明海沿いに所在する景華園遺跡では、銅剣や銅矛、鉄製鋤先、貝輪、玉類が出土している。

古墳時代については、調査地周辺に人塚古墳や鬼の家古墳があったとされているが、土地改変によって現状では確認できない。現状が確認できる古墳としては、墳丘と玄室及び前室の一部が残存する平山古墳がある。その他、一野遺跡では墳丘は消失していたが、主体部と周溝が残存する8基の古墳を検出しており、小規模な古墳が散在する。

古代は、松尾遺跡で8世紀の土師器・須恵器や甎が出土し甎も確認されている。北に離れた場所には高来郡家の関連施設とも目される大野原遺跡(大野原七反畑遺跡)が知られている。また、そこから島原市街地付近の野鳥駅比定地を結ぶ海沿いが伝路の想定ルートとなっている。のちに近世の島原街道となるこのルートは、現国道251号と概ね重なる。

中世では、沿岸部の寺中城跡や畑中遺跡、小原下遺跡が知られる。寺中城跡は谷底平野の小規模な独立丘陵に位置する。標高16mほどで周囲の平野とは高低差8mを測る。有馬氏の家臣・和泉氏の居城と伝えられており、布目瓦や土師質土器が表面採集され、堀切も確認されている。畑中遺跡では溝状遺構・掘立住建

物跡・精錬鍛冶遺構が検出されている。小原下遺跡では2間×5間の掘立柱建物跡1棟や溝状遺構・土坑が検出されている。遺物は土師質・須恵質・瓦質土器等の国産品に加え、中国産や朝鮮系の貿易陶磁器も出土しており、北側に所在する古閑越後守(有馬家臣)の東古閑城跡との関連が想定されている。一方で、東古閑城跡の北西側、湯江川河口近くに所在する大野城跡は、天正12(1584)年に龍造寺氏と有馬氏による沖田駿の戦いにおいて、高来直轄地の最終端であり龍造寺氏の兵站基地であったとされる。龍造寺軍敗退後、大野城主・大野山城守は、城の軍需物資を有馬晴信へ提供することにより助命された。このように中世・戦国時代の城郭跡が点在する他、下宮遺跡、稗田原遺跡、大タブ沢遺跡、大塚下遺跡は踏査によって中世の遺物散布が認められている。

近世では、調査地周辺は島原藩領内の三会村に位置していた。この「三会」という地名については、古くは「美江」、「三戸」、「三重」、「三江」と記されていたとされ、元来の意味としては「三江」すなわち、洗切川、大橋川、中川の川尻に三つの入り江があったことに由来があるといわれている。

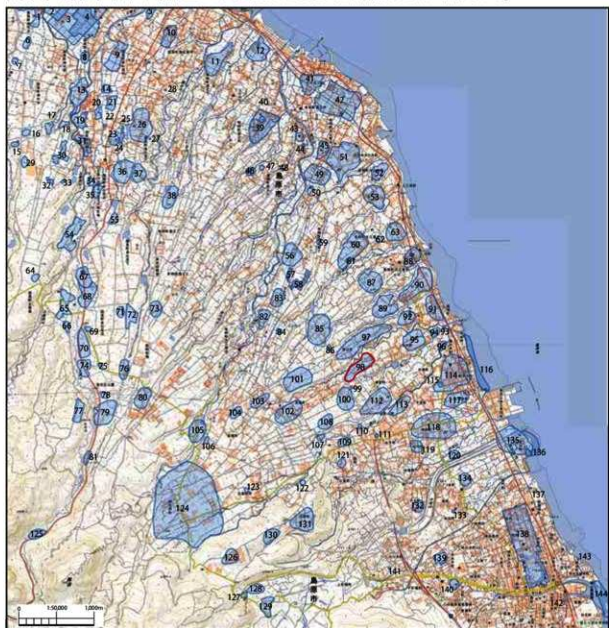


図2 周辺遺跡分布図 (『長崎県遺跡地図』を加工して作成) (S=1/50,000)

表1 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	主な時代	番号	遺跡名	主な時代
1	佃遺跡	旧石器・縄文・弥生・古墳・古代・中世・近世	73	森岡遺跡	縄文
2	龍王遺跡	旧石器・縄文・弥生・古墳・古代	74	百花台D遺跡	旧石器・縄文
3	眞正寺安里	旧石器・縄文・弥生・古墳・古代	75	百花台東遺跡	旧石器・縄文
4	樋ノ口遺跡	弥生・古墳・古代	76	百花台E遺跡	旧石器・縄文
5	多比良城跡	古代・中世	77	魚洗川C遺跡	旧石器
6	赤城遺跡	古代・中世	78	魚洗川A遺跡	旧石器・縄文
7	大塚城跡	中世	79	魚洗川B遺跡	旧石器・縄文
8	窪原遺跡	弥生・古墳	80	ニツ石遺跡	縄文
9	十園遺跡	旧石器・縄文・弥生・古墳・古代・中世・近世	81	魚洗川D遺跡	旧石器・縄文
10	多比良馬場遺跡	縄文・弥生	82	上源在高野遺跡	縄文
11	戸田向原遺跡	縄文・弥生	83	下源在高野遺跡	縄文
12	釘崎遺跡	中世	84	山ノ内上横穴古墳	古墳
13	上窪原遺跡	弥生・古墳・古代・中世・近世	85	灰ノ久保遺跡	縄文
14	小中野A遺跡	旧石器・縄文・弥生・古墳・古代	86	上新高野遺跡	旧石器・縄文・弥生
15	堀ノ口遺跡	縄文	87	山ノ内遺跡	古墳・古代
16	大広野遺跡	縄文	88	松尾遺跡	古墳・古代
17	浅井城跡	中世	89	上一野遺跡	縄文
18	下高野遺跡	縄文・中世	90	一野遺跡	縄文・弥生・古墳
19	矢房遺跡	旧石器・縄文・弥生・古墳・古代	91	黒墓園遺跡	弥生
20	内屋敷遺跡	縄文・弥生	92	上中野遺跡	弥生・古墳
21	小中野B遺跡	旧石器・縄文・弥生・古墳・古代	93	中野川遺跡	弥生
22	杉ノ元遺跡	縄文・弥生・古墳・古代	94	寺中城遺跡	中世
23	金山遺跡	弥生	95	西川遺跡	弥生
24	金山古墳	古墳	96	寺中B遺跡	弥生・古墳
25	松尾遺跡	旧石器・縄文・弥生・古墳・古代	97	原口B遺跡	弥生・古墳
26	五万長者屋敷遺跡	古代	98	寺中A遺跡	弥生
27	八反田古墳	古墳	99	大高野遺跡	旧石器・縄文・弥生
28	高下古墳(東の岩屋)	古墳	100	長貫B遺跡	縄文・弥生
29	土井下遺跡	縄文	101	原口A遺跡	縄文・弥生
30	中高野遺跡	縄文・弥生	102	長貫A遺跡	旧石器・縄文
31	石原遺跡	旧石器・縄文・弥生・古墳・古代	103	下油堀遺跡	縄文・弥生
32	赤原遺跡	縄文・弥生	104	上油堀遺跡	縄文
33	ドンク石遺跡	旧石器	105	東鷹野遺跡	縄文
34	城城跡	中世	106	一本松遺跡	縄文
35	榑ノ鼻遺跡	縄文・弥生・古墳・古代・中世	107	南桶沢遺跡	弥生
36	眞正寺遺跡	縄文・弥生	108	大塚後遺跡	縄文・弥生
37	胡麻倉遺跡	縄文・弥生	109	大塚下遺跡	中世
38	漣水山遺跡	縄文	110	人塚古墳	古墳
39	庄司屋敷古墳	古墳	111	鬼の塚古墳	古墳
40	庄司屋敷遺跡	弥生・中世	112	津吹遺跡	縄文・弥生
41	妙法塚遺跡	弥生・古墳	113	三倉中学校遺跡	縄文
42	中田遺跡	縄文	114	畑中遺跡	弥生・古墳・古代・中世
43	大野浜城跡	中世	115	大塚古墳	古墳
44	久原遺跡	縄文	116	三倉下新海中遺跡	縄文・弥生
45	大野城跡	中世	117	下宮遺跡	縄文・弥生・中世
46	六人権横穴古墳	古墳	118	種田原遺跡	縄文・弥生・中世
47	塚ノ鼻横穴遺跡	古墳	119	山崎遺跡	弥生・古墳
48	平山古墳	古墳	120	長塚古墳	古墳
49	甘木遺跡	弥生・古墳	121	坪浦遺跡	縄文
50	温泉神社台地遺跡	縄文	122	原無遺跡	縄文
51	大野原遺跡	縄文	123	大タテ沢遺跡	縄文・中世
52	東古閑城跡	中世	124	磯石原遺跡	縄文
53	才木遺跡	縄文	125	魚洗川E遺跡	旧石器・縄文
54	水口田遺跡	縄文	126	馬渡遺跡	縄文
55	中島遺跡	旧石器・縄文	127	肥賀太郎遺跡	縄文
56	上松高野遺跡	弥生	128	平の山A遺跡	縄文
57	下高野木遺跡	旧石器・縄文・弥生	129	平の山B遺跡	縄文
58	榑沢上遺跡	旧石器・縄文・弥生	130	弓弦遺跡	縄文
59	弘山横穴古墳	古墳	131	立野遺跡	縄文
60	小原上遺跡	縄文	132	釘原遺跡	弥生・古墳
61	園土神社表横穴	古墳	133	熊野神社遺跡	古代・中世
62	小原下B地点遺跡	縄文	134	清田遺跡	弥生
63	小原下遺跡	縄文・中世	135	沖田遺跡	弥生・古墳
64	栗沼遺跡	旧石器	136	沖田海中遺跡	弥生・古墳
65	栗山遺跡	縄文	137	沖田畷遺跡	古墳
66	下栗山遺跡	旧石器・縄文	138	島原城跡	近世
67	小ヶ倉A遺跡	旧石器・縄文	139	丸尾城跡	中世
68	小ヶ倉B遺跡	旧石器・縄文	140	小山館跡	中世
69	百花台A遺跡	旧石器・縄文	141	小塚古墳	古墳
70	百花台B・C遺跡	旧石器・縄文	142	浜の城跡	近世
71	小ヶ倉C遺跡	旧石器・縄文	143	長浜台場跡	近世
72	沼谷遺跡	縄文	144	大平浜遺跡	縄文・弥生・古墳・古代・中世・近世

II. 調査に至る経緯

1. 事業計画の概要

長崎県は九州の最西端に位置し、陸地は平坦に乏しく、県域の殆どは山岳・丘陵・半島・岬・湾・入江・離島で形成されている。この地理的ハンディキャップを解消し、地域経済の促進を図るため、高規格道路の整備を進めている。

島原道路は、南島原市深江町を起点とし、諫早市貝津町の長崎自動車道諫早ICとを結ぶ延長約50kmの自動車専用の高規格道路である。島原半島は高速交通ネットワークの空白地帯であり、高規格道路を整備することで交流人口の拡大、物流の効率化、重篤患者の3次救急医療施設への搬送時間の改善や、災害時の避難路あるいは緊急輸送路として貢献するものと期待されている。



図3 高規格道路の計画図(画像提供:土木部道路建設課)

2. 調整と協議

島原道路の事業計画に基づき、2012(平成24)年から県営事業区間においての島原道路建設に伴う埋蔵文化財の取扱いに関する協議がなされ、2017(平成29)年度に用地交渉が始まった。

2018(平成30)年5月28日、出平有明バイパス区間の用地買収がある程度進んだ段階で、長崎県島原振興局建設部道路第二課、長崎県教育庁学芸文化課及び長崎県埋蔵文化財センターによって現地協議を行った。協議対象は、出平有明バイパスの延長区間かつ既存の島原半島広域農道(通称:雲仙グリーンロード)にほぼ並走する幅約35mの路線計画地である。協議内容としては、路線計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内であり、かつ周辺にも未周知の遺跡が存在する可能性があるため、試掘・範囲確認調査の必要があること、また本年度の9月以降に埋蔵文化財センターが調査に着手可能であることを申し合わせた。以降、作付けや用地買収の状況を確認しながら、段階的に試掘・範囲確認調査を実施していった。予備調査の結果、本調査が避けられないと判断した場所については、長崎県土木部道路建設課、島原振興局道路第二課、学芸文化課、埋蔵文化財センターで協議を行い、道路建設工事の状況を勘案しながら調整を行った。

また、国土強靱化等の国からの予算措置による事業拡大に伴い、土木部から島原道路に関する発掘調査規模拡大の要望が上がっていた。そのため教育委員会では、調査体制を整備し島原道路建設に伴う発掘調査事業の円滑な推進を図るため、2022(令和4)年度4月から「長崎県埋蔵文化財センター調査課島原分室」を雲仙市神代に設置した。以後島原道路建設に係わる発掘調査は、予備調査・本調査共に島原分室が担当している。

3. 調査の概略

2022(令和4)年度の寺中A遺跡本調査面積は1,101㎡である。調査方法は2021(令和3)年度実施した島原道路(出平有明バイパス)における大高野遺跡本調査(JCA202105)に準じるものとした。表記の統一を図るため、グリッドは2021(令和3)年度大高野遺跡発掘調査と同様に平面直角座標系に基づいて5m×5mで設定した。Ⅰ層は重機掘削を行い、Ⅱ層は人力掘削を行い、Ⅲ層は事前に実施した範囲確認調査の結果と大高野遺跡の結果から上位における遺物包含層の可能性が低いと想定されたため、重機掘削と人力掘削を併用することとした。Ⅳ層以下は範囲確認の結果から、遺物包含層ではないと判断したため、重機掘削で下層確認を行った。遺物はⅢ層上面で親指大の遺物を全て、及び他の層では必要に応じて平面直角座標系における座標と標高値情報を保持させる遺物点上げを行った。

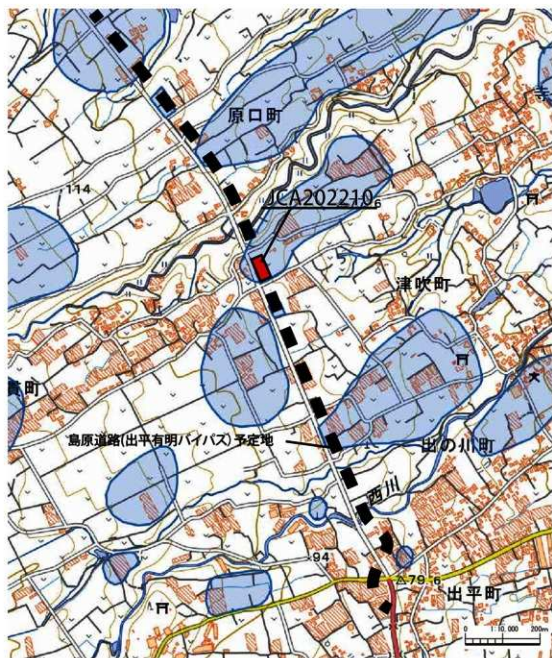


図4 調査位置図(『長崎県遺跡地図』を加工して作成。点線は高規格道路の線形、S=1/10,000)

4. 調査体制

(1) 試掘調査

寺中A遺跡範囲確認調査【調査番号：JCA201807】

発掘調査主体者

長崎県教育委員会

発掘調査担当

長崎県埋蔵文化財センター

所長 石橋 明

総務課長 田川 正明

調査課長 寺田 正剛

調査課主任文化財保護主事 松元 一浩

調査課主任文化財保護主事 山梨 千晶

調査課文化財調査員 千原 和己

(2) 本調査

寺中A遺跡本調査【調査番号：JCA202210】

発掘調査主体者

長崎県教育委員会

発掘調査担当

長崎県埋蔵文化財センター

所長兼調査課長兼東アジア考古学研究室長 寺田 正剛

総務課長 崎谷 恵子

調査課島原分室係長 濱村 一成

調査課島原分室文化財保護主事 新井 実和

調査支援

株式会社プロレリック

現場代理人 森崎由喜弘

調査主任 木村 有喬

調査員 加藤 和人

現場測量補助 村上 孝司

(3) 整理作業・報告書作成

調査主体者

長崎県教育委員会

整理作業担当

長崎県埋蔵文化財センター

所長兼調査課長兼東アジア考古学研究室長 寺田 正剛

総務課長	崎谷 恵子
調査課島原分室係長	濱村 一成
調査課島原分室文化財保護主事	新井 実和
調査課島原分室文化財調査員	川畑 敏則
調査課島原分室文化財調査員	山崎 円

2023(令和5)年4月から埋蔵文化財センター調査課島原分室において報告書作成に向けた整理作業を実施した。遺物の整理は、水洗、接合、ID番号付与、実測、トレースの流れで行った。金属製品の保存処理は、透過X線撮影等の事前調査後、メスやグラインダーなどを用いて錆取り作業を行い、アクリル樹脂含浸強化処理を実施した。出土した黒曜石製石器については、長崎県埋蔵文化財センターの蛍光X線分析装置を用いた産地推定を実施した。

Ⅲ. 調査

1. 範囲確認調査【調査番号：JCA201807】

(1) 調査概要

①調査期間と面積

期間：2019(平成31)年3月4日～同年3月15日

面積：43.7㎡ 所在地：長崎県島原市寺中町丙2252-3・2253-1

②調査方法

立入可能となった畑面に試掘坑をTP15～TP26の計11か所設定し、掘削調査を行った。

③基本層序 ※層序の番号表記は確認調査時のままである。

I層：耕作土等。

II層：黒ボク。

III層：褐色砂質土。火山灰由来か。

IV層：黒ボク。

V層：カシノミ層。礫石原火砕流由来。

VI層：黒ボク。

④調査結果

遺構については、III層上面にてピットがTP15で1基、TP16で3基、TP21で1基、計5基検出された。出土遺物については、II層で主に縄文時代後晩期の土器や黒曜石製の剥片、砂岩製砥石片が、III層で縄文時代早期の押型土器が出土した。II～III層境が縄文時代後晩期の、III層が縄文時代早期の文化層とみられる。II層以下の残存する箇所はTP15・16・21・25、III層以下の残存する箇所はTP19・20・22となる。また、耕作地の嵩上げ土として盛られた現代の造成土中で、赤彩の施された弥生土器の小片や鉄製品(刀子)が出土した。現耕作土を含めこれらの客土の由来地を検討する必要がある。

⑤協議

工事に際しては協議が必要である。



図5 試掘調査と本調査の位置図(S=1/2,000)

2. 本調査【調査番号：JCA202210】

(1) 調査概要

①調査期間と面積

期間：2022(令和4)年7月8日～同年11月30日

面積：1,141㎡ 所在地：長崎県島原市寺中町丙2252-3

②調査の方法

調査区の設定は、長方形の圃場1枚を調査対象地として行った。調査対象地南側を東西に走る道路の函渠工事等に配慮し、圃場の際4辺から4mの控えを取った範囲を調査区として設定した。

グリッドは5m×5mで設定し、北西交点(グリッドの左上)を基準にX座標の百の位、十の位、Y座標の百の位、十の位の数字を組み合わせた4桁の番号とA～Dのアルファベットを北西、北東、南西、南東の順に付与したものをグリッド名とした。

掘削は表土・大規模な攪乱坑を重機で除去したのち、サブトレンチを調査区外周に沿って東西方向・南北方向2か所に設定した。Ⅱ層は人力掘削し、範囲確認調査の結果や令和3年度に本調査を実施した大高野遺跡の結果から、Ⅲ層の途中までは遺物・遺構の包含状況が希薄と判断したためⅢb層までを重機掘削し、Ⅲc層からⅣ層上面を再び人力掘削した。Ⅳ層以下は範囲確認調査の結果から遺構・遺物等が確認されなかったことを受け、グリッド番号末がアルファベット「A」となる地点の北西2m×2mを、Ⅴ層が検出されるまで人力掘削した。

遺構は人力掘削で行い、樹根や倒木痕を含む攪乱等は内包物が包含層出土物に混入することを防ぐため、完掘とした。

遺物は、原則としてグリッド毎に取り上げ、範囲確認調査の結果から生活面の可能性のあるⅢa層上面で出土した遺物のうち親指大のものは全て点上げを行った。

③発掘作業の経過

発掘調査支援業者との現地協議は同年7月11日に行った。環境整備と現況測量を行った後、8月22日より表土を除去し、8月25日より人力掘削を開始した。10月11日に空掘を行い、10月31日より埋め戻し作業を開始し、11月30日に全ての作業を終了した。

④調査結果の概要

遺構はⅢa層上面で土坑(SK)を4基、ピット状遺構(SP)7基、炭化物が集中した不明遺構(SX)を1基確認した。また、Ⅳ層上面では土坑(SK)を5基、ピット状遺構(SP)を23基確認した。遺物は土器・陶磁器類が約5,500点、石器類が約1,000点、金属製品類約10点、合計約6,500点が出土した。

(2)層序

基本的な層序は以下のとおりである。今回の報告では長崎県教育委員会2023『津吹遺跡・原口B遺跡・上新高野遺跡・大高野遺跡』令和4年度報告長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第46集に倣った。

Ⅰ層：耕作土

Ⅱ層：黒褐色土。縄文時代後晩期～近世の遺物包含層。

Ⅱa層：黒褐色土(10YR3/1)。近世の遺物包含層。

Ⅱb層：黒色土(10YR2/1)。中世の遺物包含層。

Ⅱc層：黒褐色土(10YR2/3)。縄文時代後晩期の遺物包含層。

Ⅲ層：にぶい褐色土～橙色土。縄文時代早期の遺物包含層。

Ⅲa層：にぶい褐色土(7.5YR6/3)。

Ⅲb層：橙色土(7.5YR6/6)。縄文時代早期の土器片をごくわずかに包含する。

Ⅲc層：にぶい黄褐色土(10YR5/4)。縄文時代早期の遺物包含層。

IV層：暗褐色～黒褐色土(10YR3/3～3/1)。

V層：黄灰色土(2.5Y4/1)。硬質ブロックを密に含む層。

VI層：黒褐色土～オリーブ褐色硬質土。

VIa層：黒褐色土(2.5Y3/1)。無遺物層。

VIb層：オリーブ褐色土(2.5Y4/3)。無遺物層。

VIc層：黒褐色土(2.5Y3/2)。無遺物層。

VId層：灰オリーブ色土(5Y4/2)。無遺物層。

VIe層：暗オリーブ色土(5Y4/3)。無遺物層。

VII層：黒色粘質土(2.5Y2/1)。無遺物層。

VIII層：黄色粘質土(2.5Y7/8)。無遺物層。

(3) 遺構等

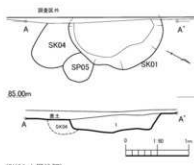
① II層の遺構

II層は分層した各層上面で遺構検出を行ったが遺構埋土と包含層の土質が酷似し判別が困難であったため、すべてIIIa層上面での検出となった。IIIa層上面では土坑(SK01～04)4基、ピット状遺構(SP01～07)7基、炭化物が集中した不明遺構(SX01)1基を確認した。

【SK】

SK01

SK01はGr0326Cにおいて検出した。長径約1.5m、短径は一部調査区外にあるが推定約1.25mの楕円形で、深さ約0.25mの土坑である。この中から青磁蓮弁文碗(図7・2)が出土した。このことから、中世(15世紀後半～16世紀前半)の土坑であると考えられる。



(SK01土層注記)

黒褐色土(10YR 3/2) 褐色ブロックを3%程度、暗褐色ブロックを7%含む。
しまりが強い。埋土より青磁蓮弁文碗C群(15世紀後半～16世紀前半)が出土。

図6 SK01平面図及び断面図(S=1/60)

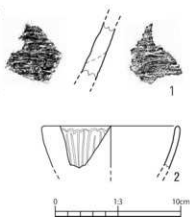


図7 SK01出土土層実測図(S=1/3)



図8 SK01出土石器実測図(S=2/3)

SK02・SK03

SK02はGr0326CとGr0326Dの間において検出した。長径は約1.2cm、短径は約0.9mの楕円形で深さ約0.25mの土坑である。埋土は2層に分層でき、2層からは縄文時代後・晩期の土器片が出土した。

SK03はGr0326CにおいてSK02と隣接して検出した。直径約0.6mの円形で深さ約0.1mの土坑である。SK02と同じく2層に分層できる。1層はSK02の埋土と同等の土質と思われる。

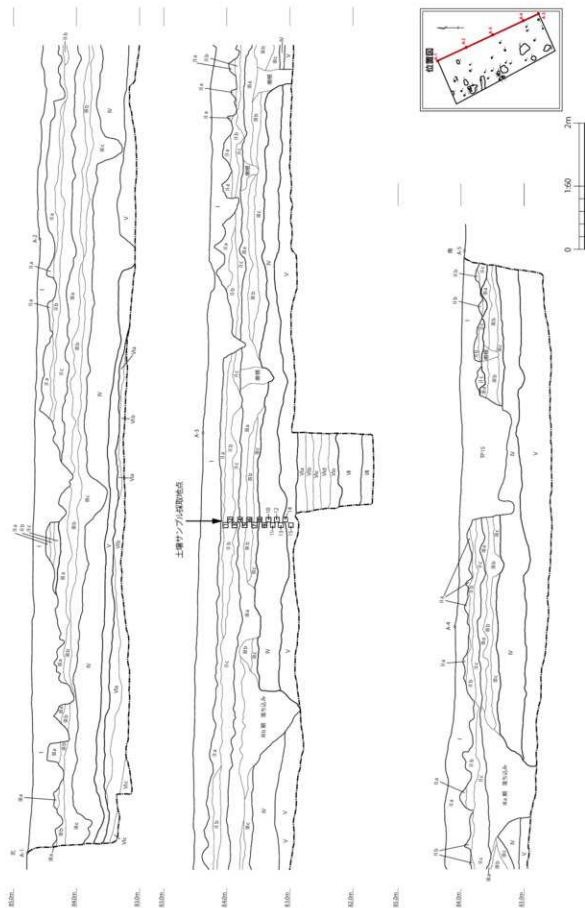
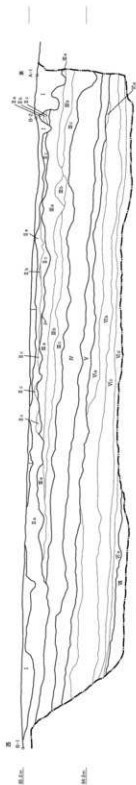
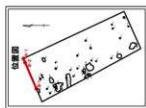
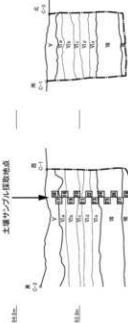
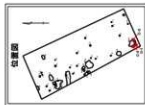


図9 調査区東壁土層断面図 (S=1/60)



土壌サンプル採取地点



(土層表記)

1層：耕土

IIa層：黄褐色土 (107R3/1) サラサとしたキメの粗かい土質。黄褐色を7%程度含む。0.1~0.3mmの礫を10%程度含む。0.1~0.3mmの礫を7%程度含む。0.1~0.3mmの礫を10%程度含む。層がほとんどごころで礫の平均粒径がみられる。IIa層にはへしてしまりが強い。縦文線地帯土層(1)~中部の輸入海産層片を含む。

IIb層：黄褐色土 (107R3/2) やや砂質。白色粒を3%程度含む。しまりが強くフカフカしている。縦文線地帯土層片を含む。層下部で分粒に多くの塊状土層片が出土する。

IIIa層：粘土質褐色土 (25YR6/2) 火山灰で厚層に堆いた土質。水分の量が多い。しまりが非常に強い。上部に縦文線地帯土層片がほとんど出土する。

IIIb層：粘土質褐色土 (107R3/3) 砂質~粘質。0.1mm~粗面水の礫を7%程度含む。白色粒を3%程度含む。0.1mmの礫を3%程度含む。層下部に押込土層片を多く含む。しまりがやや強い。

IV層：黄褐色土 (25YR4) 硬質ブロックが間断なく含まれた層。硬質ブロックがほとんど出土する。

Va層：黄褐色土 (25YR4) 粘質。中砂~1mmの礫を15%程度含む。黄色の硬質ブロックを1%程度含む。

Vb層：黄褐色土 (25YR4) 粘質。中砂~1mmの礫を15%程度含む。黄色の硬質ブロックを1%程度含む。

Vc層：黄褐色土 (25YR2) 粘質。白色粒を7%程度含む。厚層粘土を3%程度含む。厚層粘土を3%程度含む。層下部に押込土層片を多く含む。

Vd層：赤ナリ層土 (5Y4/2) キメが粗くクラサとした土質。0.5~3mmの白色礫を20%程度含む。黄色の硬質ブロックを5%程度含む。0.1mmの礫を20%程度含む。層下部に押込土層片を多く含む。しまりが非常に強い。

VI層：赤ナリ層土 (5Y4/3) 0.1mmの白色礫を10%程度含む。1~3mmの褐色ブロックを5%程度含む。0.1mmの礫を10%程度含む。層下部に押込土層片を多く含む。しまりがやや強い。

VII層：黄褐色土 (25YR7) 粘質。白色粒を2%程度含む。厚層粘土を3%程度含む。1cm黄色礫を3%程度含む。0.1mm黄色礫を3%程度含む。層下部に押込土層片を多く含む。しまりが非常に強い。

VIII層：黄褐色土 (25YR7) 水分を含むと粘質分が非常に強く、緻くと非常に硬くなる土質。1~3mmの褐色化礫1%程度含む。1cm黄色礫を3%程度含む。0.1mm黄色礫を3%程度含む。層下部に押込土層片を多く含む。しまりが非常に強い。

図 10 調査区北壁及び南東トレンチ土層断面図 (S=1/60)

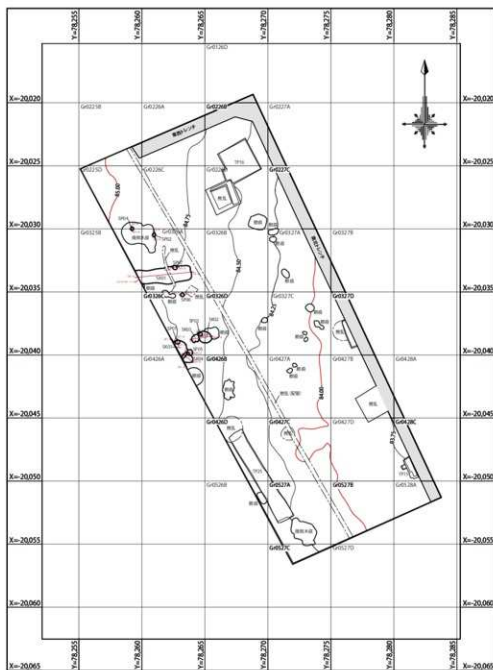


図11 IIIa 層上面平面図及び等高線図(S=1/300)

SK04

SK04はGr0426AにおいてSK01、SP05に切られた状態で検出した。長径は一部調査区外にあるが推定0.95m、短径はSK01に切られているが推定0.8mの楕円形で深さ約0.5mの土坑である。SK01と土質が類似する。

【SP】

SP01

SP01はGr0326CにおいてSK01完掘後に検出した。直径約0.3mの円形で深さ約0.6mのピット状遺構である。SK01と土質が類似しており、検出段階での前後関係は判別できなかった。埋土からは黒曜石片・土器の小

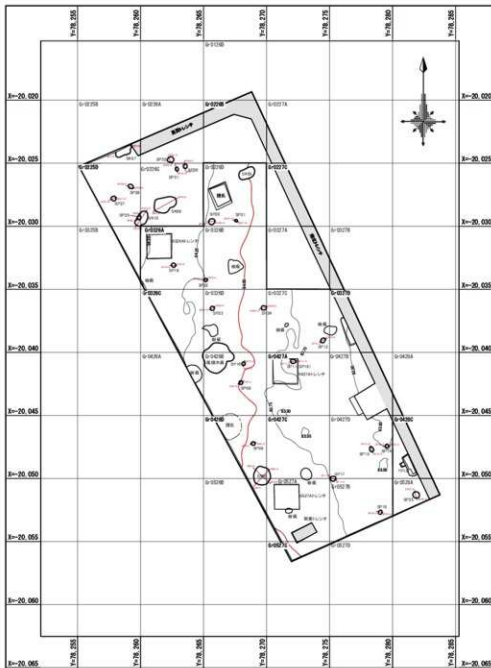


図12 IV層上面平面図及び等高線図(S=1/300)

片が出土した。

SP02

SP02はGr0326Aにおいて風倒木痕を除去後に検出した。直径約0.3mの円形で深さ約0.4mのビット状遺構である。性格は不明である。

SP03

SP03はGr0326AにおいてSK02完掘後に検出された。直径は推定約0.3mの円形で深さは推定0.6mのビット状遺構である。SK02と土質が類似しており、前後関係は判別できなかった。縄文時代後晩期土器の小片が出土した。

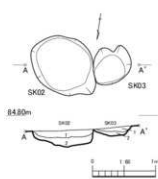


図 13 SK02・03 平面図及び断面図(S=1/60)

(SK02 土層注記)

- 1層：黒褐色土 (10YR3/1) 褐色ブロックを7%含む。中砂・白色粒を10%程度含む。しまりがやや強く、粘質である。
 2層：黒色土 (10YR2/1) 褐色ブロックを3%程度含む。中砂を少量含む。1層と比較してややしまりが弱い。
 縄文後晩期土器片を包含する。

(SK03 土層注記)

- 1層：黒褐色土 (10YR3/1) 褐色ブロックを7%含む。しまりがやや強く、粘質である。(SK02に同じ)
 2層：にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 褐色ブロックを15%程度。灰黄褐色土ブロックを15%程度含む。中砂～0.5cm程度の小礫を含む。しまりはやや弱い。

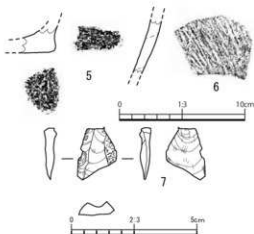
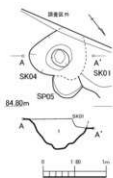


図 14 SK02 出土遺物実測図(土器：S=1/3、石器：S=2/3)



(SK04 土層注記)

- 黒褐色土 (10YR 3/2) 白色粒を3%程度含む。しまりが弱い。
 縄文後晩期土器片を包含する。

図 16 SK04 平面図及び断面図(S=1/60)

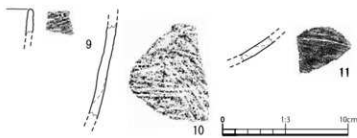


図 17 SK04 出土土器実測図(S=1/3)

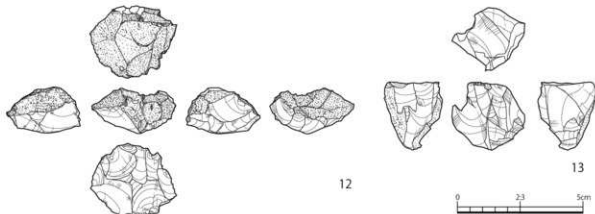


図 18 SK04 出土土器実測図(S=2/3)

表2 遺物観察表 (SK土器)

番号	ID	出土位置	種類・器種 形式・時期	部位	法量 (cm)			調整ほか特徴	色調 上段： 外道 下段： 内道	備考
					器高	口径	底径			
1	0624	0329C SK01 埋土	縄文後晩期 粗製深鉢	側	-	-	-	外] 赤灰 内] 赤褐色	0194/2灰褐色・0103/1 黒褐色 7, 0106/4にぶい・暗	外面に灰化物付着
2	0627	0329C SK01 埋土	縄文後晩期 15cm未満・16cm 中	口	-	-	-	外] 黒褐色 内] -	1015/2 オリーブ灰 1015/2 オリーブ灰	溝中は口縁直下に裾面を磨 製しそこから任意に縦溝を 高台方向に下ろす
5	0630	0329C SK02 1埋土	縄文後晩期 粗製深鉢	底	-	-	-	外] ナゲ 内] ナゲ	2, 0105/6明赤褐色 2, 0106/4にぶい・暗	現状状態不良
6	0631	0329C SK02 2埋土	縄文後晩期 粗製深鉢	側	-	-	-	外] 赤灰 内] ナゲ	10106/4にぶい・黄褐色 10106/4にぶい・黄褐色	
8	0633	0329C SK03 埋土	縄文後晩期 粗製深鉢	胴(肩直部)	-	-	-	外] 赤灰 内] 肩直部の上ナゲ, 下無道	10106/4にぶい・黄褐色 10106/4無道	外面に灰付着
9	0637	0329C SK04 埋土	縄文後晩期 粗製深鉢	口	-	-	-	外] 口唇部・横ナゲ, 口縁部: 貝 殻・骨組の上から横ナゲ 内] ナゲ	10106/3にぶい・黄褐色 10106/3にぶい・黄褐色	口唇部の横ナゲによりはみ 出した粘土をなでつくる
10	0638	0329C SK04 埋土	縄文後晩期 粗製深鉢	側	-	-	-	外] 赤灰 内] 丁寧なナゲ	7, 0105/25灰褐色 7, 0106/6にぶい・暗	外面に灰付着 前面部に粘土線粒付着
11	0645	0329C SK04 埋土	縄文後晩期 精製浅鉢	胴	-	-	-	外] ミガキ 内] ミガキ	7, 0106/3にぶい・暗 7, 0105/25灰褐色	器入品か。

表3 遺物観察表 (SK石器)

番号	ID	出土位置	機種	石材	法量				調整ほか特徴	備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重さ (g)		
3	3156	0329C SK01 埋土	刮片	黒曜石	2.30	2.00	0.80	2.88		
4	3155	0329C SK01 埋土	刮片	黒曜石	2.30	1.90	0.80	1.66		
7	3158	0329C SK02 手籠	刮片	黒曜石	2.20	1.50	0.60	1.11		
12	3159	0329C SK04 埋土	石球	黒曜石	1.90	3.80	2.90	12.41		空形
13	3160	0329C SK04 埋土	石球	黒曜石	2.60	2.50	2.50	13.16		上面に打面を取り縦長 刮片を取った後平坦な 自然面を打面にする

SP04

SP04はGr0326Aにおいて風倒木痕を除去後に検出した。直径約0.3mの円形で深さ約0.4mのビット状遺構である。性格は不明である。



図19 SP01 平面図及び断面図 (S=1/60)

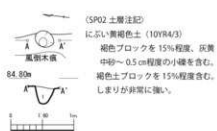


図20 SP02 平面図及び断面図 (S=1/60)

SP05

SP05はGr0326CにおいてSK01に切られた状態で検出した。直径約0.5mの円形で深さ約0.1mのビット状遺構である。縄文時代後晩期土器片と押型文土器を転用した円盤状土製品が出土した。



図21 SP03 平面図及び断面図 (S=1/60)

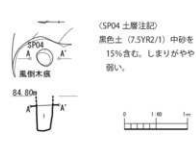


図22 SP04 平面図及び断面図 (S=1/60)

SP06

SP06はGr0326Cにおいて検出した。直径約0.3mの円形で深さ約0.4mのビット状遺構である。

SP07

SP07はGr0326AにおいてSX01完掘後に検出した。直径約40cmの円形で深さ約40cmのピット状遺構である。縄文時代後晩期土器片が出土した。



図23 SP05 平面図及び断面図 (S=1/60)

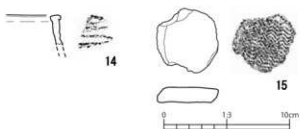


図24 SP05 出土遺物実測図 (S=1/3)



図25 SP06 平面図及び断面図 (S=1/60)



図26 SP07 平面図及び断面図 (S=1/60)

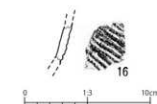


図27 SP07 出土土器実測図 (S=1/3)

表4 遺物観察表 (SP05・SP07出土土器)

番号	ID	出土位置	種別・器種 形式・特徴	部位	質量 (cm)			調査ほか特徴	色調 上段：外周 下段：内面	備考
					最大長	口径	底径			
14	0001	0326C SP05 2層	縄文後晩期 粗製深鉢	口	-	-	-	外] ココナデ、赤褐色 内] ココナデ、ナデ	10YR6/2に濃い黄褐色 10YR3/1黒褐色	口唇部のココナデの筋土を外と内になぞっているために段を有する
15	0003	0326A SP07 埋土	縄文後晩期 粗製深鉢	胴	-	-	-	外] 赤褐色 内] ナデ	2. 5YR6/6 10YR7/4に濃い黄褐色	

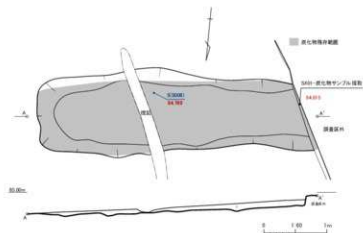
表5 遺物観察表 (SP05出土土製品)

番号	ID	出土位置	種別・器種 形式・特徴	残存状況	質量				調査ほか特徴	色調	備考
					最大長 (mm)	最大幅 (mm)	内径 (mm)	質量 (g)			
16	7000	0326C SP05 埋土	縄文後晩期 土器片	破片	3.0	4.4	1.3	33.9	外] 10YR6/2赤褐色 内] 5YR7/4ナデ	10YR7/4に濃い黄褐色	縄文後晩期のSP05出土土器片

【SX】

SX01

SX01は、Gr0326Aにおいて検出した。長径約4m、短径約1.5mの隅丸長方形で最深0.1mの炭化物が密集した遺構である。炭化物は非常に硬くしまっているが、周辺に焼土等の焼けた痕跡はなかった。炭化物については、自然科学分析(IV章(2)参照)によると古代(9世紀末～10世紀末)のものであることがわかった。このことから、本来はII c層より上位の遺構であると思われるが、後世に削平され遺構の底部のみが残存したものであると思われる。埋土からは小片の黒色土器片が1点、縄文時代後・晩期土器片、蔽石等が出土した。



〔SX01土層注記〕
黒色土(10%R1.7%)炭化物を50%程度含む。白色砂を15%程度含む。褐色ブロックを1%程度含む。しまりが強い。

図28 SX01 平面図及び断面図 (S=1/60)

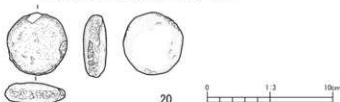


図30 SX01 出土石器実測図 (S=1/3)

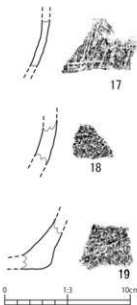


図29 SX01 出土土器実測図 (S=1/3)

表6 遺物観察表 (SX01出土土器)

番号	ID	出土位置	種別・器種 形式・時期	部位	法量〔cm〕			調整ほか特徴	色調 上段： 外表面 下段： 内表面	備考
					器高	口径	孔径			
17	0609	8328A S301層側	縄文後中期 削製瓦片	側	-	-	-	外】余灰 内】ナゲ	2. 5X6.6明赤褐色 2. 5X6.4に赤い斑	内面のナゲは丁家
18	0606	8328A S301層側	縄文後中期 削製瓦片	側	-	-	-	外】ナゲ 内】ナゲ	7. 5X6.4に赤い斑 7. 5X6.4に赤い斑	
19	0907	8328A S301層側	縄文後中期 削製瓦片	底	-	-	-	外】ナゲ 内】ナゲ	7. 5X6.3/2黒褐色 5X6.3/2黒褐色	

表7 遺物観察表 (SX01出土石器)

番号	ID	出土位置	機種	石材	法量				調整ほか特徴	備考
					長さ〔cm〕	幅〔cm〕	厚み〔cm〕	重さ〔g〕		
20	3001	8326A SX01上面	礫石、卵石	安山岩	4.90	4.90	1.00	47.88		断面全面を敲打面として、裏面を磨面としている

②III層の遺構

III層は前述のとおりIIIa層～IIIb層までの包含率が希薄と判断したため、IIIc層から遺構検出作業を行ったが、IIIc層もII層同様、遺構の判別が困難であったため、IV層上面での検出となった。IV層上面で土坑(SK05～07・09・10、08は樹根であったため欠番)、ビット状遺構(SP08～12、14、15～25、17～32、13、26は樹根であったため欠番、16は11と同一の遺構であったため欠番)を確認した。

【SK】

SK05

SK05はGr0226Dにおいて検出した。長径は約1.4m、短径約0.8mの楕円形で、深さ0.4mのテラス状の段を呈した土坑である。押型文土器片が出土した。

SK06

SK06はGr0426DとGr0526Bの境において検出した。直径約1.5mの円形で、深さ約0.9mの土坑である。断面は



図 31 SK05 平面図及び断面図(S=1/60)

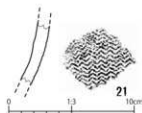


図 32 SK05 出土土器実測図(S=1/3)

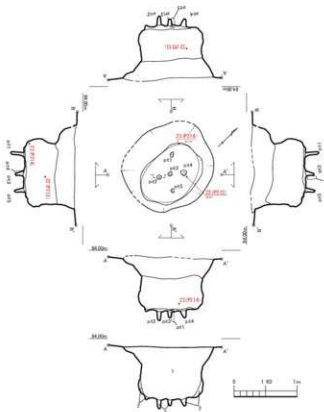


図 33 SK06 平面図・断面図・見直し図(S=1/60)

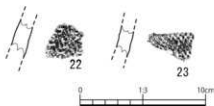


図 34 SK06 出土土器実測図(S=1/3)

(SK06 土層注記)
 1層：黄褐色土(10YR5/8) II b 層に類似している。下層に向かうにつれに濃い黄褐色土(10YR4/3)に変わる。にぶい黄褐色ブロック30%程度含む。黒褐色ブロックを1%程度含む。0.5～10cm 大の礫を1%程度含む。しまりは弱く粘質。織文土器(P213、P214)を包含する。落とし穴か。
 2層：黒褐色土(10YR3/2) 黄色粒を10%程度含む。中砂を15%程度含む。しまりは非常に弱く砂質。

表8 遺物観察表(SK05出土土器)

番号	ID	出土位置	種類・器形式・時期	部位	法量 (cm)			調査ほか特徴	色調 上段：外面 下段：内面	備考
					器高	口径	底径			
21	0644	02240 SK05 埋土	織文早期 浅鉢	底	-	-	-	外：押型文(山形) 内：ナメ	10Y7/2に濃い黄緑 10Y6/2に濃い黄緑	

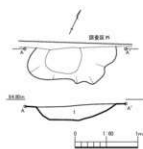
フラスコ状を呈し、底面に5基の小穴を確認した。島原市が過去に行った下油堀遺跡(2017)、長貫A遺跡(2019)において類似する遺構が確認されており、それらの遺構はおとし穴状遺構と考えられている。このことから、SK06も底面に確認された小穴を逆茂木ととらえるのであれば、おとし穴状遺構と考えられる。埋土からは押型文土器の薄片が2点出土した。

表9 遺物観察表 (SK06出土土器)

番号	ID	出土位置	種類 形式・持具	部位	法量 (cm)			調整ほか特徴	色調		上段：外面 下段：内面	備考
					高さ	口径	底径					
22	0001	04C5D SK06 P213	縄文早期 深鉢	胴	-	-	-	外】押型文 (山形) 内】ナデ	0106/6 0106/4(2.5)黄			
23	0002	04C5D SK06 P214	縄文早期 深鉢	胴	-	-	-	外】押型文 (横写) 内】ナデ	0107/4(黄赤) 0107/2(浅黄)			

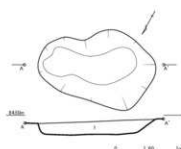
SK07

SK07はGr0225Bにおいて検出した。長径は約1.4m、短径は一部調査区外であるが、推定0.8mの楕円形で深さ約0.2mの土坑である。



SK07 土層注記)

黄褐色土 (10YR5/6) Hb 層に類似している。暗褐色ブロックを 30% 程度含む。黒色ブロックを 1% 程度含む (V 層由来か)。白色粒を 1% 程度含む。しまりが弱い。



SK09 土層注記)

黄褐色土 (10YR5/6) Hb 層に類似している。暗褐色ブロックを 30% 程度含む。黒色ブロックを 1% 程度含む (V 層由来か)。白色粒を 1% 程度含む。しまりが弱い。

SK09

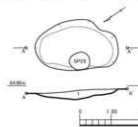
SK09はGr0226Cにおいて検出した。長径は約1.9m、短径は1.2mの楕円形で、深さは約0.2mの土坑である。

図 35 SK07 平面図及び断面図 (S=1/60)

図 36 SK09 平面図及び断面図 (S=1/60)

SK10

SK10はGr0225DとGr0226Cの境において検出した。長径は約1.3m、短径は約0.8mの楕円形で、深さは約0.2mの土坑である。



SK10 土層注記)

明黄褐色土 (10YR7/6) 小さな灰黄褐色ブロックを 15% 程度含む。白色粒を 5% 程度含む。しまりが強い。

【SP】

SP08

SP08はGr0426Dにおいて検出した。直径は約0.3mの円形で、深さは約0.3mのビット状遺構である。

図 37 SK10 平面図及び断面図 (S=1/60)

SP09

SP09はGr0426Bにおいて検出した。直径は約0.3mの円形で、深さは約0.2mのビット状遺構である。



SP08 土層注記)

黄褐色土 (10YR3/1) 白色粒・黄褐色粒をわずかに含む。しまりがやや強い。粘質やや強い。

図 38 SP08 平面図及び断面図 (S=1/60)

SP10

SP10はGr0426Bにおいて検出した。直径は約0.3mの円形で、深さは約0.2mのビット状遺構である。



SP09 土層注記)

黒色土 (2.5Y2/1) 白色粒をわずかに含む。しまりが弱い。

図 39 SP09 平面図及び断面図 (S=1/60)

SP11

SP11はGr0427Aにおいて検出した。直径は約0.5mの円形で、深さは約0.6mのビット状遺構である。縄文土器片が出土した。



SP10 土層注記)

黒色土 (10YR2/1) 白色粒をわずかに含む。中砂を 5% 程度含む。

図 40 SP10 平面図及び断面図 (S=1/60)

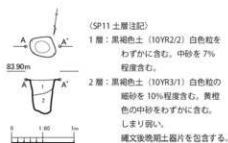


図41 SP11 平面図及び断面図(S=1/60)

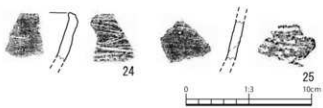


図42 SP11 出土土器実測図(S=1/3)

表10 遺物観察表(SP11出土土器)

番号	ID	出土位置	種類・器種 形式・時期	部位	法量 (cm)			調整ほか特徴	色調	上段 下段	外蓋 内蓋	備考
					厚さ	口径	直径					
24	0454	0427A SP11	縄文後晩期 粗製灰土	口〜胴	-	-	-	外】ヨコナガ、糸織 内】麻織板の上からナツ	0YR6.6程。 10YR6/2に多い黄緑 0YR6.6程			口唇部は底取りが行われ内側にわずかに突き出す
25	0455	0427A SP11	縄文後晩期 粗製灰土	胴	-	-	-	外】ヨコナガ、糸織 内】麻織板の上からナツ	10YR7/4に多い黄緑。2.0Y4/1黄灰 10YR7/4に多い黄緑。2.0Y4/1黄灰			

SP12

SP12はGr0327Cにおいて検出した。長径は約0.4m、短径は約0.3mの楕円形で深さ約0.1mのビット状遺構である。縄文土器の小片が出土した。

SP14

SP14はGr0427Dにおいて検出した。直径は約0.3mの円形で、深さは約0.4mのビット状遺構である。



図43 SP12 平面図及び断面図(S=1/60)



図44 SP14 平面図及び断面図(S=1/60)

SP15

SP15はGr0427Dにおいて検出した。長径は約0.4m、短径は約0.3mの楕円形で深さ約0.3mのビット状遺構である。

SP17

SP17はGr0427Dにおいて検出した。直径は約0.4mの円形で、深さは約0.2mのビット状遺構である。



図46 SP17 平面図及び断面図(S=1/60)

SP18

SP18はGr0527Bにおいて検出した。長径は約0.4m、短径は約0.3mの楕円形で、深



図45 SP15 平面図及び断面図(S=1/60)

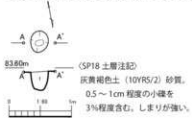
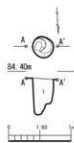


図47 SP18 平面図及び断面図(S=1/60)

さは約0.3mのビット状遺構である。

SP19

SP19はGr0326Aにおいて検出した。直径は約0.3mの円形で、深さは約0.6mのビット状遺構である。



(SP19 土層注記)
黒褐色土 (10YR3/2) 褐色粒を1%程度含む。炭化物を3%程度含む。中砂を2%程度含む。
キメが細かく、しまりが強い。

図 48 SP19 平面図及び断面図 (S=1/60)

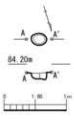


(SP20 土層注記)
灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘質。白色粒・黄色粒を3%程度含む。層下部に灰黄褐色ブロックを5%程度含む。

図 49 SP20 平面図及び断面図 (S=1/60)

SP20

SP20はGr0226Dにおいて検出した。直径は約0.5mの円形で、深さは約0.3mのビット状遺構である。



(SP21 土層注記)
にぶい黄褐色土 (10YR4/3) やや砂質。白色粒を3%程度含む。褐色ブロックを1%程度含む。

図 50 SP21 平面図及び断面図 (S=1/60)



(SP22 土層注記)
にぶい黄褐色土 (10YR4/3) やや砂質。白色粒を3%程度含む。褐色ブロックを1%程度含む。遺物を含む。

図 51 SP22 平面図及び断面図 (S=1/60)

SP21

SP21はGr0226Dにおいて検出した。長径は約0.3m、短径は約0.2mの楕円形で、深さは約0.1mのビット状遺構である。



(SP23 土層注記)
灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘質。白色粒・黄色粒を3%程度含む。層下部に灰黄褐色ブロックを5%程度含む。縄文後晩期土器片が出た。

図 52 SP23 平面図及び断面図 (S=1/60)



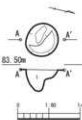
(SP24 土層注記)
にぶい黄褐色土 (10YR4/3) やや砂質。白色粒を3%程度含む。褐色ブロックを1%程度含む。

図 53 SP24 平面図及び断面図 (S=1/60)

SP22

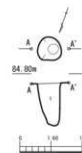
SP22はGr0326Bにおいて検出した。

直径は約0.3mの円形で、深さは約0.1mのビット状遺構である。



(SP25 土層注記)
にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 粗粒の土質に類似している。暗褐色・灰黄褐色ブロックを15%程度含む。中砂を3%程度含む。白色粒を3%程度含む。しまりが強い。

図 54 SP25 平面図及び断面図 (S=1/60)



(SP27 土層注記)
暗褐色土 (10YR3/3) にぶい黄褐色ブロックを3%程度含む。白色粒を1%程度含む。炭化物を1%程度含む。中砂～0.5cm 大の礫を3%程度含む。しまりがやや強い。縄文後晩期土器片を含む。

図 55 SP27 平面図及び断面図 (S=1/60)

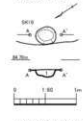
SP23

SP23はGr0326Dにおいて検出した。

直径は約0.3mの円形で、深さは0.3mのビット状遺構である。

SP24

SP24はGr0326Dにおいて検出した。直径は約0.4mの円形で、深さは約0.3mのビット状遺構である。



(SP28 土層注記)
にぶい黄褐色土 (10YR7/4) 暗褐色ブロックを3%程度含む。白色粒を1%程度含む。砂質でしまりが強い。

図 56 SP28 平面図及び断面図 (S=1/60)

SP25

SP25はGr0528Aにおいて検出した。直径は約0.5mの円形で、深さは約0.3mのビット状遺構である。

SP27

SP27はGr0225Dにおいて検出した。直径は約0.4mの円形で、深さは約0.7mのビット状遺構である。

SP28

SP28はGr0225Dにおいて検出した。直径は約0.3mの円形で、深さは約0.1mのビット状遺構である。

SP29

SP29はGr0225Dにおいて検出した。長径は約0.4m、短径は約0.3mの楕円形で、深さは約0.4mのビット状遺構である。黒曜石の剥片が出土した。

SP30

SP30はGr0226Cにおいて検出した。直径は約0.3mの円形で、深さは約0.1mのビット状遺構である。

表11 遺物観察表 (SP29出土石器)

番号	ID	出土位置	機種	石材	法量				調整ほか特徴	備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重さ (g)		
26	3164	0226C SP29 埋土	黒長剥片	黒曜石	2.90	1.50	0.60	1.17		

SP31

SP31はGr0226Cにおいて検出した。直径は約0.3mの円形で、深さは約0.1mのビット状遺構である。

SP32

SP32はGr0226Aにおいて検出した。長径は約0.5m、短径は約0.4mの楕円形で、深さは約0.3mのビット状遺構である。



図 59 SP30 平面図及び断面図 (S=1/60)

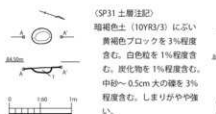


図 60 SP31 平面図及び断面図 (S=1/60)

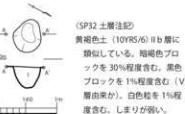


図 61 SP32 平面図及び断面図 (S=1/60)

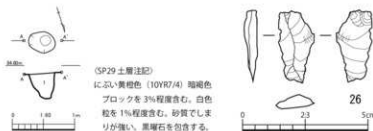


図 57 SP29 平面図及び断面図 (S=1/60)



図 58 SP29 出土石器実測図 (S=2/3)

(4) 遺物

今回の調査で包含層から出土した土器は縄文土器が大半を占める。このことから、縄文土器を報告するにあたり、『九州縄文文化の研究-九州からみた縄文文化の枠組み-』（水ノ江和同2012）を参考とし、その他研究内容や既刊の報告事例を勘案し、土器分類を以下のとおりにした。

- ・第Ⅰ群土器：山形押型文土器
- ・第Ⅱ群土器：楕円押型文土器
- ・第Ⅲ群土器：格子目押型文土器
- ・第Ⅳ群土器：貝殻文円筒形土器
- ・第Ⅴ群土器：燃糸文土器
- ・第Ⅵ群土器：貝殻刺突文土器
- ・第Ⅶ群土器：無文土器

- ・第Ⅷ群土器：貝殻条痕土器で胴部の厚さが5mm以下のもの
- ・第Ⅸ群土器：組織痕土器
- ・第Ⅹ群土器：黒色磨研土器
- ・第Ⅺ群土器：第Ⅰ～Ⅸ群以外のもの

② I層の遺物

I層は、耕作土とトレンチャー痕を示す。遺物はビニール紐等現代の廃棄物と共に出土した。

1～9は、縄文時代後晩期にあたる土器片である。うち、3・4・6・7は第Ⅷ群類、8・9は第Ⅹ群類、1・2・5は第Ⅺ群類である。1は深鉢の口縁部で、いわゆるタガ状口縁である。口縁部文様帯で2条の沈線を施す。2は浅鉢の口縁部で、口唇部に粘土でヒレ状の突起を施す。3は深鉢の口縁部から胴部で、外面は横位方向に貝殻条痕調整、内面は横位および斜位方向に貝殻条痕調整を施す。4は深鉢の口縁部から胴部で、外面に貝殻条痕調整を施す。5は頸部から肩部で、1の頸部をもつ深鉢の一群と思われる。頸部と肩部の付け根に蝶ネクタイ状の貼付文を施す。6は深鉢の底部で、底面が分厚く、貝殻条痕調整を施す。7は深鉢の底部だが、6に比べ底面は薄くやや張り出す。8は浅鉢の底部から胴部である平底で底面が上げ底になる。外面は胴部に磨きを施す。内面はほぼ欠損している。9は浅鉢の底部である。形状は丸みを帯びるが、底面が僅かに上げ底である。外面に2条の沈線を施す。

10・11は弥生時代後期の甕口縁部である。10はやや口唇部が肥厚し垂れ下がる。11は口縁部が立ち上がる。

12～16は土製品である。14は蝶形の型押し土製品である。裏面は無文で外面に向かって湾曲する。15は

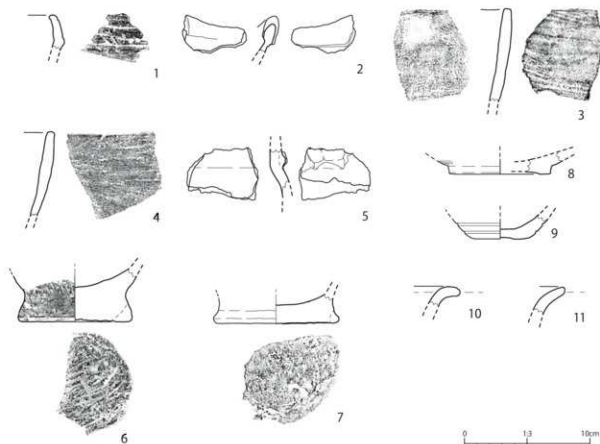


図62 I層出土土器実測図(S-1/3)

時期不明の土鈴片である。15・16についてはトレンチャー痕より出土した。12は、瓦質土器を転用したメソコである。13・16は時期不明の土鐘である。17～20は石器である。17はトレンチャー痕より出土した。17は黒曜石製の石錐で、基部は欠損している。剥片の一端に両側から加工調整を施し、錐部は短い。18は結晶片岩製の打製石斧である。楕円形で全体的に欠損と加工痕の区別が不明瞭だが、基部の厚さはほぼ均一で刃部は薄く刃端部はやや加工したかと思われる痕跡がみられる。結晶片岩は脆く石斧としては不向きだが、島原市の稗田原遺跡(長崎県教育委員会2007)や南島原市の東大窪遺跡(南島原市教育委員会2018)等、島原半島域で類例がみられるため、今回はこの位置付けとした。19は磨り痕のみられる小型の円形の蔽石である。石材は不明で石器全体に磨り痕、側面全体に敲打痕がみられる。20は小型の乳棒状の蔽石である。上下面に敲打痕がみられる。

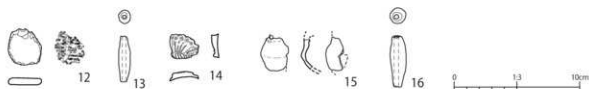


図 63 I 層出土土製品実測図(S-1/3)

表12 I 層出土土器観察表

番号	ID	出土位置	種類 形状・時期	類似	法量 (mm)			調整痕の特徴	色調		備考
					最大長	口径	壁厚		上段: 下段:	外面: 内部:	
1	6026	表土	縄文前期 地物残片	○	-	-	-	外】瓦質 内】ナツ	0100/02-01-1(地物)	ナツ片(1)	
2	6021	表土	縄文前期 地物残片	○	-	-	-	外】コナツ片、ナツ 内】コナツ片、ナツ	0100/02-01-1(地物)	ナツ片(1)	
3	6024	表土	縄文前期 地物残片	○	-	-	-	外】瓦質 内】地物残片	0100/02-01-1(地物)	ナツ片(1)	
4	6023	表土	縄文前期 地物残片	○	-	-	-	外】瓦質 内】瓦質	0100/02-01-1(地物)	ナツ片(1)	
5	6026	表土	縄文前期 地物残片	○	-	-	-	外】瓦質 内】ナツ	0100/02-01-1(地物)	ナツ片(1)	
6	6046	表土	縄文前期 地物残片	○	-	-	6.4	外】ナツ 内】ナツ	0.3107/02-01-1(地物)	0.3106/02-01-1(地物)	地物(1)と上段(1)あり
7	6041	表土	縄文前期 地物残片	○	-	-	6.2	外】ナツ 内】ナツ	0.3107/02-01-1(地物)	0.3107/02-01-1(地物)	
8	6026	表土	縄文前期 地物残片	○	-	-	6.0	外】ナツ 内】ナツ	0.3107/02-01-1(地物)	0.3106/02-01-1(地物)	
9	6026	表土	縄文前期 地物残片	○	-	-	4.8	外】ナツ 内】ナツ	0.3106/02-01-1(地物)	0.3106/02-01-1(地物)	
10	6026	表土	縄文前期 地物残片	○	-	-	-	外】コナツ 内】コナツ	0.3106/02-01-1(地物)	0.3106/02-01-1(地物)	
11	6048	表土	縄文前期 地物残片	○	-	-	-	外】コナツ 内】コナツ	0.3106/02-01-1(地物)	0.3106/02-01-1(地物)	

表13 I 層出土土製品観察表

番号	ID	出土位置	種類 形状・時期	保存状況	法量				調整痕の特徴	色調	備考
					最大長 (mm)	最大幅 (mm)	口径 (mm)	厚さ (mm)			
12	7063	表土	メソコ	北側	2.8	2.7	6.6	4.9	外】地物 内】ナツ	0100/02-01-1(地物)	瓦質土器を転用
13	7061	表土	土鐘	北側	2.6	1.1	2	2.6	-	0100/02-01-1(地物)	
14	7062	表土	打製石斧	北側	2.3	1.8	6.3	2.8	-	0100/02-01-1(地物)	種から黒曜石製を推定しているが、黒曜石であるか否かの判断は不明。軸は磨り痕で調整された痕跡をみられる。
15	7042	6023 トレンチャー	土鐘	北側	(2.4)	(2.2)	(6.6)	(3.9)	-	0100/02-01-1(地物)	種から黒曜石製を推定しているが、黒曜石であるか否かの判断は不明。軸は磨り痕で調整された痕跡をみられる。
16	7013	6023 トレンチャー	土鐘	北側	4.9	3.3	3	4.2	-	0100/02-01-1(地物)	

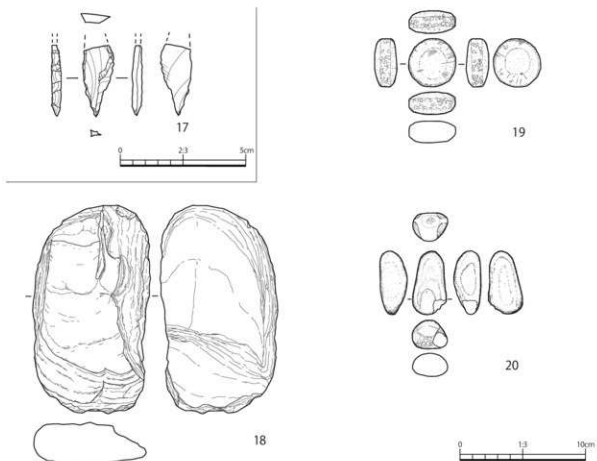


図64 I層出土石器実測図(17はS=2/3、S=1/3)

表14 I層出土石器観察表

番号	ID	出土位置	機種	石材	質量				調整ほか特徴	備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重さ (g)		
17	3171	9527A トレンチャー	石鏃	黒曜石	2.80	1.30	0.40	1.22	細長削片の右側面を加工調整	基部欠損
18	3109	表土	打製石斧	結晶片岩	16.50	9.50	3.30	726.33		水磨された原石に敲打による調整
19	3111	表土	磨石、敲石	不明	3.80	3.70	1.80	32.80		側面全周を敲打面として正面・後面の両面を磨削している
20	3113	表土	敲石	火山岩	5.00	2.80	2.20	37.55		下面と上面に敲打痕と右側面に磨痕

② II層の遺物

II層はa～c層に細分した。

・IIa層

21～36はIIa層から出土した遺物である。21～28は縄文時代後晩期にあたる土器片である。うち21～24は第VIII群類、25は第XI群類、26～28は第X群類である。21～24は深鉢の口縁部である。21は口縁部から胸部に向かいほぼ垂直になり、器厚は薄く、外面に横位及び斜位方向の貝殻条痕調整を施す。22は口縁部から胸部に向かい、ボウル状をなす。外面は横位方向の貝殻条痕調整を施す。内面は貝殻条痕調整の後ナデ調整を施す。外面の全体に炭化物が付着している。23の口唇部はやや肥厚し、内湾する。外面は横位方向の

貝殻条痕調整を施す。内面は斜位方向に貝殻条痕調整を施す。24は貝殻条痕調整の後、口唇部に粘土でヒレ状の突起を施す。内面に突起を施した際についた指頭痕がみられる。25は深鉢の底部である。復元底径10.8cmの平底で張り出さない。底面には土器製作時に用いられたと思われる砂粒が全面に付着している。外面はナデ調整を施す。26～28は浅鉢の口縁部である。26は内外面に丁寧に磨き、外面に沈線で模様を施す。27は口唇部の内側に段を作り、短い頸部を持ち肩部はやや張り出す。内外面に丁寧にナデ調整を施しているが、焼成が甘く調整が不明瞭な箇所もみられる。28は口唇部の内側に段を作り、短い頸部を持つが、肩部は張り出さずやや間延びする。内外面全体に丁寧な磨き調整を施す。外面の肩部下位に薄くススが付着する。

29は中世の輸入磁器皿片で、染付皿の口縁部である。中国明代(15～16世紀)頃のもので、大きく端反り、薄造りである。口唇部に1条、見込に2条の圈線を施す。30は白磁の瓶等を転用したメンコである。時期は近世で、肥前磁器を用いている。外面には透明釉を施し、内面は無釉である。

31～36は石器である。31～33は黒曜石の剥片類である。31は使用痕のある縦長剥片である。32は加工痕のある剥片である。33は縦方向に連続剥離を行った後、横方向に剥離作業を行なったもので打面再生剥片の可能性ある。

35は安山岩製のスクレイパーである。36は在地系の石材の研磨具である。

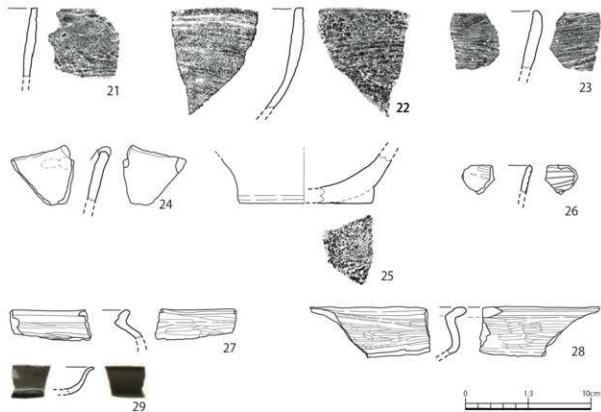


図 65 IIa層出土土器実測図(S=1/3)



図 66 IIa層出土土製品実測図(S=1/3)

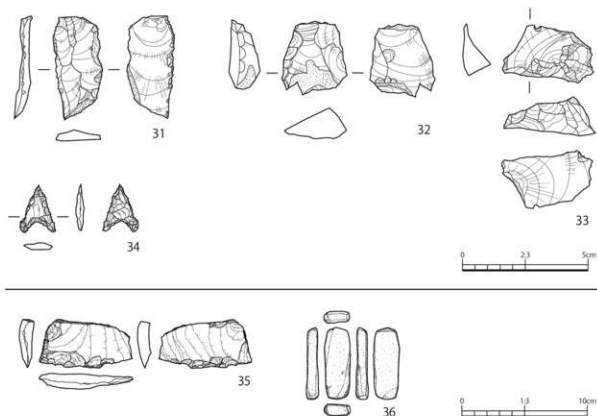


図 67 IIa層出土石器実測図(31~34はS=2/3、S=1/3)

表15 IIa層出土石器観察表

番号	ID	出土位置	種類 形式・時期	部位	法量 (cm)			調整ほか特徴	色調	上段 下段	外面 内面	備考
					長さ	口径	厚					
21	0301	0226B Ⅱa層	縄文晩期 割製片刃	片	-	-	外】ヨコナギ、貝殻表面 内】ヨコナギ、貝殻表面	H092/412.254・高徳 H093/412.254・高徳				
22	0299	0226B Ⅱa層	縄文晩期 割製片刃	片	-	-	外】貝殻表面 内】貝殻表面 残ナギ	H096/412.254・高徳 H096/412.254・高徳			外面に皮化動物着	
23	0300	0226B Ⅱa層	縄文晩期 割製片刃	片	-	-	外】貝殻表面 内】貝殻表面	H097/412.254・高徳 H097/412.254・高徳				
24	0316	0428C Ⅱa層	縄文晩期 割製片刃	片	-	-	外】ヨコナギ、貝殻表面 残ナギ 内】ヨコナギ、ナギ	2.037/4皮質 2.038/412.254・高徳			ヒレ状突起	
25	0298	0428A Ⅱa層	縄文晩期 割製片刃	片	-	10.8	外】ナギ 内】ナギ	2.038/412.254・高徳 2.038/412.254・高徳			片表面に製作時の砂付着	
26	0312	0427C Ⅱa層	縄文晩期 割製片刃	片	-	-	外】ヒコナギ 内】ヒコナギ	2.038/4皮質 2.035/4明赤褐色			外面に砂目	
27	0296	0226D Ⅱa層	縄文晩期 割製片刃	片	-	-	外】ヨコナギ、ヒコナギ 内】ヒコナギ、動物皮	H093/4皮質 H093/4皮質				
28	0285	0226B Ⅱa層	縄文晩期 割製片刃	片	-	-	外】ヒコナギ 内】ヒコナギ	2.037/1黒 2.037/1黄泥			ヒコナギ以外表面ともに横紋	
29	0304	0326B Ⅱa層	現代染付遺 15C 枝~16C前	片	-	-	外】 内】口唇部に1条、見込み2条の 筋線	042/1明青泥 042/1明青泥			横紋あり	

表16 IIa層出土土製品観察表

番号	ID	出土位置	種類 形式・時期	残存状況	法量				調整ほか特徴	色調	備考
					最大長 (cm)	最大幅 (cm)	口径 (cm)	重さ (g)			
30	7042	0226 Ⅱa層	メソリ	完整	2.7	2.7	0.4	0.8	①] 滑り肌 ②] 無紋	042/1白 042/1白	右側面に刃状突起

表17 IIa層出土石器観察表

番号	ID	出土位置	機種	石材	法量			調整ほか特徴	備考		
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (mm)				
31	3123	0126B Ⅱa層	0335	使用痕のある剥片	黒曜石	4.10	1.80	0.50	3.82		右側面に刃こぼれ
32	3127	0127B Ⅱa層		調整痕のある剥片	黒曜石	2.70	2.60	1.20	6.3		使用痕あり

番号	ID	出土位置	機種	石材	法量				調整ほか特徴	備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重さ (g)		
33	3119	R229D 目土層	剥片	黒曜石	3.10	2.00	0.40	6.82		
34	3121	R3276A 目土層	石鏃	黒曜石	1.80	1.40	0.30	0.48		完形
35	3120	R229D 目土層	スクレイパー	安山岩	5.80	7.40	1.20	31.95		下面と右側面に調整
36	3125	R327A 目土層	研磨具	安山岩	5.70	2.19	1.00	36.04		全面使用

・ II b層

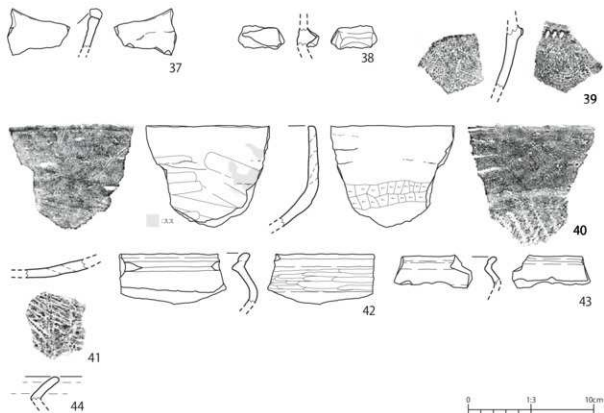


図 68 II b 層出土土器実測図 (S=1/3)

37～51はII b層の出土遺物である。37～43は縄文時代後晩期にあたる土器片である。37～40は第IX群、41は第IX群、42・43は第X群である。37は深鉢の口縁部である。口唇部に粘土でヒレ状の突起を施す。38は深鉢の頸部である。頸部と肩部の付け根に蝶ネクタイ状の貼付文を施す。39は深鉢の胴部である。胴部に帯状の突起を貼り付け、刻目を施したいわゆる刻目突起帯文である。40は浅鉢の口縁部から胴部である。胴部下位にアングンの組織痕がみられる。器形が立ち上がる位置で、外面に帯状のケズリ調整を左回転に施す。内面は磨き調整を施す。胴部上位に粘土帯がみられ、制作工程がわかる資料となる。内面にはススが付着する。41は浅鉢の底部である。外面に組織痕がみられるが、アングンの一種か。42・43は浅鉢の口縁部から胴部である。42は口唇部の内側に段を作り、内面に張り出した短い頸部を持つ。肩部はやや間延びして張り出す。43は口唇部に段を作り、短い頸部を持つ。肩部は短く延び、やや張り出す。

44は弥生時代後期にあたる甕の口縁部である。器厚は薄く、口唇部が短く立ち上がっている。

45～49は石器である。45・46は黒曜石製の石器である。45は石核である。全面において連続的に剥離作

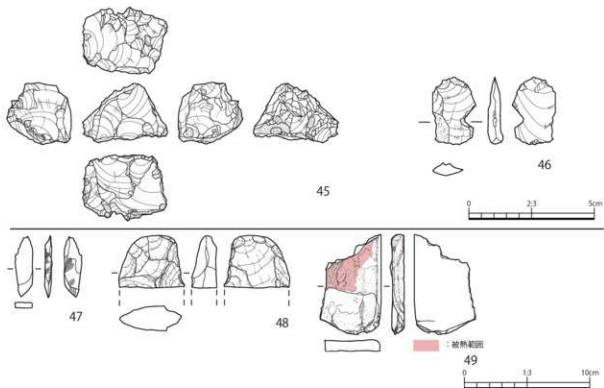


図 69 IIb層出土石器実測図 (45・46はS=2/3、47～49はS=1/3)

業を行なっている。46は加工痕を持つ剥片である。剥片の一部に挟り加工が施されている。47は蛇紋岩製の磨製石斧の刃部片である。大部分が肌理に沿って欠損しているが刃部周辺には研磨痕がみられる。48は打製石斧の基部である。石斧の全体が風化しているが、打面が確認できる。49は砂岩製の砥石片である。部分的に被熱している。砥ぎ面が部分的に剥離している。

50は小型の袋状鉄斧である。全長 6.3cm、刃部幅は 3.4cm、袋部は幅約 3cmで内側の一部に木質が残存する。



図 70 IIb層出土鉄器実測図(S=1/3)

・ IIc層及びIIIa層上面

IIc層およびIIIa層の上面においては、範囲確認調査の結果、遺物が集中して出土すると想定し、親指大の遺物は全て点上げた(図71)。調査区の中央から北東部に遺物が集中している。その中でもGr0226Bに土器片が集中し、Gr0327Cには黒色磨研土器の浅鉢片が集中している。調査区北西付近に遺物が見られないのは、II層が削平され、III層まで達しているためである。調査区南側では遺物出土数が減少する。

51～88は縄文時代後晩期にあたる土器片である。51～61・63・64・68～69・71～72は第VIII群、62・65～67・70・73・87・88は第XI群、74～81は第IX群、82～86は第X群である。51～67は深鉢の口縁部である。51は口唇部が平たく、口縁部から胴部に向けてボウル状をなす。外面は貝殻条痕調整を施す。内面はナデ調整を施す。52は口唇部がやや平たい。内外面に貝殻条痕調整を施し、内面はその上からナデ調整を施す。53

表 18 IIb層出土土器観察表

番号	ID	出土位置	種類 器種 形式・時期	部位	法量 (cm)			調整ほか特徴	色調 上段： 外面 下段： 内面	備考
					高さ	口径	底径			
27	0321	0320B 目b層	縄文後中期 割製片鉢	口	-	-	-	内] ココナツ、断面 内] ココナツ、断面	10386/311.55-真鍮 10386/311.55-真鍮	ヒレ状突起
38	0341	0320B 目b層	縄文後中期 割製片鉢	胴	-	-	-	内] 糠ホケタイ状貼付突起 内] ナデ	2. 3186/4真鍮 2. 3186/4真鍮	
39	0347	0427A 目b層	縄文後中期 割製片鉢	胴	-	-	-	内] 割製突起、ナデ 内] ナデ	10386/4真鍮 10386/4真鍮	縦断面に粘土線接合時の跡
40	0320	0220B 目b層掘出	縄文後中期 割製片鉢	口~胴	-	-	-	内] ナデ、ナマリ 内] 組紐痕(アランゲン) 内] ナデ	7. 3187/411.55-真鍮 5185.6割赤銅 7. 3186/411.55-真鍮	胴曲面上り上位に×4段の粘土線跡上り及び痕あり
41	0351	0427A 目b層	縄文後中期 割製片鉢	底	-	-	-	内] 組紐痕 内] ナデ	10386/4真鍮 10386/4真鍮	
42	0340	0420B 目b層	縄文後中期 割製片鉢	口	-	-	-	内] ミガキ 内] ミガキ	10197/211.55-真鍮 10386/411.55-真鍮	ミガキは内外面ともに横状
43	0349	0427A 目b層	縄文後中期 割製片鉢	口~胴	-	-	-	内] ミガキ 内] ミガキ	10197/211.55-真鍮 10197/211.55-真鍮	
44	0353	0427B 目b層	弥生後期 甕	口	-	-	-	内] ココナツ 内] ココナツ	10386/9真鍮 10386/9真鍮	

表 19 IIb層出土土器観察表

番号	ID	出土位置	機種	石材	法量				調整ほか特徴	備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (mm)	質量 (g)		
45	3131	0327A 目b層	石鉢	黒曜石	2.40	3.50	2.50	36.98		定形
46	3129	0327A 目b層	加工痕のある割片	黒曜石	2.40	1.60	0.60	1.39	決り	
47	3128	0320B 目b層	磨製石斧(片刃)	蛇紋岩	4.90	1.40	0.60	6.14	左側面に調整痕あり	表面は割落
48	3134	0427C 目b層	打製石斧	火山岩	4.20	5.20	2.00	47.84		基部のみ残
49	3133	0427A 目b層	砥石	砂岩	8.90	4.80	1.10	76.64		部分 破損により希薄

表 20 IIb層出土金属製品観察表

番号	ID	出土位置	機種	石材	法量				調整ほか特徴	備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (mm)	質量 (g)		
50	9001	0327C 目b層掘削	筒状鉄斧	鉄	6.3	3.3	1.7	41.27	胴部から両刃の外部に かけて線やかに彫込になる	胴内部に木質が付着

の外面は横位方向に貝殻条痕調整を施す。内面は斜位方向に貝殻条痕調整の後、ナデ調整を施す。54の外面は横位方向に貝殻条痕調整を施す。内面はナデ調整を施す。55は口唇部に刻目がみられる。外面は横位方向に貝殻条痕調整を施す。内面はナデ調整を施す。56の口唇部はやや丸みを帯びる。内外面に横位方向に貝殻条痕調整の後ナデ調整を施す。57の口唇部はやや傾斜するため、波状口縁か、外面は口縁部付近にナデ調整を施し、下位は横位方向に貝殻条痕調整を施す。58の口唇部は薄づくりで、やや内傾する。外面は横位方向に強い貝殻条痕調整を施す。内面は横位方向に貝殻調整痕の後ナデ調整を施す。59~62は胴部上位に屈曲部を持つ深鉢の口縁部である。これらの口縁部は胴部の屈曲部から内反する形をとる。59は内外面に横位方向の貝殻条痕調整を施す。60は外面に強い貝殻条痕調整を施す。内面はナデ調整を施す。61は小片のため斜角は定かではないが、条痕の角度などからほぼ直立からやや内傾するか、内外面に貝殻条痕調整を施す。62は内傾し、口唇部が外反する。内外面にナデ調整を施す。63は深鉢の口縁部で、粘土でヒレ状の突起を施す。内外面に貝殻条痕を施す。64は深鉢の口縁部で、粘土でヒレ状あるいはリボン状の突起を施す。外面は貝殻条痕調整の後ナデ調整を施す。65・66は深鉢の口縁部で、いわゆるタグ状口縁である。65は口唇部が欠損しているが、外面に最低でも2条の沈線が施されていることがわかる。66は沈線が施さないもので口縁部は大きく外傾する。67は深鉢の口縁部で、外反し器壁はやや厚さがある。内外面にナデ調整を施す。68~70は深鉢の胴部から底部である。68は平底で張り出しをもつ。胴部の外面

は斜位方向に貝殻条痕調整、底部の外側はナデ調整を施す。内側はナデ調整を施す。69は平底で張り出しを持ち、底面の厚さは薄い。内外側はナデ調整を施す。70は平底で内外面にナデ調整を施す。底面の周囲

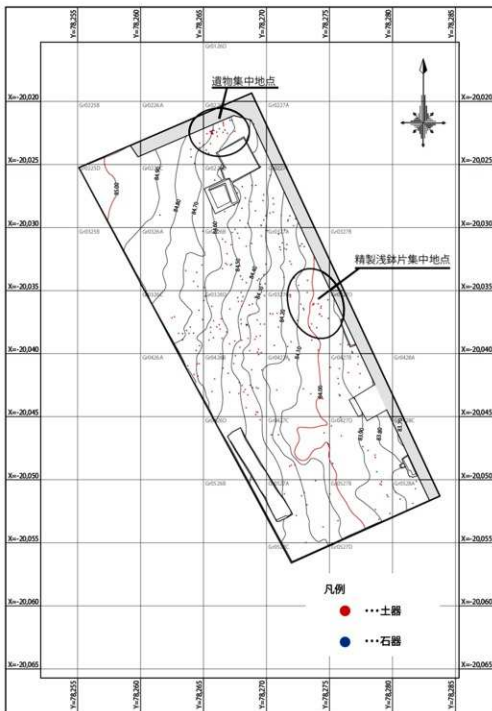


図 71 III a層上面遺物出土状況 (S=1/300)

に粘土帯で張り出しを作り出している。71～73は浅鉢の口縁部である。71は口唇部に粘土でヒレ状の突起を施す。内外面はナデ調整を施す。72の口唇部は平らで、胴部に向けてボウル状をなす。外面は貝殻条痕調整を施す。内面は横位方向に貝殻条痕調整の後ナデ調整を施す。73は口唇部を内側に折り曲げており、口縁部から胴部に向けてボウル状をなす。器厚は薄く、外面は擦過後ナデ調整を施す。内面はナデ調整

を施す。74～77は浅鉢の口縁部である。74は口縁部の外面に横位方向の貝殻条痕調整を施す。胴部の外面にはアンギンの組織痕がみられる。75は外面に斜位方向の貝殻条痕調整を施す。内面はナデ調整を施す。口縁部は厚く、胴部に組織痕がみられる土器と思われる。76の口唇部は平らで、強いヨコナデ調整の影響でやや潰れている。口縁部の外面は貝殻条痕調整を施す。胴部の外面は目の粗い網目の組織痕がみられる。77は口縁部の外面に粗いナデ調整を施す。胴部はアンギンの組織痕がみられる。78・79は浅鉢の胴部である。78は口縁部上位を欠損しているが、口縁部の外面は貝殻条痕調整を施す。胴部は網目の組織痕がみられる。79は器厚の一部が縦に厚く膨らむことから、粘土の繋ぎ目部分の可能性がある。外面には籠目の組織痕がみられる。80・81は浅鉢の胴部から底部である。胴部と底部の境界に粘土帯がみられる。外面はアンギンの組織痕がみられる。81の外面はアンギンの組織痕がみられる。82は浅鉢の口縁部である。胴部から口縁部にかけて外反し、口唇部の内側に玉縁を持つ。内外面は丁寧な磨き調整を施す。83は浅鉢の口縁部から胴部である。復元径は25.4cmである。口唇部の内側に段を作り、短い頸部が内側に張り出す。肩部は短く、間延びする。内外面は丁寧な磨き調整を施す。胴部下位の内側に指頭痕がみられる。84は浅鉢の口縁部から肩部である。83に比べて口縁部は立ち上がり、肩部はほぼ真下に間延びする。口唇部に段を作り、短い頸部はやや張り出す。内外面は細かく丁寧な磨き調整を施す。85は浅鉢の口縁部である。内外面は丁寧な磨きを施す。内面はやや赤く、赤色顔料が付着していると思われる。86は浅鉢の胴部である。内外面に丁寧な磨きを施す。外面には不規則で細い沈線が施されている。87は小型の浅鉢である。口唇部に粘土でヒレ状の突起を施す。内外面はナデ調整を施す。外面には不規則で細い沈線が施されている。88は浅鉢の口縁部である。胴部から口縁部に向け内反する。内外面はナデ調整を施す。外面には2条以上の突帯を作り、部分的に押圧する文様を施す。

89は弥生後期にあたる土器の胴部である。断面方形の突帯に細い刻目を施す。

90～104は石器である。90は黒曜石の石核である。剥離面を打面として連続剥離作業を行なっているが、部分的に自然面が残る。91～95は黒曜石の剥片類である。91は右側面に自然面を残し、左側面の鋭利な剥離部分に使用痕が残る。92は表面に複数回にわたる連続剥離痕、左側面に加工痕、右側面に使用痕が残る。93は右側面の裏に加工痕を残す。94は縦長剥離の基部の左側面を加工する。95は左側面の基部と右側面の自然面に加工痕を残す。右側面の下半に加工痕と使用痕を残す。96は黒曜石製の石鏝である。刃部を加工した後基部に抉りを入れる。97・98は安山岩の剥片類である。97は右側面に加工痕を残す。98は表面右側に自然面を残し、左側面に使用痕を残す。99は安山岩製のスクレイパーである。右側面に自然面を残し、右側面を刃部としたか。100は扁平打製石斧である。基部が欠損しており、加工は側面のみに行なっている。刃部の先端に使用痕がみられる。101は在地系の石材を用いた敲石である。裏表平坦面を持つ円形で、側面3か所に敲打痕を持つ。102は砂岩製の砥石片である。両面に磨り痕が、表面には4条の溝がみられる。103・104は土器製作用の使用が想定される石器である。2点ともに研磨具か。103は先端に、104は表面の左側に摩耗がみられる。

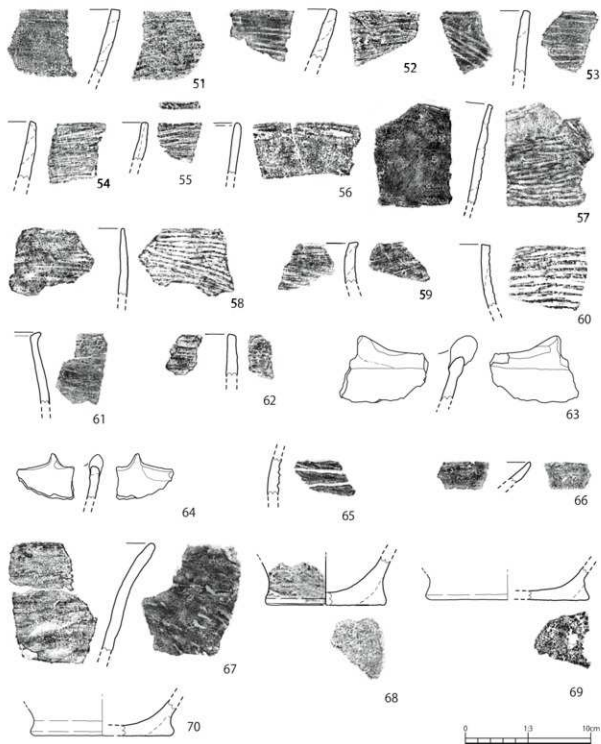


图 72 IIc 层出土土器实测图 (S=1/3)

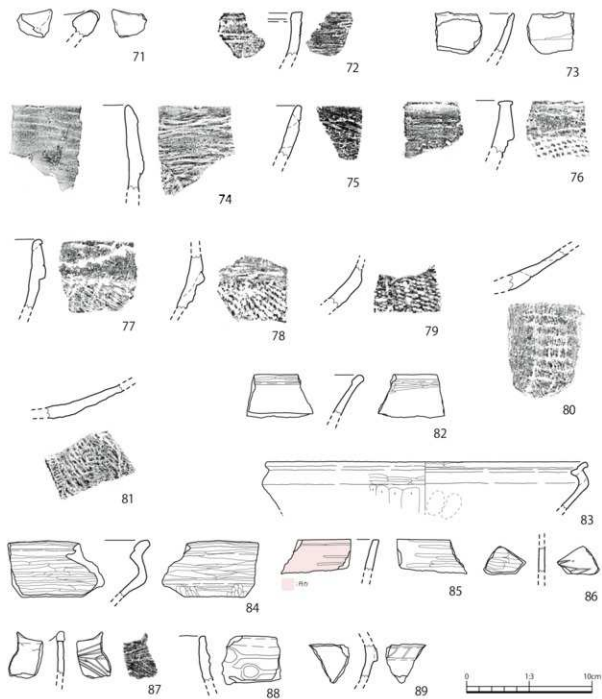


图 73 IIc層出土土器実測図 (S=1/3)

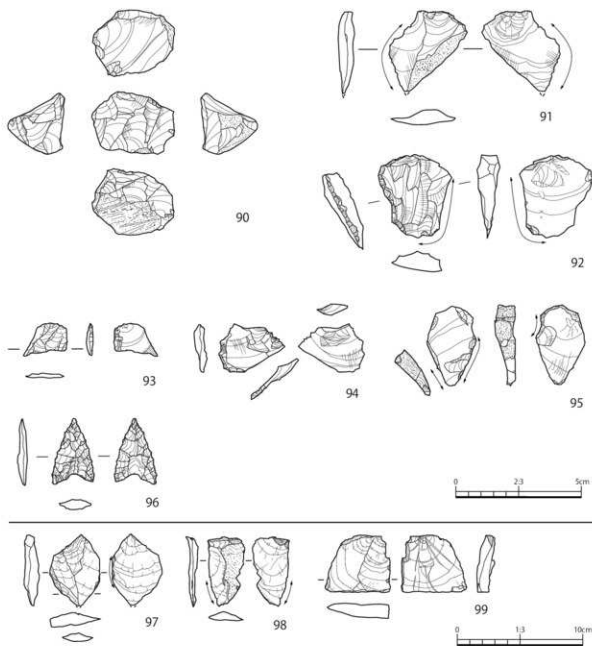


図74 IIc層出土石器実測図(90~96はS=2/3、97~99はS=1/3)

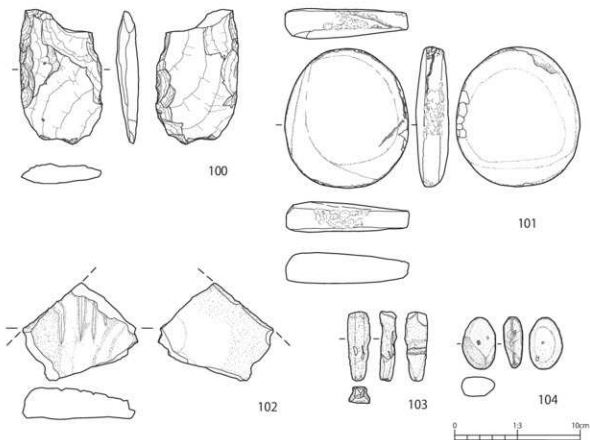


図 75 IIc層出土石器実測図(S=1/3)

表 21 IIc層出土石器観察表

番号	ID	出土位置	種類 器種 形式・時期	部位	法量 (cm)			観察ほか特徴	色澤 上層： 外周 下層： 内面	備考
					長さ	口幅	厚			
51	0095	94200 墓・層 P104	縄文後中期 乱製石斧	口	-	-	-	Ⅱcコナツテ、具段条痕後ナツテ Ⅱcコナツテ、ナツテ	019/06/412.25V+黄銅 019/05/412.25V+黄銅	破断面に粘土結核含
52	0091	94200 墓・層 P133	縄文後中期 乱製石斧	口	-	-	-	Ⅱc具段条痕後脚部 Ⅱc具段条痕後ナツテ	2.515/0807黄 2.514/4黄	破断面に粘土結核含
53	0040	93200 墓・層 0072	縄文後中期 乱製石斧	口	-	-	-	Ⅱcコナツテ、具段条痕後ナツテ Ⅱcコナツテ、具段条痕後ナツテ	2.5106/4黄 019/06/412.25V+黄銅	破断面に粘土結核含
54	0014	94200 墓・層 P107	縄文後中期 乱製石斧	口	-	-	-	Ⅱcコナツテ、具段条痕 Ⅱcコナツテ、具段条痕後ナツテ	019/07/412.25V+黄銅 019/06/412.25V+黄銅	破断面に粘土結核含
55	0410	縄表区北東部 墓・層	縄文後中期 乱製石斧	口	-	-	-	Ⅱc具段条痕 ナツテ	019/06/212.25V+黄銅 019/06/212.25V+黄銅	
56	0072	93200 墓・層 P063	縄文後中期 乱製石斧	口	-	-	-	Ⅱcコナツテ、具段条痕後ナツテ Ⅱcコナツテ、具段条痕後ナツテ	2.5115/2黄 2.5106/2黄	
57	0023	9320A 墓・層 P062	縄文後中期 乱製石斧	口	-	-	-	Ⅱcコナツテ、具段条痕 Ⅱcコナツテ、具段条痕後ナツテ	019/03/412.25V+黄銅 019/04/4黄	破断面に粘土結核含 黄皮口縁ニ
58	0041	93200 墓・層 0073	縄文後中期 乱製石斧	口	-	-	-	Ⅱc具段条痕 Ⅱc具段条痕後ナツテ	2.5106/412.25V+黄 2.5106/4黄	
59	0090	94200 墓・層 P134	縄文後中期 乱製石斧	口	-	-	-	Ⅱc具段条痕後ナツテ Ⅱc具段条痕後ナツテ	019/06/2.25V+黄 019/03/2黄	破断面に粘土結核含
60	0039	93200 墓・層	縄文後中期 乱製石斧	口	-	-	-	Ⅱcコナツテ、具段条痕 Ⅱcコナツテ、具段条痕後ナツテ	019/06/412.25V+黄銅 019/03/2黄	破断面に粘土結核含
61	0128	90270 墓・層 0016	縄文後中期 乱製石斧	口	-	-	-	Ⅱcコナツテ、赤褐色ナツテ Ⅱcコナツテ、赤褐色ナツテ	2.5106/4黄 2.5106/412.25V+黄	口唇部ニ2作に赤ナリ出し、黄皮 赤皮ナリ
62	0099	94200 墓・層 P153	縄文後中期 乱製石斧	口	-	-	-	Ⅱc脚部 Ⅱc具段条痕後ナツテ	019/06/412.25V+黄銅 019/06/2黄	
63	0009	93200 墓・層 P090	縄文後中期 乱製石斧	口	-	-	-	Ⅱcコナツテ、具段条痕 Ⅱcコナツテ、具段条痕	019/06/412.25V+黄銅 019/02/4黄	口ニ赤皮
64	0051	93200 墓・層 P061	縄文後中期 乱製石斧	口	-	-	-	Ⅱcコナツテ、具段条痕後ナツテ Ⅱcコナツテ、ナツテ	019/03/212.25V+黄銅 Ⅱcコナツテ、ナツテ	口ニ黄皮もしくは口リボン状 赤皮
65	0438	93200 墓・層	縄文後中期 乱製石斧	口	-	-	-	Ⅱc刃部 Ⅱc具段条痕後ナツテ	019/05/212.25V+黄銅 019/05/212.25V+黄銅	口厚口縁

番号	ID	出土位置	種類 器種 形式・時期	部位	法量 (cm)			調整ほか特徴	色調 上段： 内面 下段： 外面	備考
					長さ	口径	底径			
66	0112	9427C 器+層	縄文後前期 粘土製埴輪	口	-	-	-	外ナゲ 内ナゲ	2.536/42.25+0.1 10796/42.25+0.1	断面のナゲ状口縁
67	0122 0123	9427A 器+層 P366+367	縄文後前期 粘土製埴輪	口~胴	-	-	-	外ナゲ、ナゲツク 内ナゲ	10796/42.25+0.1 10795/42.25+0.1	外面はナゲツクにより器蓋に 部内あり
68	0010	9229D 器+層 P091	縄文後前期 粘土製埴輪	胴~底	-	-	9.2	外 胴縁：具段糸織 底面：ナゲ ナゲ	2.535/42.25+0.1 2.574/29.0+0.1	断面部に粘土結核あり
69	0329	9427C 器+層	縄文後前期 粘土製埴輪	底	-	-	13.8	外ナゲ 内ナゲ	10796/42.25+0.1 10796/42.25+0.1	断面部に粘土結核あり
70	0114	9427D 器+層 P063	縄文後前期 粘土製埴輪	底	-	-	10.8	外ナゲ 内ナゲ	10795/42.25+0.1 10795/42.25+0.1	断面部に粘土結核あり
71	0453	調査区中央付店 器+層	縄文後前期 粘土製埴輪	口	-	-	-	外 ココナゲ、ナゲ 内 ココナゲ、ナゲ	10795/42.25+0.1 10795/42.25+0.1	ヒレ状突起
72	0081	9426A 器+層 P146	縄文後前期 粘土製埴輪	口	-	-	-	外 ココナゲ、具段糸織 内 ココナゲ、具段糸織	2.535/42.25+0.1 2.535/42.25+0.1	
73	0411	調査区北東部 器+層	縄文後前期 粘土製埴輪	口	-	-	-	外 胴縁ナゲ 内 ナゲ	10796/42.25+0.1 10796/42.25+0.1	
74	0360	9426D 器+層 P126	縄文後前期 粘土製埴輪	口~胴	-	-	-	外 口縁部：具段のナゲ 胴部：胴縁（アンゲン） 内 ナゲ	2.574/42.25 10796/42.25+0.1	外面には全面に結核物が付着
75	0077	9427D 器+層 P027	縄文後前期 粘土製埴輪	口	-	-	-	外 ココナゲ、具段糸織 内 ココナゲ、具段糸織	2.533/42.25 10795/42.25+0.1	
76	0120	9427D 器+層 P021	縄文後前期 粘土製埴輪	口~胴	-	-	-	外 口：ココナゲ、具段糸織 胴：胴縁（胴目） 内 ココナゲ、具段糸織	2.536/42.25+0.1 2.536/42.25+0.1	口縁部のココナゲは強く 付いた粘土が外面には目 立ち
77	0054	9427A 器+層 P076	縄文後前期 粘土製埴輪	口	-	-	-	外 ココナゲ、ナゲ 胴縁（アンゲン） 内 ココナゲ、ナゲ	10797/42.25+0.1 10797/42.25+0.1	口縁部は段をもって直立す る。口縁部はココナゲによ り外面に付いた粘土に認 定する
78	0117	9427D 器+層 P021	縄文後前期 粘土製埴輪	口~胴	-	-	-	外 口：具段糸織 胴：胴縁（胴目） 内 ナゲ	2.536/42.25 2.536/42.25+0.1	外面及び断面部に粘土結核 あり
79	0064	9427C 器+層 P022	縄文後前期 粘土製埴輪	胴~底	-	-	-	外 胴縁（胴目） 内 胴縁	10796/42.25+0.1 2.574/42.25	
80	0021	9229B 器+層 P096	縄文後前期 粘土製埴輪	底~胴	-	-	-	外 胴部：胴縁（アンゲン） 底面：胴縁及胴縁 内 胴縁	2.536/42.25 10795/42.25+0.1	外面及び断面部に粘土結核 あり
81	0025	9229B 器+層 P090	縄文後前期 粘土製埴輪	底	-	-	-	外 具段糸織？ 胴縁（アンゲン） 内 具段糸織ナゲ	10795/42.25+0.1 10797/42.25+0.1	
82	0032	9426B 器+層 P097	縄文後前期 粘土製埴輪	口	-	-	-	外 ミガキ 内 ミガキ	10795/42.25+0.1 10795/42.25+0.1	
83	0115	9427D 器+層 P019	縄文後前期 粘土製埴輪(青色層)	口~胴	-	16.4	-	外 口縁部：ミガキ 胴部から下：具段糸織 内 口縁部：ミガキ 下段：胴縁及ミガキ	10796/42.25+0.1 10793/42.25	内面は胴縁
84	0027	9426D + 9426A 器+層 P004	縄文後前期 粘土製埴輪	口~胴	-	-	-	外 ミガキ 内 ミガキ	10793/42.25 2.573/42.25	内外ともに口縁部のミガキ は縁部 層入込み
85	0436	9426D 器+層	縄文後前期 粘土製埴輪	口	-	-	-	外 胴縁？胴縁 内 ミガキ	10793/42.25 10793/42.25+0.1	内面に赤色顔料付着
86	0429	9426D 器+層	縄文後前期 粘土製埴輪	胴	-	-	-	外 ミガキ 内 ミガキ	10795/42.25+0.1 10794/42.25	外面に胴縁
87	0417	調査区中央 器+層	縄文後前期 粘土製埴輪	口	-	-	-	外 ココナゲ、ナゲ 内 ココナゲ、ナゲ	10797/42.25+0.1 10796/42.25+0.1	ヒレ状突起 外面に突起
88	0431	調査区中央南側 器+層	縄文後前期 粘土製埴輪	口	-	-	-	外 胴部による段縁 内 ナゲ	2.577/42.25 2.577/42.25	具段糸織の一種か 口縁部の可能性あり
89	0209	器+層	弥生後期 埴輪	胴	-	-	-	外 ナゲ 内 ナゲ	10797/42.25+0.1 10797/42.25+0.1	胴部の割れが断面部外 の突起

表 22 IIc層出土石器観察表

番号	ID	出土位置	器種	石材	法量				調整ほか特徴	備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重さ (g)		
90	3136	9427A 器+層	石核	黒曜石	2.50	3.80	2.00	14.47	剥離面の一部に古い風 化面あり	
91	3058	9426A 器+層 5009	調整痕のある剥片	黒曜石	3.20	3.10	0.60	3.79	打点痕跡に深い押圧 あり	
92	3021	9229B 器+層 5035	調整痕のある剥片	黒曜石	3.40	2.90	0.90	7.04	左側面に背面からの 加工	
93	3044	9426B 器+層 5070	調整痕のある剥片	黒曜石	1.30	1.60	0.20	0.42		
94	3004	9426A 器+層 5061	調整痕のある剥片	黒曜石	1.80	2.40	0.30	2.90	縦長剥片基部を折り 取り利用	
95	3012	9229D 器+層 5052	調整痕のある剥片	黒曜石	5.00	1.90	0.90	4.06	右側面と左側面押圧 剥離を含む調整	
96	3050	9427B 器+層 5008	石核	黒曜石	2.60	1.80	0.40	1.04	完形	

番号	ID	出土位置	機種	石材	質量				調整ほか特徴	備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重さ (g)		
97	3008	0226D Ⅱ・層 5039	調整痕のある割片	火山岩	5.90	4.00	1.20	20.95	右側面中央に刃直しのための打ち欠きあり	左側面に刃こぼれあり、先端部は折れている
98	3132	0027A Ⅱ・層	使用痕のある割片	火山岩	5.30	2.90	0.70	10.63		左側面に刃こぼれ
99	3052	0427C Ⅱ・層 30068	割片	火山岩	4.50	5.30	1.20	38.52		
100	3048	0426B Ⅱ・層 30081	打製石斧	硬質砂岩	10.70	6.50	1.70	123.03		上面欠損
101	3028	0326D Ⅱ・層 5001	砥石	不明	11.10	9.80	2.60	286.2		上・下・右側面に敲打痕。表・裏・左側面に磨痕
102	3056	0052B Ⅱ・層 5004	砥石	砂岩	9.20	8.20	2.30	176.16		磨面の中に4本の溝状砥痕
103	3141	Ⅱ・層	研磨具	砂岩	5.90	1.70	1.30	17.65		矩形
104	3137	0327C Ⅱ・層	研磨具	火山岩	4.10	2.70	1.50	17.16		

105～160はⅢa層上面の遺物である。105～139は縄文時代後晩期にあたる土器である。105～122は第Ⅶ群、123～126は第Ⅸ群、127～138は第Ⅹ群、139は第Ⅺ群である。105～112は深鉢の口縁部である。105は外傾し、口唇部を内側に折り曲げる。外面は横位方向に貝殻条痕調整を施す。内面はナデ調整を施す。106は外傾し、外面は横位方向及び斜位方向に貝殻条痕調整を施す。内面はナデ調整を施す。107の外面は斜位方向及び横位方向に貝殻条痕調整を施す。内面はナデ調整を施す。108はほぼ直立し、外面は横位方向に貝殻条痕調整を施す。内面は横位方向に貝殻調整の後ナデ調整を施す。109はやや内傾し、外面は横位方向に貝殻条痕調整を施す。内面はナデ調整を施す。110はやや内傾するが口唇部は外に外反する。器壁は薄い。内外面に横位方向に貝殻条痕調整を施す。111はボウル状をなす。外面は横位方向に貝殻条痕調整を施す。内面は横位方向に貝殻条痕調整の後ナデ調整を施す。112はやや内傾し、器壁は薄い。外面は貝殻条痕調整を施す。内面は貝殻条痕調整の後ナデ調整を施す。113は深鉢の頸部である。頸部と肩の付け根に蝶ネクタイ状の突起を貼り付ける。114は深鉢の口縁部から胴部である。胴部の上位に屈曲部を持つ。外面は貝殻条痕調整を施す。内面はナデ調整を施す。115は深鉢の胴部である。外面は貝殻条痕調整を施す。内面には貝殻条痕調整の後ナデ調整を施す。内面に指頭痕がみられる。116・117は屈曲部を持つ深鉢の胴部である。116は胴部上位で、口縁部まで内湾する形状をなす。外面は貝殻条痕調整を施す。内面は横位及び斜位方向に貝殻条痕調整の後ナデ調整を施す。117は胴部下位で、底部から屈曲部まで膨らみはない。外面は斜位及び横位方向に強い貝殻条痕調整を施す。内面はナデ調整を施す。118は深鉢の胴部である。外面は横位及び斜位方向に強い貝殻条痕調整を施す。内面は横位方向に貝殻条痕調整の後ナデ調整を施す。119～122は深鉢の底部である。119の底面はやや張り出す。平底で内外面にナデ調整を施す。120の復元底径は9.0cmで、平底で外周はやや張り出す。内外面にナデ調整を施す。121の復元底径は8.0cmで、上げ底で外周は張り出し、外面は胴部、底面共に貝殻条痕調整を施す。122の復元底径は8.4cmで、平底で外周は張り出す。外面は胴部、底部共に貝殻調整を施す。内面はナデ調整を施す。123・124は浅鉢の口縁部である。123の復元口径は34.4cmである。胴部との境界にやや組織痕がみられる。口縁部の外面は横位方向に貝殻条痕調整を施す。内面は横位方向に貝殻条痕調整の後ナデ調整を施す。124の口唇部はやや傾斜するため、波状口縁か。外面は擦過調整を施す。内面は擦過調整の後ナデ調整を施す。胴部下半に組織痕を持つ型であろうか。125・126は浅鉢の胴部から底部である。125の外面はアンギンの組織痕がみられる。胴部と底部の境界にケズリ調整を施す。内面は擦過調整の後ナデ調整を施す。126の外面はアンギンの組織痕がみられる。胴部と底部の境界に粘土帯の痕がみられる。内面は磨き調整を施す。127は浅鉢の口縁部～頸部である。頸部の付け根から上位にかき

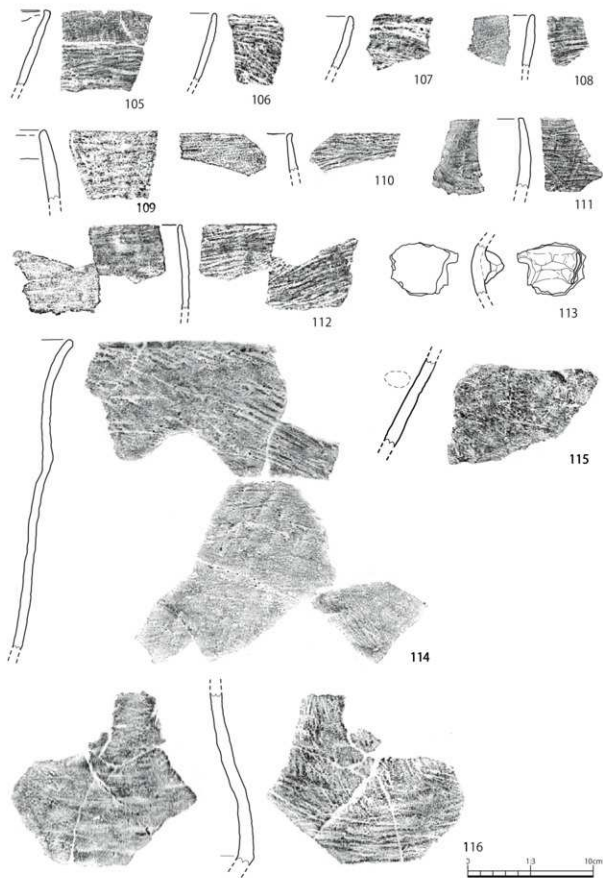


图 76 IIIa 层上面出土土器实测图(S=1/3)

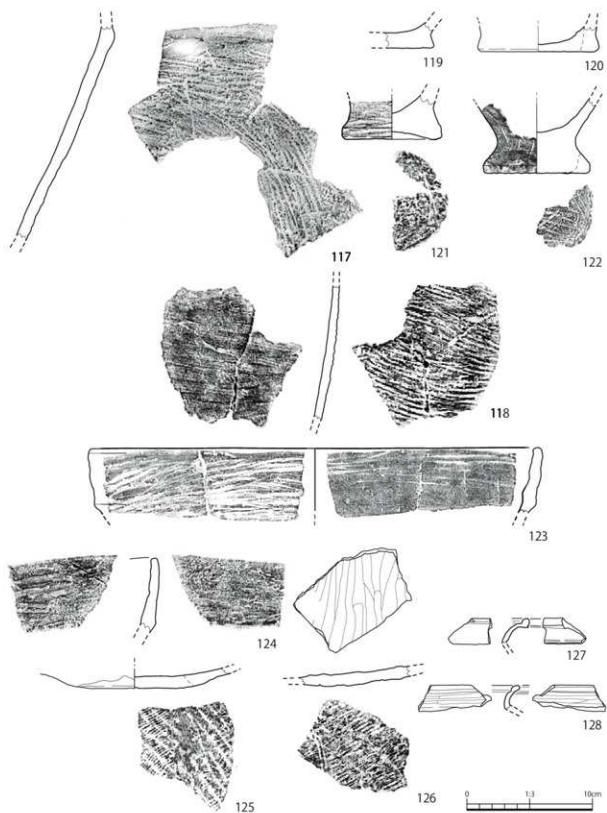


図 77 IIIa 層上面出土土器実測図(S=1/3)

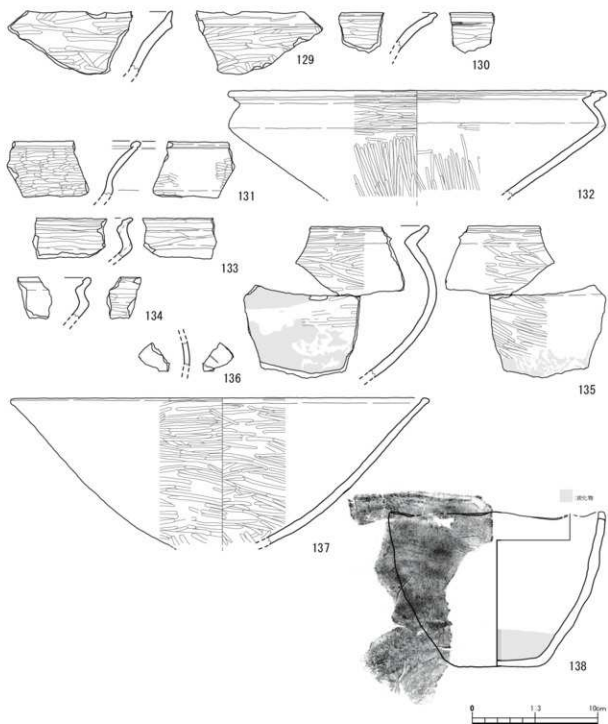


図78 IIIa層上面出土土器実測図(S=1/3)

強く外反し、口唇部は外面に1条の沈線を施す。内外面は丁寧な磨き調整を施す。128は浅鉢の口縁部である。128は頸部の付け根から大きく外反し、口唇部は内側に段を作り外側に沈線を施す。内外面全面に丁寧な磨き調整を施す。129は外傾する口縁部から口唇部が短く立ち上がり、外側に沈線を施す。内外面に

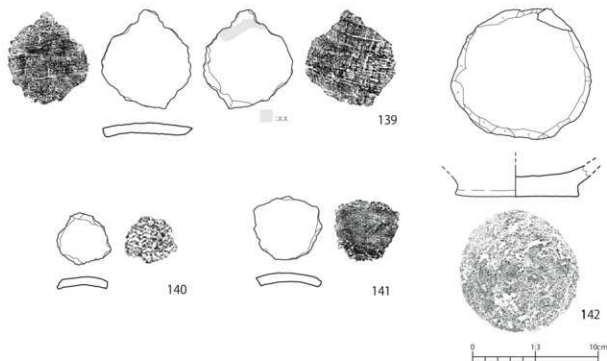


図 79 Ⅲa 層上面出土土製品実測図(S-1/3)

丁寧な磨き調整を施す。130は外反する口縁部で口唇部は玉縁状に至る。内外面に丁寧な磨き調整を施す。131・132は浅鉢の口縁部から胴部である。131は下方に開く胴部から肩部を1段作り、直線的な頸部が外へ開きながら延びる。口唇部は内側に玉縁を持つ。内外面に丁寧な磨き調整を施す。132の復元口径は30.2cmである。直線的に下方に延びる胴部から大きく内傾し、張り出した肩部は外傾する口縁部に至る。口唇部は内面に段を作り、外面に沈線を施す。内外面に丁寧な磨き調整を施す。133・134は浅鉢の口縁部である。133は口唇部の内側に段を作り、外側に弱い稜線を持つ短い頸部からやや張り出した肩部が緩やかに延びる。内外面は丁寧な磨き調整を施す。134は口唇部の内側は段が緩やかで、外側には沈線を施さない。頸部は短く肩部まで緩やかに延びる。肩部は口縁部ほど張り出さない。内外面は丁寧な磨き調整を施す。135は浅鉢の口縁部から胴部である。口唇部の外に沈線を施す。頸部はやや立ち上がり、肩部は丸く張り出す。内外面には丁寧な磨き調整を施す。胴部下位内外面はススが付着する。136は浅鉢の胴部である。器壁は薄く、内外面に磨き調整を施す。外面に細い不規則な沈線を施す。137は浅鉢の口縁部から胴部である。外に大きく開く鉢型で、口縁部の内側に小さな玉縁状の突起がみられる。内外面に丁寧な磨き調整を施す。138は小型の鉢である。復元口径12.2cm、器高17.0cm、復元底径6.0cmで底部は平底である。口唇部がやや波状になるか、外面は擦過調整の後ナデ調整を施す。内面底部には炭化物が付着している。今回の調査で出土したうち土器で唯一、全形のわかる資料である。

139～142は土製品である。139は縄文時代後晩期土器胴部片を二次加工した円盤状土製品である。貝殻条痕調整が施された土器を利用している。外面にあたる部分にはススが付着している。140は縄文時代早期にあたる押型文土器胴部片を二次加工した円盤状土製品である。外面の押型文は山形である。樹痕内からの出土のため、元は異なる層にあったものか。141は組織痕土器胴部片を二次加工した円盤状土製品である。外面の一部にアンギンの組織痕がみられる。142は縄文時代後晩期土器底部片を二次加工した円盤状土器片である。底面には擦過調整の後ナデ調整を施す。矢印の方向に土器片を打ち欠いたものと思われる。

143～159は石器である。143～145は黒曜石の石核である。143はほぼ自然面を留め、一面のみ連続剥離作業を行なっている。石材中の不純物が非常に多く、剥離の際に力が分散した箇所がみられる。144は6面中4面の剥離面がみられる。上部を剥離した後、側面の3面で連続剥離作業を行なったと思われる。145は5面中2面の剥離面がみられる。大きく4か所で連続的な縦長剥離作業を行なっている。残りの3面は自然面のままである。146～152は黒曜石の剥片類である。146は1面が自然面、残り2面に剥離面を持つ。自然面と剥離面の頂点に押圧剥離を連続で行なったと思われる箇所がみられる。また、先端に刃こぼれがみられる。147は右側面に使用痕と思われる微細剥離がみられる。148は小片だが上部に加工痕がみられる。本来はさらに大きな剥片の一部なのかもしれない。149は自然面を両面に残す。右側面に使用痕と思われる微細剥離がみられる。150は自然面を両面に残す。下部にわずかだが加工痕がみられる。石材に不純物が多い。151は両面に自然面を残す。縦長剥片の打点部分が欠損している。欠損した箇所には加工痕がみられる。右側面に使用痕と思われる微細剥離がみられる。152は3つの面を持つ縦長剥片である。1面は自然面である。左側面に使用痕と思われる微細剥離がみられる。153は黒曜石製の剥片鏃で左基部を欠損している。基部の

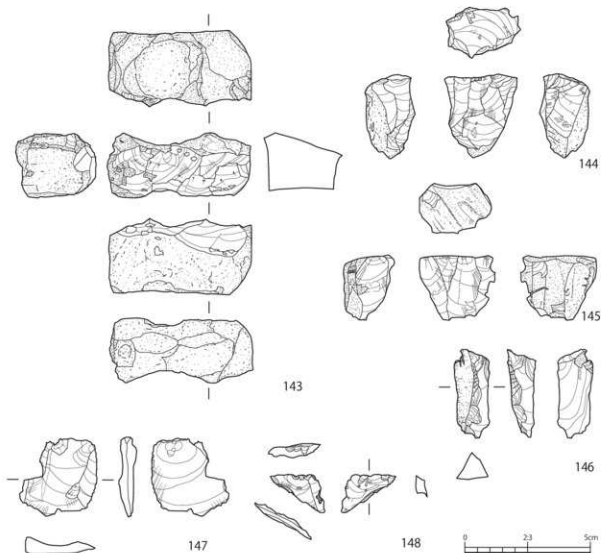


図 80 IIIa 層上面出土石器実測図 (S=2/3)

抉り部分を加工した後、刃部を加工したと思われる。154は安山岩製の打製石斧である。元は磨製石斧であったものを二次加工して打製石斧としている。基部は欠損している。155・156は礫石である。155は乳棒状で先端に敲打痕がみられる。156は断面が楕円状で右側面に叩打痕がみられる。157・158は台石である。正面と背面の両面を磨り面とする。部分的に敲打痕がみられる。

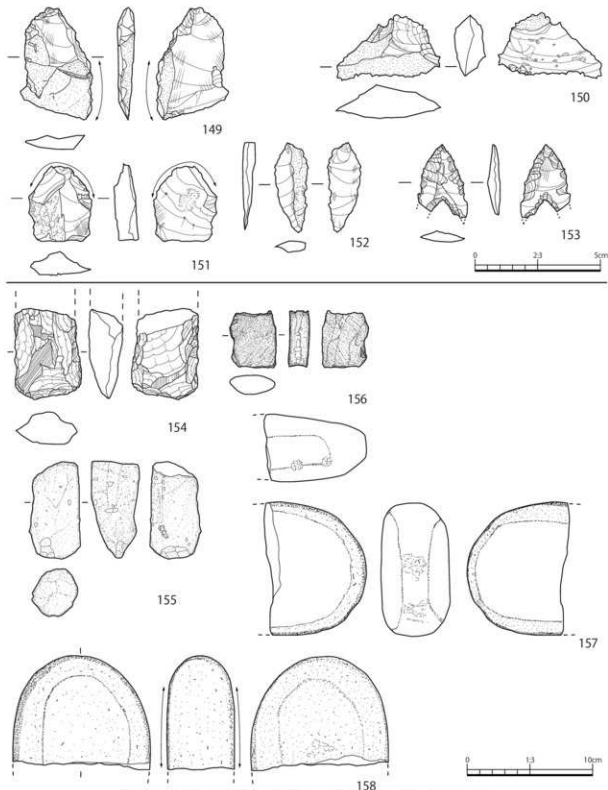


図81 IIIa層上面出土石器実測図(149~153はS=2/3、154~158はS=1/3)

表23 IIIa層上面出土土器観察表

番号	ID	出土位置	種類・器種 形式・時期	方位	流量 (cm)		調整ほか特徴	色調 土層：外層 下層	備考
					流量	口径			
105	0170	H23C 器・層上面 P196	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇ノ側	-	-	外】ヨコナヅ、柳通、糸巻糸ナヅ 内】ヨコナヅ、柳通	H199/42.5(1)黄褐色、 2. 5YR/1黒褐色 H199/42.5(1)黄褐色、 2. 5YR/1黒褐色	口縁部に2ノ線が面取り
106	0178	H23D 器・層上面 P128	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇	-	-	外】貝殻糸巻、 内】柳通ナヅ	2. 5YR/2.5(1)黄褐色 H199/42.5(1)黄褐色	外面に黒色粉付着 輸入品か
107	0174	H23B 器・層上面	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇	-	-	外】ヨコナヅ、貝殻糸巻 内】ヨコナヅ、柳通ナヅ	H200/42 H199/42.5(1)黄褐色	
108	0145	調査区北東部 器・層上面	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇	-	-	外】ヨコナヅ、柳通ナヅ 内】貝殻糸巻ナヅ	H199/42.5(1)黄褐色 H199/42.5(1)黄褐色	内面に種子ノ圧痕
109	0146	H23B 器・層上面 P192	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇	-	-	外】ヨコナヅ、柳通ナヅ 内】ヨコナヅ、柳通	H199/42.5(1)黄褐色 2. 5YR/4(1)黄褐色	
110	0136	H23B 器・層上面 P205	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇	-	-	外】貝殻糸巻 内】貝殻糸巻ナヅ	H199/42(2)黄褐色 H199/4ノ黄褐色	
111	0162	H23B 器・層上面 P177	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇	-	-	外】貝殻糸巻 内】貝殻糸巻ナヅ	H199/42.5(1)黄褐色 H199/4ノ黄褐色	
112	0143 1129	H23B 器・層上面 P114 H23B 器・層上面輸出	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇ノ側	-	-	外】貝殻糸巻 内】貝殻糸巻ナヅ	H199/42.5(1)黄褐色 H199/42(2)黄褐色	
113	0180	H23B 器・層上面	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇	-	-	外】縦キクワイ状粉引付着 内】柳通、ミガキ	H199/4(2)黄褐色 H199/42.5(1)黄褐色	
114	0148	H23C 器・層上面 P141	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇ノ側	-	-	外】ヨコナヅ、貝殻糸巻、柳通 内】ヨコナヅ、貝殻糸巻ナヅ	H199/42.5(1)黄褐色 H199/42(2)黄褐色	
115	0134	H23B 器・層上面 P201	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇	-	-	外】貝殻糸巻 内】貝殻糸巻ナヅ	H199/42.5(1)黄褐色 H199/42(2)黄褐色	内面に粉痕跡
116	0135	H23B 器・層上面 P202	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇	-	-	外】貝殻糸巻、ナヅ 内】貝殻糸巻	H199/42.5(1)黄褐色 H199/42.5(1)黄褐色	
117	0035 0617 0620 0149 0206	H23B 器・層 P144 H23D 器・層 P157、149 H23C 器・層上面 P142 H23C 器・層上面 P189	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇	-	-	外】貝殻糸巻 内】貝殻糸巻ナヅ	2. 5YR/6(2)黄褐色 2. 5YR/4(2)黄褐色	
118	0118 0110	H23B 器・層上面 P119、121	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇	-	-	外】貝殻糸巻 内】貝殻糸巻ナヅ	H199/42.5(1)黄褐色 H199/4ノ黄褐色	
119	0171	H23C 器・層上面 P187	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇	-	-	外】ナヅ 内】ナヅ	2. 5YR/4(2) H199/42.5(1)黄褐色	
120	0182	H23A 器・層上面	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇	-	9.9	外】ナヅ 内】ナヅ	H199/42.5(1)黄褐色 H199/42(2)黄褐色	観察面に粘土結核付着
121	0147 0148	調査区北東部 器・層上面 H23B 器・層上面 P194	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇	-	8.0	外】貝殻糸巻 内】ナヅ	2. 5YR/6(2) 2. 5YR/7(2)黄褐色	
122	0029	H23B 器・層上面 P094	縄文後前期 埴輪瓦葺	側ノ側	-	8.4	外】柳通、貝殻糸巻 高部ノナヅ、貝殻糸巻 内】ナヅ	H199/42.5(1)黄褐色 H199/4ノ黄褐色	内面に灰色粉付着 観察面に粘土結核付着
123	0183 0184	H23B 器・層上面183、184	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇	-	34.4	外】貝殻糸巻後口唇部2ヨコナヅ 内】ヨコナヅ、貝殻糸巻ナヅ	H199/42.5(1)黄褐色、 H199/42(2)黄褐色 H199/42.5(1)黄褐色	
124	0187	H23B 器・層上面 P127	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇	-	-	外】ヨコナヅ、柳通 内】ヨコナヅ、柳通ナヅ	H199/42.5(1)黄褐色 H199/42.5(1)黄褐色	観察面に粘土結核付着 外面に硬付着 液状土塊小
125	0174	H23D 器・層上面 P179	縄文後前期 埴輪瓦葺	側ノ側	-	-	外】黒線施(アンゼン)、ナヅ 内】柳通、ナヅ	H199/42.5(1)黄褐色 H199/42.5(1)黄褐色	外面及び観察面に粘土結核 付着
126	0008	H23B 器・層上面 P169	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇	-	-	外】黒線施(アンゼン) 内】貝殻糸巻後口唇部	2. 5YR/4(2)黄褐色 2. 5YR/4(2)黄褐色	
127	0126	調査区中央付皮 器・層上面	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇	-	-	外】ヨコナヅ、ミガキ 内】ヨコナヅ、ミガキ	H199/42(2)赤 H199/42(2)赤	口縁部に黒色粉付着して成立し 外面に黒色付着、下部に 外面に黒色付着
128	0170	調査区中央南側 器・層上面	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇	-	-	外】ミガキ、ナヅ 内】ミガキ	H199/42.5(1)黄褐色 H199/42.5(1)黄褐色	輸入品か
129	0204	H23C 器・層上面 P177	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇	-	-	外】ミガキ 内】ミガキ	H199/42(2)黄褐色 H199/42.5(1)黄褐色	
130	0178	H23C 器・層上面	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇	-	-	外】ミガキ 内】ミガキ	H199/42.5(1)黄褐色 H199/42.5(1)黄褐色	
131	0006 0007 0207 1578	H23C 器・層 P058 H23C 器・層 P057 H23C 器・層上面 P198 調査区中央付皮 器・層上面輸出	縄文後前期 埴輪瓦葺	〇ノ側	-	-	外】ミガキ 内】ミガキ	2. 5YR/6(2) H23/2オリーブ褐色	輸入品か
132	0181	H23B 器・層上面 P210	縄文後前期 埴輪瓦葺(黒色磨研)	〇ノ側	-	30.2	外】ミガキ 内】埴輪	H199/42(2)黄褐色 H199/42(2)黄褐色	ミガキは内外面ともに観察 面に上記付着、下部に 外面に黒色付着
133	0181	H23B 器・層上面 P117	縄文後前期 埴輪瓦葺(黒色磨研)	〇	-	-	外】黒線施、ミガキ 内】ミガキ	2. 5YR/4(2)黄褐色 2. 5YR/3(2)黄褐色、 2. 5YR/2(2)黄褐色	ミガキは内外面ともに観察 面に上記付着

番号	ID	出土位置	種類・器種 形式・特徴	部位	質量(g)			調整ほか特徴	色澤・土質・ 内面	備考
					器高	口径	底径			
134	0473	0226B 器a層上面	縄文後前期 調整片	口	-	-	-	外】ミガク 内】ナツ	土質B/調整 土質B/調整	
135	0183 0184	0227C 器a層上面 P153, 055	縄文後前期 調整片(黄色顔料)	口~側	-	-	-	外】ミガク 内】ミガク	0184/4調整 0183/4C: 2A/調整	ミガクは内外面ともに調整 調整片の下位に調整片付着
136	0458	調査区中央部南 器a層上面出石	縄文後前期 調整片	側	-	-	-	外】ミガク 内】ミガク	0183/2調整 土質B/調整	外面に調整
137	0137	0226B 器a層上面 P098	縄文後前期 調整片	口~側	-	-	-	外】ミガク 内】ミガク	0183/4C: 2A/調整 0183/4C: 2A/調整	ミガクは内外面ともに上位 1層位、下位1層位
138	0144 0145 0147 0149	0226B 器a層上面 P115 0226C 器a層上面 P116 0226C 器a層上面 P118 0226C 器a層上面 P120	縄文後前期 小型片	口~底	12.2	17.0	6.0	外】調整、ナツ 内】調整、ナツ	0184/4C: 2A/調整 0184/4C: 調整	調整片 内面底部に炭化物

表24 IIIa層上面出土土製品観察表

番号	ID	出土位置	種類・器種 形式・特徴	製作状況	質量			調整ほか特徴	色澤	備考	
					最大長(mm)	最大幅(mm)	厚さ(g)				
139	0629	0226B 器a層上面 3091	片断状土器片	片断	7.8	7.1	0.9	42.6	2】打点多数、僅少量 調整片	0183/4C: 2A/調整 土質B/調整	縄文後前期調整片と利用
140	7811	0226B 器a層上面 調整片	片断状土器片	片断	8.2	8.2	6.7	15.3	2】調整調整片 調整片	0183/4C: 2A/調整 0183/4C: 2A/調整	縄文後前期調整片と調整 調整片と利用
141	7808	調査区中央部南 器a層上面出石	片断状土器片	片断	5.5	5.1	0.8	24.1	1】ナツ、調整片 調整片	土質B/調整 土質B/調整	縄文後前期調整片と調整 調整片と利用
142	0172	0226B 器a層上面 3091	片断状土器片	片断	11.8	10.3	2.1	177.3	1】ナツ 調整片	0183/4C: 2A/調整 + 土質B/調整 土質B/調整 + 土質B/調整	縄文後前期調整片と調整 調整片と利用

表25 IIIa層上面出土石器観察表

番号	ID	出土位置	機種	石材	質量				調整ほか特徴	備考
					長さ(mm)	幅(mm)	厚み(mm)	重さ(g)		
143	3061	0226B 器a層上面 5058	石球	黒曜石	2.10	5.60	2.50	53.74	方形の粒石の自然面 を打面とする	正面側のみの薄片剥離
144	3065	0226B 器a層上面 5082	石球	黒曜石	3.50	2.00	2.00	16.33	上面に打面を取り 長斜片を嵌る	
145	3146	器a層上面清掃中	石球	黒曜石	3.10	2.90	2.00	14.88		非打点自然面を打面とする
146	3059	0226B 器a層上面 5049	調整機のある剥片	黒曜石	3.50	1.40	1.00	4.28	断面三角形の頂点部 分に押正調整	右側面と先端部に乃こ げれ
147	3093	0227A 器a層上面 5074	調整機のある剥片	黒曜石	3.50	2.70	0.70	5.58		右側面に乃こげれ
148	3075	0226C 器a層上面 5391	調整機のある剥片	黒曜石	1.50	2.20	0.40	1.08	打点近くにノッチ上 の調整を入れる	
149	3099	0227A 器a層上面 5099	剥片	黒曜石	4.30	3.10	0.60	6.34		右側面に乃こげれ
150	3098	0227C 器a層上面 5018	剥片	黒曜石	2.40	4.10	1.30	8.63		
151	3064	0226B 器a層上面 5086	使用機のある剥片	黒曜石	2.90	2.50	0.90	6.37	縦長剥片の打点側を 嵌れし利用	切斷面と右側面を打面 として使用
152	3069	0226B 器a層上面 5053	調整機のある剥片	黒曜石	3.60	1.40	0.40	1.46		左側面に乃こげれ
153	3145	0227A 器a層上面	石球	黒曜石	2.90	1.90	0.40	1.47		基部欠
154	3071	0226D 器a層上面 5091	打撃石片	火山岩	7.10	5.20	2.50	135.09		磨製石片を打ち欠く
155	3070	0226D 器a層上面 5090	磨石	角閃石火山岩	7.70	3.70	3.70	137.91		下面のみを使用
156	3066	0226B 器a層上面 5088	磨石、磨石	砂岩	4.70	3.50	1.50	35.68		右側面に磨打痕
157	3085	0326C 器a層上面 3076	打石	不明	8.20	10.50	5.50	726.86		正面・背面の両面を磨 面としている。 右側面と上面に磨打痕
158	3084	0326C 器a層上面 3075	打石	不明	8.60	10.90	6.40	936.52		正面・背面の両面を磨 面としている。 正面中央に磨打痕

③ III層の遺物

III層はa～cの3つの層に細分した。IIIa層は縄文時代後晩期にあたる遺物が少量含まれていた。IIIb層は遺物量が極めて希薄であった。IIIc層は掘削を開始した時点では少量の縄文時代早期にあたる遺物が含まれる程度であったが、IV層に近づくにつれその量は増加し、IV層の直上面は多量に出土した。そのIV層直上面で出土した遺物量をグリッドごとに可視化したものが図82である。赤色の濃いグリッドが遺物量の多い場所となる。調査区西側のGr0426Bを中心として遺物が集中していることがわかる。出土した遺物は縄文時代

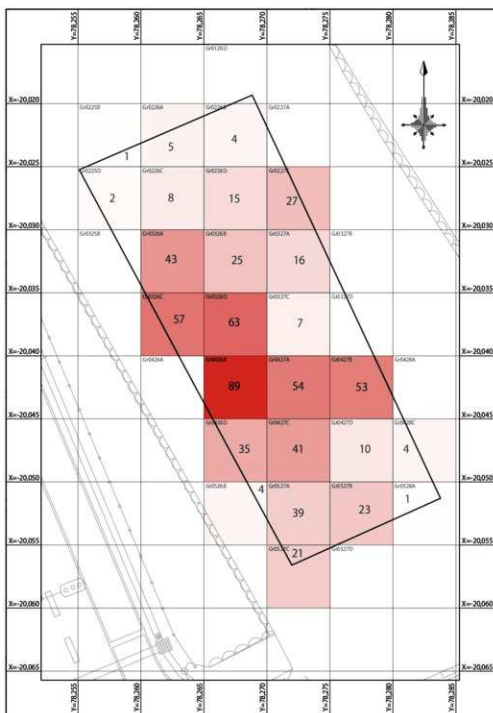


図 82 IV層上面遺物出土状況(S=1/300)

早期の土器片が大半を占める。

・Ⅲa層

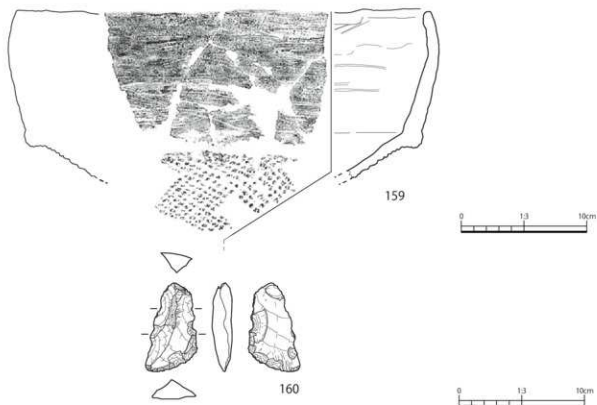


図 83 Ⅲa 層出土遺物実測図 (S=1/3)



図 84 Ⅲb 層出土土器実測図 (S=1/3)

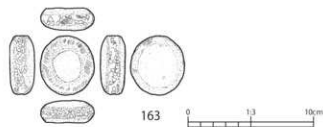


図 85 Ⅲc 層出土遺物実測図 (S=1/3)

159・160はⅢa層の遺物である。159は第IX群で、浅鉢の口縁部から胴部下位である。復元口径は33.0cmである。口縁部の外面は貝殻条痕調整を施し、胴部は網目の組織痕がみられる。内面はナデ調整を施す。160は安山岩製のスクレイパーである。刃部を加工し、右側面に抉りを入れるように加工している。

・Ⅲb層

161はⅢb層の遺物で、第VI群の深鉢の口縁部である。やや摩滅しているが、口唇部はわずかに波状にな

り、外面に粘土で膨らみを持たせ、その膨らみに貝殻で細かな刺突文を施す。膨らみは波状の一番低くなっている部分から胴部に向かって延びる。

・IIIc層

162・163はIIIc層の遺物である。162は第I群の深鉢の口縁部で、内傾する。器壁は約1.5cm程度で、胴部は円筒形であると思われる。外面は横位方向に山形文を施す。163は磨り痕のみられる小型の円形の敲石である。石材は不明で石器全体に磨り痕、側面全体に敲打痕がみられる。

表26 IIIa層出土土器観察表

番号	ID	出土位置	種類・器種 形式・時期	部位	法量 (cm)			調整ほか特徴	色調 上段：外面 下段：内面	備考
					器高	口径	底径			
159	0503	02259 器・層	縄文後晩期 須賀式深鉢	口～ 胴部下半	-	33.0	-	外] ヨコナデ、貝殻刺突文、ナデ 裏織文 (網目) 内] ヨコナデ、ナデ、磨面	0195/4にふい・裏面 0195/4にふい・裏面	

表27 IIIa層出土石器観察表

番号	ID	出土位置	機種	石材	法量				調整ほか特徴	備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (mm)	重さ (g)		
160	3147	IIIa層	スクレイパー	安山岩	7.00	4.10	1.50	34.2		両面と底部に刃部

表28 IIIb層出土土器観察表

番号	ID	出土位置	種類・器種 形式・時期	部位	法量 (cm)			調整ほか特徴	色調 上段：外面 下段：内面	備考
					器高	口径	底径			
161	0504	02260 器・層	縄文早期 深鉢	口	-	-	-	外] ヨコナデ、貝殻刺突文 内] ヨコナデ、ナデ	0197/4にふい・裏面 0197/4にふい・裏面	

表29 IIIc層出土土器観察表

番号	ID	出土位置	種類・器種 形式・時期	部位	法量 (cm)			調整ほか特徴	色調 上段：外面 下段：内面	備考
					器高	口径	底径			
162	0522	0339C 器・層	縄文早期 深鉢	口	-	-	-	外] 横志山形押突文 ナデ	0198/4にふい・裏面 0198/4にふい・裏面	縦断面に粘土粘着痕

表30 IIIc層出土石器観察表

番号	ID	出土位置	機種	石材	法量				調整ほか特徴	備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (mm)	重さ (g)		
163	3149	0226C 器・層	磨石・敲石	不明	4.90	4.30	1.90	50.4		定形

・IV層上面

164～216はIV層の直上面から出土した土器である。164～179は第I群、180～202は第II群、203～206は第III群、207～209は第IV群、210～214はV群、215・216は第VI群である。164～172は深鉢の口縁部である。直立し、厚さは約1.5cm程度である。外面は鋭角な山形文を横位方向に施文する。164は内面は全体にナデ調整の後口唇部にヨコナデ調整を施す。165はやや内傾し、厚さは1.5cm程度である。外面は山形文を横位方向に胴部に近い部分は斜位方向に施文する。口唇部が平らになるが、部分的に粘土を貼り付ける。口唇部には縦方向に擦過痕がみられる。内面はナデ調整を施す。166は内傾し、厚さは0.7cm程度である。外面は山形文を横位方向に施文する。口唇部は内側に斜めに下がる。内面はナデ調整を施す。167は胴部下位まで残存する。口縁部は立ち上がり、胴部下位に向けて緩やかにボウル状に湾曲する。厚さは1.5cm程度である。口唇部は平らで、外面上位は山形文を横位方向に施文するが、外面下位は斜位方向に施文する。168は内傾し、厚さは0.8cm程度である。外面は山形文を斜位方向に施文する。内面はナデ調整の後口唇部にヨコナデ調整を施す。169はやや外傾し、厚さは1cm程度である。口唇部は平らで、外面は山形文を横位方向に施文する。内面はナデ調整の後口唇部にヨコナデ調整を施す。170はやや外傾し、厚さは0.9cmである。外

面は山形文を横位方向に施文する。内面はナデ調整の後口唇部にヨコナデ調整を施す。171はやや外反し、厚さは最大厚で1.7cm程度である。口唇部は平らで、外面は互い違いの山形文を斜位方向に施文する。内面はナデ調整を施す。172は大きく外反し、厚さは1.4cm程度である。口唇部は外側に倒れる。外面は間延びした山形文を横位方向に施文する。内面はナデ調整を施す。173～174は深鉢の胴部である。173の厚さは最大厚で1.2cmである。外面はやや間延びした山形文を斜位方向に施文する。内面はナデ調整を施す。内面に炭化物が少量付着する。174の厚さは最大厚で1.5cmである。上部は粘土の接合部分から剥離している。外面は間延びした山形文を斜位方向に施文する。内面はナデ調整を施す。175～179は深鉢の底部である。175は底面がやや上げ底である。底部の外周は緩やかに張り出している。胴部の外面は間延びした山形文を斜位方向に施文する。底面の外面はナデ調整を施す。内面はナデ調整を施す。176の復元底径は18.0cmである。底面はやや上げ底で、底部の外周は張り出さない。胴部は底部から屈曲し、やや開き気味に上がる。胴部の外面はやや間延びした山形文を斜位方向に施文する。底部の外面には網代の組織痕がみられる。内面はナデ調整を施し、底部と胴部の変化点に指頭痕がみられる。177は底部の外周がやや張り出し、胴部はやや開き気味に上がる。外面は間延びした山形文を斜位方向に施文する。底面には176とは異なった網代の組織痕がみられる。内面は剥落している。178の復元底径は13.0cmで、底面は平底で外周はやや張り出す。胴部は緩やかに開く。胴部の外面は間延びした山形文を斜位方向に施文する。底面は細い平行の組織痕と、部分的にそれに直交する幅のある組織痕が部分的にみられる。内面は指頭痕が多数みられる。179は平底である。底部の外周は張り出す。胴部はほぼ直立する。胴部の外面は間延びした山形文を斜位方向に施文する。底面には178よりやや幅の広い平行の組織痕と、それに直交する組織痕がみられる。内面は脆くなっており調整痕は不明瞭である。180・181は深鉢の口縁部から胴部である。180の胴部は大きく外傾し、口縁部は外反する。厚さは最大厚で1cm程度である。外面は楕円文を斜位方向に施文する。内面はナデ調整の後、口縁部に外面と異なる楕円文を横位方向に施文し、口唇部に原体条痕を施す。胴部内面には指頭痕がみられる。181は口唇部が外反する。厚さは1cm程度である。外面はナデ調整を施す。内面は楕円文を施文した後口唇部に原体条痕を施す。182～184は胴部上位である。182の胴部は外傾し上位に上がるにつれ外反する。厚さは最大厚で1.2cmである。外面はナデ調整の後、器形が外反し始める位置を上限として楕円文を横位方向に施文する。内面はナデ調整の後、外反し始める位置を下限として外面とは異なる楕円文を施文した後口唇部に原体条痕を施す。183の胴部は大きく外傾し上位に上がるにつれ強く外反する。厚さは最大厚で1.4cmである。外面はナデ調整の後、器形が外反し始める位置を上限として楕円文を横位方向に施文する。内面はナデ調整の後、外反し始める位置を下限として外面とは異なる楕円文を、約1.5cmを1条1単位として横位方向に最低3条施文する。184の胴部は外傾し上位に上がるにつれ外反する。厚さは最大厚で1.3cmである。外面はナデ調整の後、器形が外反し始める位置を上限として楕円文を横位方向に施文する。内面はナデ調整の後、外反し始める位置を下限として外面とは異なる楕円文を横位方向に施文する。185～196は深鉢の口縁部である。185はやや内傾している。厚さは上位ほど厚く、最大厚で1.8cm程度である。口唇部は平らで外面はナデ調整の後口縁部に横位方向に施文する。内面はナデ調整の後口唇部にヨコナデ調整を施す。186は内傾し、厚さは最大厚1.4cmである。口唇部は平らで、外面は楕円文を施文する。内面はナデ調整を施す。187はやや内傾する。厚さは最大厚で1.8cm程度である。口唇部は平らで、外面はやや小ぶりの楕円文を施文する。内面は擦過調整の後ナデ調整を施す。外面に煤が付着する。188はほぼ直立で、厚さは最大厚で1.2cm程度である。口唇部は平らで、外面は楕円文を施文する。内面はナデ調整の後縦方向に引き上げる

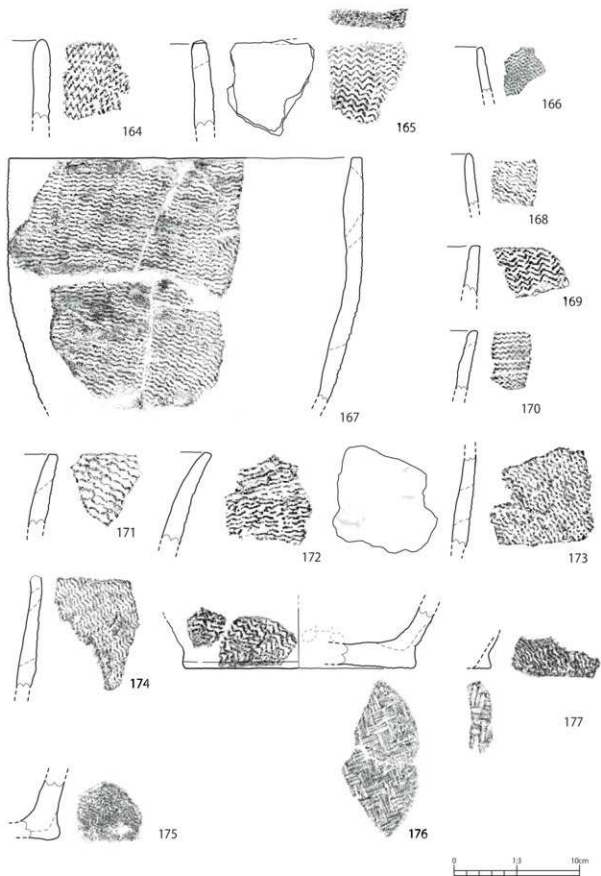


图 86 IV 层上面出土土器实测图 (S=1/3)

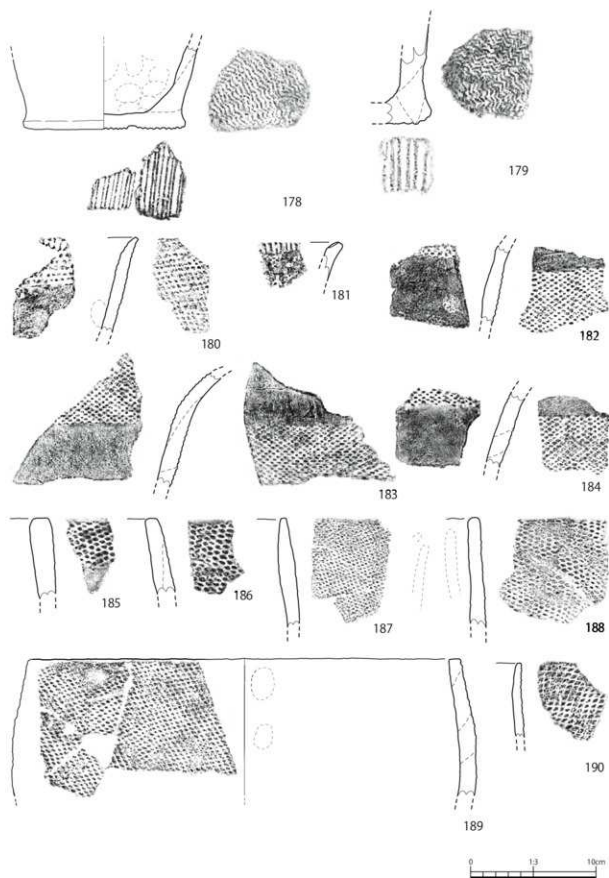


图 87 IV層上面出土土器実測図(S=1/3)

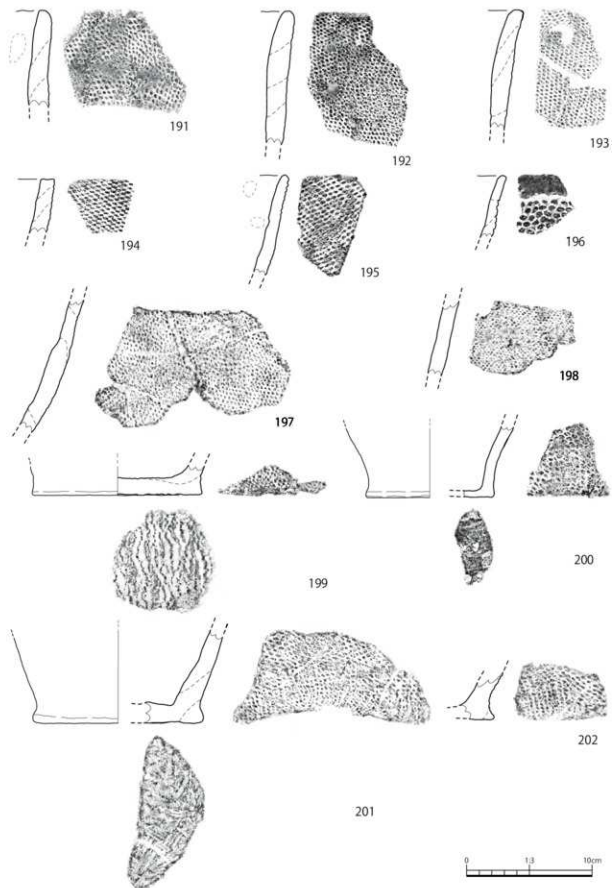


图 88 IV 层上面出土土器实测图(S-1/3)

ような指頭痕がみられる。口唇部はヨコナデ調整を施す。189は胴部まで残存する。復元口径は32.4cmで、やや内傾している。厚さは最大厚で1.9cm程度である。口唇部は平らで外面は小ぶりの楕円文を施文する。内面は口唇部に粘土を貼り付け、全体にナデ調整を施す。部分的に指頭痕がみられる。190はやや内傾し厚さは0.7cm程度である。口唇部は平らで外面には楕円文を施文する。内面はナデ調整の後口唇部にヨコナデ調整を施す。191はやや外反する。厚さは最大厚で1.5cm程度である。外面は楕円文を施文する。内面はナデ調整の後口唇部にヨコナデ調整を施し、口縁部上位に指頭痕がみられる。192の下部はほぼ直立だが、口唇部付近からやや外反する。厚さは最大厚で1.7cm程度である。口唇部は平らで、外面は楕円文を施文する。内面はナデ調整の後口唇部にヨコナデ調整を施す。193はやや外反する。厚さは最大厚で1.5cm程度である。口唇部はやや外に傾く。外面は楕円文を施文する。内面はナデ調整の後口唇部にヨコナデ調整を施す。194は外傾し、厚さは1.2cm程度である。口唇部は平らで、楕円文を施文する。内面はナデ調整を施す。195は外反し、厚さは最大厚で1.0cm程度である。口唇部は外に傾き、外面は楕円文を施文する。内面はナデ調整の後口縁部上位から口唇部にかけてヨコナデ調整を施す。内面は部分的に指頭痕がみられる。196は外傾し、口唇部付近でやや強く外反する。厚さは最大厚で0.8cm程度である。口唇部は外に傾き、外面はナデ調整の

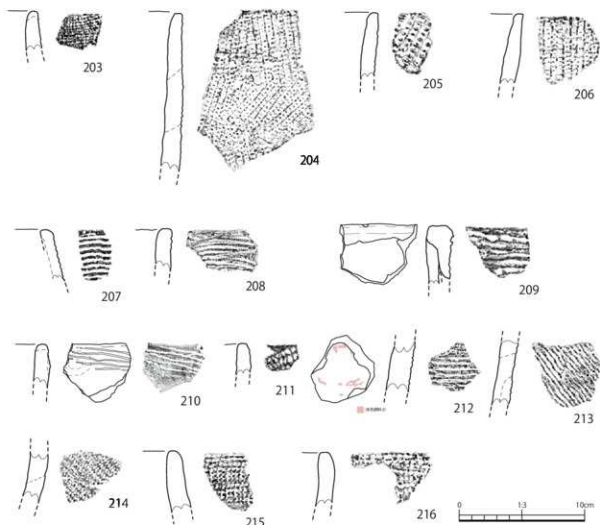


図 89 IV層上面出土土器実測図(S=1/3)

後外反し始める位置を上限とし大ぶりの楕円文を横位方向に施文する。内面はナデ調整の後口唇部にヨコナデ調整を施す。197・198は深鉢の胴部である。197の外表面はやや小ぶりの楕円文を施文する。内面は脆く調整痕は不明であるが、炭化物の付着がみられる。198の外表面は小ぶりの楕円文を施文する。内面はナデ調整を施す。199～202は深鉢の底部である。199の復元底径は13.4cmで、平底の外周がやや張り出す。胴部は緩やかに開く。胴部の外表面は楕円文を施文する。底面は不定形な組織痕がみられる。内面はナデ調整を施す。200は胴部下位まで残存する。復元底径は8.0cmで、平底で外周は張り出さず、胴部は直立した後外に開く。胴部の厚さは最大厚で0.8cm程度、底部は0.5cm程度である。胴部の外表面は楕円文を施文する。底面は何らかの圧痕があるか。内面はナデ調整を施す。201の復元底径は13.0cmで、平底で外周は張り出し、胴部は外に開く。胴部の外表面は楕円文を施文する。底面は網代の組織痕と不定形な圧痕の2種類の圧痕がみられる。内面はナデ調整を施す。202は平底で外周は張り出し、胴部は外に開く。内面はナデ調整を施す。203～206は深鉢の口縁部である。203はやや内傾し、厚さは最大厚で1.2cm程度である。口唇部は平らで、外表面は極小の格子文を施文する。内面は丁寧なヨコナデ調整を施す。204は胴部まで残存する。胴部はほぼ直立するが、口縁部でやや外反する。厚さは最大厚で1.4cm程度である。口唇部は平らであるが、部分的に口唇部に対し縦に向かって擦過痕がみられる。外表面は格子文を口縁部は横位方向に、胴部は斜位方向に施文する。内面は胴部にナデ調整、口縁部に擦過調整を施す。胴部の外表面にはススが多く付着する。205はやや外傾し、厚さは最大厚で1.1cm程度である。口唇部は丸みがあり、外表面には斜位方向に格子文を施文する。内面は擦過調整を施す。206は外傾し、厚さは最大厚で1.2cm程度である。口唇部は平らで、外表面は格子文を横位方向に施文する。内面はナデ調整を施す。207～209は深鉢の口縁部ある。207は外表面には二枚貝を用いた貝殻文を横位方向に施文する。内面は口唇部にナデ調整を施す。208はほぼ直立で、口唇部がやや外反

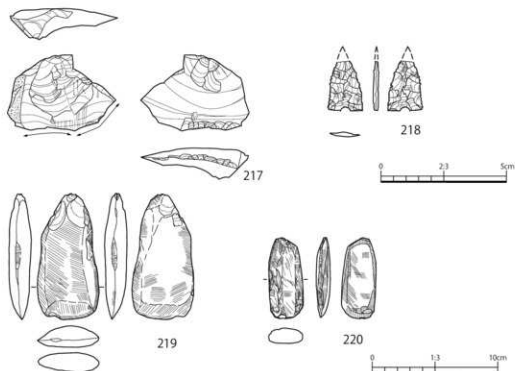


図90 IV層上面出土石器実測図(217・218はS=2/3、219・220はS=1/3)

する。厚さは1.4cm程度である。口唇部は平らで、外面は二枚貝を用いた貝殻文を横位方向に施文する。内面はナデ調整を施す。209は直立し、厚さは最大厚で2.0cm程度である。口唇部は平らで、外面は二枚貝を用いた貝殻文を横位方向に施文する。内面はナデ調整を施す。口唇部の粘土を貼り付けた箇所では土器が剥離しており、製作過程が観察できる資料である。210・211は深鉢の口縁部である。210はやや外傾し、口唇部は緩やかな丸みを帯びている。外面は5条の燃糸文を横位方向に施す。口唇部下に瘤状の粘土貼付がみられる。内面はナデ調整を施す。211はやや外傾する。厚さは1.1cm程度である。口唇部は平らで、外面は燃糸文を施文する。内面はナデ調整を施す。212～214は深鉢の胴部である。212の厚さは1.7cm程度である。外面糸文を横位方向に施文する。内面は脆く調整は不明瞭であるが、赤色顔料のような付着物が見られる。213の上部は粘土帯の接合部分で剥離している。厚さは1.3cm程度である。外面は燃糸文を斜位方向に施文

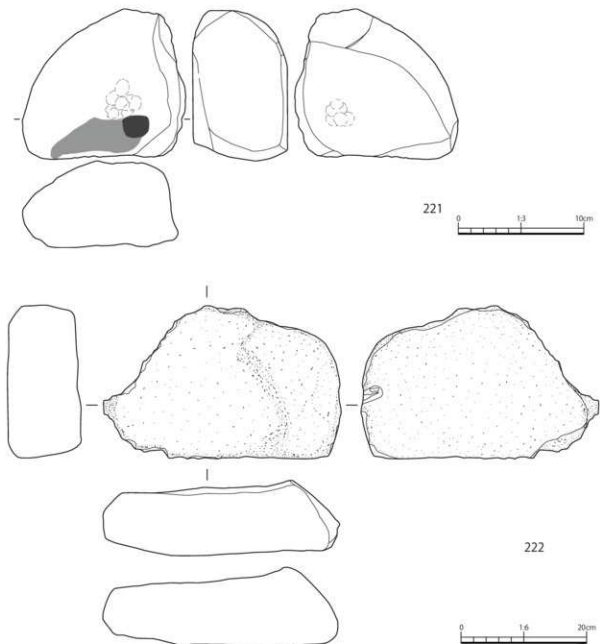


図91 IV層上面出土石器実測図(221はS=1/3、222はS=1/6)

する。内面はナデ調整を施す。214の厚さは1.4cm程度である。外面は捺糸文を施文する。内面はナデ調整を施す。215・216は深鉢の口縁部である。215は内反し、厚さは最大厚で1.6cm程度である。口縁部は平らで、外面は二枚貝を用いた貝殻刺突文を施す。内面はナデ調整の後口唇部にヨコナデ調整を施す。216は外傾し、厚さは最大厚で1.3cm程度である。口唇部は平らで、外面には二枚貝を用いた貝殻刺突文を施文する。内面はナデ調整の後口唇部にヨコナデを施す。

217～223はIV層上面で出土した石器である。217・218は黒曜石である。217は剥片である。左側面は自然面がみられる。剥片の先端に加工痕がみられる。218は石籤である。非常に薄く、長く、基部の挟りは僅かである。219・220は磨製石斧である。219は安山岩製である。全体を研磨しているが、基部は剥離痕を残す。両刃で、両側面に凹みがある。全体が風化している。220は蛇紋岩製の小型のものである。片刃で全面に丁寧な磨きを施す。221は敲石である。両面に敲打痕がみられ、片面に被熱痕がみられる。222は台石である。両面に磨り痕がみられる。

表31 IV層上面出土土器観察表

番号	図	出土位置	種類	器種 形式・特徴	部位	寸法 (cm)			調整法・特徴	色調	上段 / 下段	外面 内面	備考
						長さ	口径	厚さ					
164	0521	0427A 西層上面	講文早期	深鉢	口	-	-	-	外】 黒山山形押型文 内】 ナデ	01936/2C-511・黄褐色 01936/2C-511・黄褐色			
165	0610	0427B 西層上面	講文早期	深鉢	口	-	-	-	外】 黒山山形押型文、捺糸 内】 ナデ	2. 5YR6/4L2-511・黄 2. 5YR6/4L2-511・黄		口唇部に磨製痕 内面に粘土結核合痕	
166	0517	0426B 西層上面	講文早期	深鉢	口	-	-	-	外】 山形押型文 内】 ナデ	2. 5YR6/2C-511・黄 2. 5Y5/2黄褐色			
167	0220 0526 1562	0426C 西層上面 西層上面	講文早期	深鉢	口-胴	-	26.6	-	外】 山形押型文 (胴上、横走) 内】 捺糸、ナデ	01927/4C2-511・黄褐色 01936/4C2-511・黄褐色		縦断面に粘土結核合痕	
168	0512	0426A 西層上面	講文早期	深鉢	口	-	-	-	外】 黒山山形押型文 内】 ナデ、ヨコナデ	01935/2C-511・黄褐色 01935/4C2-511・黄褐色			
169	0600	0426B 西層上面	講文早期	深鉢	口	-	-	-	外】 黒山山形押型文 内】 ナデ	01935/2C-511・黄褐色 01936/2C-511・黄褐色		内面のナデは強く行われて いる	
170	0380	0427D 西層上面	講文早期	深鉢	口	-	-	-	外】 黒山山形押型文 内】 ナデ、ヨコナデ	01936/4C2-511・黄褐色 01936/4C2-511・黄褐色		縦断面に粘土結核合痕	
171	0523	0426C 西層上面	講文早期	深鉢	口	-	-	-	外】 黒山山形押型文 内】 ナデ	01935/4C2-511・黄褐色 2. 5YR6/4L2-511・黄			
172	0381	0426C 西層上面	講文早期	深鉢	口	-	-	-	外】 黒山山形押型文 内】 ナデ	01935/2C-511・黄褐色 01936/2C-511・黄褐色			
173	0532	0426D 西層上面	講文早期	深鉢	胴	-	-	-	外】 黒山山形押型文 内】 ナデ	01936/4B黄褐色 01936/2C-511・黄褐色		縦断面に粘土結核合痕 内面に磨り痕	
174	0547 1560	0426B 西層上面	講文早期	深鉢	胴	-	-	-	外】 黒山山形押型文 内】 ナデ	2. 5YR6/4L2-511・黄 01935/2C黄褐色		縦断面に粘土結核合痕	
175	0360	0427A 西層上面	講文早期	深鉢	底	-	-	-	外】 製法： 黒山山形押型文 底面： ナデ	01936/4黄褐色 01927/4C2-511・黄褐色		縦断面に粘土結核合痕	
176	0579	0426C 西層上面	講文早期	深鉢	底	-	-	16.9	外】 製法： 黒山山形押型文 底面： 網代打痕 内】 ナデ	2. 5YR7/4L2-511・黄 2. 5YR6/4L黄褐色		内面に磨り痕	
177	0496 0527	0427D 磨製燧石製削 0426C 西層上面	講文早期	深鉢	底	-	-	-	外】 製法： 押型文 (山形) 底面： 網代打痕 内】 剥落のため不明	01936/4黄褐色 01934/4黄褐色		動物は植物の茎を利用 01934/4黄褐色	
178	0606 0613	0426B 西層上面 0427C 西層上面	講文早期	深鉢	底	-	-	13.0	外】 製法： 黒山山形押型文 底面： 動物打痕 内】 ナデ	01927/4C2-511・黄 褐色、2. 5YR2/4L2-511・黄 01927/4C2-511・黄褐色		縦断面に粘土結核合痕	
179	0618	0427A 西層上面	講文早期	深鉢	底	-	-	-	外】 製法： 押型文 (山形) 底面： 動物打痕 内】 ナデ	2. 5YR6/4黄褐色 2. 5YR5/2黄褐色		縦断面に粘土結核合痕 内面に磨り痕	
180	0534	0426B 西層上面	講文早期	深鉢	口-胴	-	-	-	外】 黒山山形押型文、ヨコナデ 内】 黒山山形押型文、捺糸条痕、 ナデ	01936/2C黄褐色 01936/4C2-511・黄褐色		外面の磨り文と内面の磨り 文の厚さは異なる 内面に磨り痕	
181	0620	0427C 西層上面	講文早期	深鉢	口	-	-	-	外】 ナデ 内】 黒山山形押型文、捺糸条痕	01927/4C2-511・黄褐色 01927/4C2-511・黄褐色			
182	0367	0426A 西層上面	講文早期	深鉢	胴	-	-	-	外】 黒山山形押型文、ナデ 内】 黒山山形押型文、ナデ	01927/2C-511・黄褐色 01927/2C-511・黄褐色		内面上段にも黒山山形押型文 縦断面に粘土結核合痕	
183	0602	0426B 西層上面	講文早期	深鉢	胴	-	-	-	外】 黒山山形押型文、ナデ 内】 黒山山形押型文、ナデ	01927/4C2-511・黄褐色 01927/4C2-511・黄褐色		縦断面に粘土結核合痕	
184	0521	0426B 西層上面	講文早期	深鉢	胴	-	-	-	外】 黒山山形押型文、ナデ 内】 黒山山形押型文、ナデ	01936/2C黄褐色 01936/4C黄褐色		内面上段にも黒山山形押型文 縦断面に粘土結核合痕	
185	0608	0427A 西層上面	講文早期	深鉢	口	-	-	-	外】 黒山山形押型文、ヨコナデ 内】 ナデ、ヨコナデ	01927/4B黄褐色 01927/4C2-511・黄褐色			
186	0603	0426B 西層上面	講文早期	深鉢	口	-	-	-	外】 黒山山形押型文 内】 ナデ、ヨコナデ	01935/2C黄褐色 01935/2C黄褐色		縦断面に粘土結核合痕	

番号	ID	出土位置	種別・器種 形式・時期	部位	流量 (ml)			調整ほか特徴	色調・上段・ 下段・内面 外面	備考
					流量	口径	底径			
187	0584 1581	9022C IV層上面	調文早期 深鉢	口	-	-	-	外】赤土焼内押型文 内】黒褐色ナツ	9197/42.25+黄緑 9198/42.25+黄緑	外面に僅存
188	0589	9027B IV層上面	調文早期 深鉢	口	-	-	-	外】黒土焼内押型文 内】ナツ	9199/48焼 9199/42.25+黄緑	内面に縦方向の彫刻痕
189	0540 0582	9022C IV層上面	調文早期 深鉢	口+胴	-	32.4	-	外】黒土焼内押型文 内】ナツ	9197/48焼 9197/42.25+黄緑	内面に彫刻痕 調整面に粘土緑線合痕
190	0605	9430B IV層上面	調文早期 深鉢	口	-	-	-	外】赤土焼内押型文 内】ナツ、ヨコナツ	9197/42.25+黄緑 9197/42.25+黄緑	
191	0581	9029D IV層上面	調文早期 深鉢	口+胴	-	-	-	外】赤土焼内押型文 内】ナツ	9197/42.25+黄緑 9197/42.25+黄緑	内外面に彫刻痕 調整面に粘土緑線合痕
192	0609	9430A IV層上面	調文早期 深鉢	口	-	-	-	外】黒土焼内押型文、ヨコナツ 内】ナツ、ヨコナツ	2. 9195/6 明焼 9198/42.25+黄緑	調整面に粘土緑線合痕
193	0589	9028B IV層上面	調文早期 深鉢	口	-	-	-	外】押型文（横筋） 内】ナツ、ヨコナツ	2. 9195/6 明焼 9198/42.25+黄緑	
194	0519	9030B IV層上面	調文早期 深鉢	口	-	-	-	外】黒土焼内押型文 内】ナツ、ヨコナツ	9198/42.25+黄緑 9197/20.25+黄緑	調整面に粘土緑線合痕
195	0617	9027A IV層上面	調文早期 深鉢	口	-	-	-	外】赤土焼内押型文 内】ナツ、ヨコナツ	9197/42.25+黄緑 9198/48焼	内面に彫刻痕
196	0531	9430D IV層上面	調文早期 深鉢	口	-	-	-	外】ヨコナツ、黒土焼内押型文 内】ヨコナツ、ナツ	9199/48焼 9197/20.25+黄緑	口縁部に施文無し
197	0491	9022D IV層上面	調文早期 深鉢	胴	-	-	-	外】黒土焼内押型文 内】不明	9198/48焼 9198/42.25+黄緑	内面に炭化物が全面に付着
198	0572	9027B IV層上面	調文早期 深鉢	胴	-	-	-	外】黒土焼内押型文 内】ナツ	9198/48焼 9198/48焼	
199	0612	9427B IV層上面	調文早期 深鉢	底	-	-	13.4	外】調整・横筋押型文 底筋・縦線紋 ナツ	9197/48明焼 9198/48焼	調整面に粘土緑線合痕
200	0227	9030A IV層上面	調文早期 深鉢	底	-	-	11.6	外】調整・横筋押型文 底筋・縦線紋 ナツ	9197/42.25+黄緑 9197/20.25+黄緑	
201	0589	9029A IV層上面	調文早期 深鉢	底	-	-	13.0	外】調整・横土焼内押型文 底筋・調代と不明正底 ナツ	2. 9197/48焼 2. 9198/20.25+黄緑	
202	0528 0585	9039C IV層上面	調文早期 深鉢	底	-	-	-	外】調整・横土焼内押型文 底筋・調代正底 ナツ	9198/48焼 9195/20.25+黄緑	調整面に粘土緑線合痕
203	0518	9038B IV層上面	調文早期 深鉢	口	-	-	-	外】黒土焼内押型文 内】ヨコナツ	9194/48焼 9195/42.25+黄緑	丁寧な作り 調整面に粘土緑線合痕
204	0578	9039C IV層上面	調文早期 深鉢	口+胴	-	-	-	外】横土焼内押型文（横筋・縦土） 内】ヨコナツ、横筋	9197/42.25+黄緑 2. 917/48焼	外底下部に炭化物付着 調整面に粘土緑線合痕
205	0524	9039C IV層上面	調文早期 深鉢	口	-	-	-	外】黒土焼内押型文 内】ヨコナツ、横筋	9198/42.25+黄緑 9198/20.25+黄緑	横筋押型文の可能性もあり
206	0380	9029D IV層上面	調文早期 深鉢	口	-	-	-	外】横土焼内押型文 内】ナツ	9197/42.25+黄緑 9197/42.25+黄緑	
207	0380	9028D IV層上面	調文早期 深鉢	口	-	-	-	外】直筒赤飯 内】ナツ	9198/42.25+黄緑 9198/20.25+黄緑	一貫式土器
208	0540	9030D IV層上面	調文早期 深鉢	口	-	-	-	外】直筒赤飯 内】直筒赤飯 ナツ	9198/42.25+黄緑 2. 914/20.25+黄緑	一貫式土器
209	0576	9022D IV層上面	調文早期 深鉢	口	-	-	-	外】直筒赤飯 内】ナツ	9197/48明焼 9197/48焼 9197/42.25+黄緑	一貫式土器 調整面上に黒質在時の粘土 粒を挟み込む部分にできた 凹がありその部分で磨滅し ている
210	0615	9027A IV層上面	調文早期 深鉢	口	-	-	-	外】黒土文・ナツ 内】ナツ	9198/42.25+黄緑 9198/20.25+黄緑	左端赤土焼土器 外面口縁下に黒質付の磨滅 痕あり
211	0523	9038D IV層上面	調文早期 深鉢	口	-	-	-	外】黒土文 内】ナツ	9195/42.25+黄緑 9198/42.25+黄緑	
212	0611	9427B IV層上面	調文早期 深鉢	胴	-	-	-	外】黒土文（横筋） 内】不明	9198/42.25+黄緑 9198/20.25+黄緑	内面に赤色顔料付着か
213	0607	9027A IV層上面	調文早期 深鉢	胴	-	-	-	外】黒土文 内】ナツ	2. 9195/42.25+黄緑 9195/42.25+黄緑	調整面に粘土の磨き目確認
214	0320	9038B IV層上面	調文早期 深鉢	口	-	-	-	外】黒土文 内】ナツ	9198/42.25+黄緑 9198/42.25+黄緑	
215	0587	9029A IV層上面	調文早期 深鉢	口	-	-	-	外】ヨコナツ、直筒赤飯文 内】ヨコナツ、ナツ	9198/48焼 9198/48焼	
216	0586	9029A IV層上面	調文早期 深鉢	口	-	-	-	外】ヨコナツ、直筒赤飯文 内】ヨコナツ、ナツ	9197/42.25+黄緑 9194/48焼+黄緑	

表32 IV層上面出土石器観察表

番号	ID	出土位置	機理	石材	流量				調整ほか特徴	備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重さ (g)		
217	3152	9027B IV層上面	調整面のある剥片	黒曜石	3.90	4.40	1.20	10.57		下面に調整痕

番号	ID	出土位置	機種	石材	法量				調整ほか特徴	備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重さ (g)		
218	3107	9429C IV層 上面 S109	石礫	黒曜石	2.00	1.40	0.20	0.53		先端欠
219	3151	9426B IV層 上面	磨製石斧 (両刃)	安山岩	10.00	4.90	1.20	105.82		定形 風化が激しい
220	3140	9227B IV層 上面 S110	磨製石斧 (片刃)	蛇紋岩	6.40	2.70	1.20	17.65		定形
221	3106	9327C IV層 上面 S106	鎌石	安山岩	11.70	12.50	7.50	934.51		両面中央に縦打痕 焼 熱
222	3105	9327C IV層 上面	石斧	角閃石安山岩	24.50	38.00	2.50	16190.0		

・IV層

223・224はIV層の土器
で口縁部である。223は
第七群、224は第1群で
ある。223は内傾する。
厚さは最大厚で1.1cm程
度である。口唇部はやや
鋭角で、外面はナデ調整
を施す。内面はナデ調整
を施し、指頭痕がみられ
る。224はやや外反する。
厚さは最大厚で1.3cm程
度である。口唇部は平ら
で、外面はナデ調整の後
口唇部から1cm程度下が
った部分を上限として
横方向に山形文を施
す。内面はナデ調整
の後口唇部にヨコナデ調整を施す。

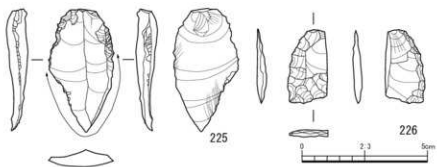
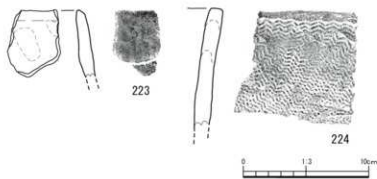


図 92 IV層出土遺物実測図(223・224はS=1/3、225・226はS=2/3)

225・226はIV層の石器である。225は黒曜石の剥片である。両側面に基部加工を施す。先端に使用痕と思
われる微細剥離がみられる。226は安山岩の剥片である。剥片の左側面に剥離加工した後、先端にも剥離加
工を施す。

表33 IV層出土石器観察表

番号	ID	出土位置	種類 器種 形式・時期	部位	法量 (cm)			調整ほか特徴	色調 上段 外側 下段 内側	備考
					長さ	口径	厚径			
223	9632	9427A IV層 P2	縄文早期 深鉢 無文土器	口	-	-	-	外】ナデ 内】ナデ	9497/62, 911・黄銅 9497/62, 911・黄銅	内面に指頭痕
224	9219	9427A IV層 P211	縄文早期 深鉢	口~胴	-	-	-	外】ヨコナデ 山形野山文 (横文、斜文) 内】ヨコナデ	9496/62, 911・黄銅 9495/296黄銅	

表34 IV層出土石器観察表

番号	ID	出土位置	機種	石材	法量				調整ほか特徴	備考
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚み (cm)	重さ (g)		
225	3106	9427A IV層 S107	調整痕のある剥片	黒曜石	4.90	2.50	0.70	6.93		両側面に調整痕と方ご ばれあり
226	3154	9427A IV層	調整痕のある剥片	安山岩	2.80	1.50	0.40	2.23		右側面欠

IV. 自然科学分析

(1) 寺中A遺跡出土黒曜石資料の産地推定

長崎県埋蔵文化財センターでは、2014年以来主に九州圏内から産出する黒曜石原石及び安山岩(サスカイト)の分析データを蓄積し、遺跡出土黒曜石資料の産地推定を実施している(片多2015)。分析には、エネルギー分散型蛍光X線分析装置を用いて非破壊で定性分析を実施し、判別図法によって原産地を推定している。

今回、寺中A遺跡から出土した42点の資料(図3)を対象に蛍光X線分析を実施した結果を記す。

装置の仕様及び分析条件は以下のとおり。エネルギー分散型蛍光X線分析装置：SIIナノテクノロジー株式会社(現株式会社日立ハイテクサイエンス)製「SEA1200VX」を使用した。下面照射式で照射径は8mmΦ。Rh(ロジウム)管球、SDD検出器で液体窒素を要しない。分析条件は管電圧40kVで管電流は抵抗値によって自動設定とした。大気雰囲気、測定時間100秒(デッドタイム30%前後でのライブタイム)で分析を行った。産地推定の手法は、測定した元素のうち、K(カリウム)、Mn(マンガン)、Fe(鉄)、Rb(ルビジウム)、Sr(ストロンチウム)、Y(イットリウム)、Zr(ジルコニウム)の7元素のX線強度(CPS 値)から下記の①～④のパラメータを用いて、①・②の散布図(以下、Rb散布図)と、③・④の散布図(以下、Sr散布図)の2種類の散布図(判別図)を作成するという望月明彦氏の開発した手法に基づいている(望月1997)。

$$\textcircled{1} \text{ Mn 強度} \times 100 / \text{Fe 強度}$$

$$\textcircled{2} \text{ Rb 分率} = (\text{Rb 強度} \times 100) / (\text{Rb 強度} + \text{Sr 強度} + \text{Y 強度} + \text{Zr 強度})$$

$$\textcircled{3} \text{ Log(Fe 強度} / \text{K 強度)}$$

$$\textcircled{4} \text{ Sr 分率} = (\text{Sr 強度} \times 100) / (\text{Rb 強度} + \text{Sr 強度} + \text{Y 強度} + \text{Zr 強度})$$

分析結果を表1に、判別図を図2に示す。分析IDには長崎県埋蔵文化財センターが出土品に付与し管理している遺物ID(遺跡調査番号-遺物番号)を使用している。

分析の結果、42点中そのほとんどを占める37点は『腰岳(佐賀県伊万里市)』を示した。他5点の内訳は、[3012・3050・3121]の3点は『椎葉川(佐賀県嬉野市)』、[3122]は『上土井行(長崎県西海市)』、[3171]は『牛ノ岳(長崎県佐世保市)』を示した(図1)。

以上の結果は、島原半島における上油掘・下油掘遺跡で出土した資料の分析結果(横山 2017)や畑中遺跡で出土した資料の分析結果(片多 2021)とも共通するものであり、本地域においては腰岳産黒曜石が主な給源地であったと考えられる。



図1 遺跡及び黒曜石産地の位置図

(参考文献)

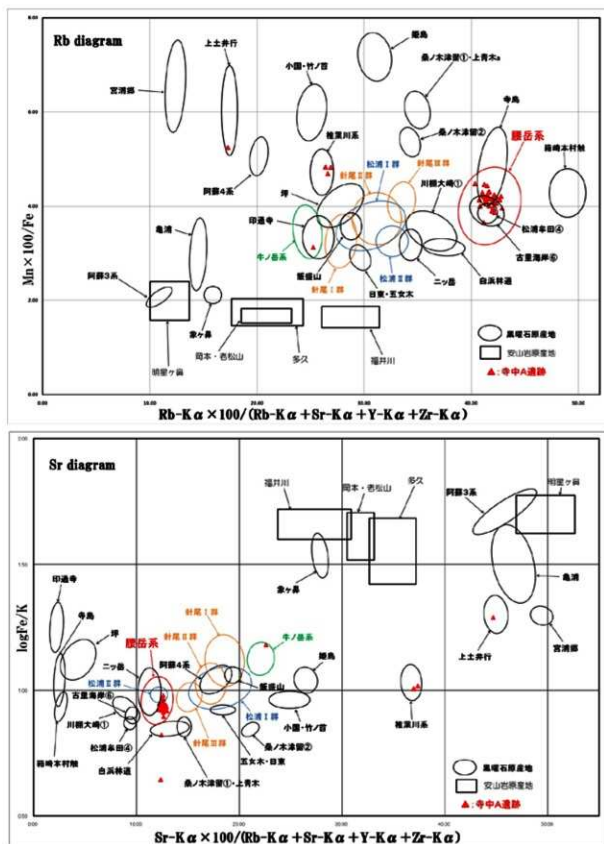
片多雅樹2015「判別法を用いた黒曜石の産地推定～基礎データの構築～」『長崎県埋蔵文化財センター研究紀要第5号』長崎県埋蔵文化財センター

望月明彦1997「蛍光X線分析による中部・関東地方の黒曜石産地の判別」『X線分析の進歩第28集』アグネ技術センター

横山精士2017「蛍光X線分析による黒曜石の産地推定」『上油掘遺跡・下油掘遺跡』島原市文化財調査報告書第17集

片多雅樹2021「畑中遺跡出土黒曜石の蛍光X線分析」『畑中遺跡』長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第39集

分析ID (通物番号)	分析結果 (産地推定)		蛍光X線検出強度 (cps値)								Rb判別係		Sr判別係	
	石材	判定	K	Mn	Fe	Rb	Sr	Y	Zr	Rb分率	3σ×100PPM	Sr分率	logF _{Fe/K}	
JCA02210-3004	黒曜石	隴谷系	59.168	21.660	504.257	290.890	89.172	122.856	205.792	41.04	4.30	12.58	0.93	
JCA02210-3012	黒曜石	横瀬川	55.758	26.586	566.492	222.083	307.968	85.129	218.200	26.65	4.69	36.95	1.01	
JCA02210-3021	黒曜石	隴谷系	59.063	22.230	524.624	297.413	91.184	124.439	211.536	41.05	4.24	12.58	0.95	
JCA02210-3044	黒曜石	隴谷系	73.796	24.915	621.300	332.099	98.586	134.948	247.829	40.83	4.01	12.12	0.93	
JCA02210-3050	黒曜石	横瀬川	65.645	32.223	667.151	251.551	345.524	93.702	243.296	26.93	4.83	36.99	1.01	
JCA02210-3053	黒曜石	隴谷系	70.820	27.392	653.645	316.824	95.069	126.802	215.177	42.03	4.19	12.61	0.97	
JCA02210-3058	黒曜石	隴谷系	83.614	23.250	556.547	304.789	90.143	124.802	206.113	41.99	4.18	12.42	0.82	
JCA02210-3059	黒曜石	隴谷系	65.205	23.280	559.378	310.330	93.542	126.592	216.553	41.54	4.16	12.52	0.93	
JCA02210-3081	黒曜石	隴谷系	38.844	14.049	345.277	167.970	48.349	66.154	114.181	42.35	4.07	12.19	0.95	
JCA02210-3084	黒曜石	隴谷系	66.124	22.536	541.572	300.850	91.673	125.053	209.789	41.36	4.16	12.60	0.91	
JCA02210-3085	黒曜石	隴谷系	73.345	25.843	609.091	320.090	97.674	128.835	212.880	42.15	4.24	12.86	0.92	
JCA02210-3089	黒曜石	隴谷系	68.005	25.073	600.346	323.103	96.611	134.323	224.018	41.53	4.18	12.42	0.95	
JCA02210-3075	黒曜石	隴谷系	63.872	22.763	551.512	296.527	90.530	121.082	197.296	42.03	4.13	12.83	0.94	
JCA02210-3083	黒曜石	隴谷系	58.905	22.914	515.807	291.950	86.102	120.456	204.971	41.50	4.44	12.24	0.94	
JCA02210-3086	黒曜石	隴谷系	81.887	28.683	723.014	350.548	103.919	135.336	227.586	42.89	3.97	12.71	0.95	
JCA02210-3088	黒曜石	隴谷系	66.619	24.305	576.492	316.788	92.427	123.482	207.787	42.78	4.22	12.48	0.94	
JCA02210-3107	黒曜石	隴谷系	82.286	28.443	720.313	360.505	108.857	145.895	241.248	42.09	3.95	12.71	0.94	
JCA02210-3108	黒曜石	隴谷系	63.519	22.098	541.336	292.845	88.967	123.311	202.699	41.37	4.08	12.57	0.93	
JCA02210-3119	黒曜石	隴谷系	62.981	22.013	538.674	303.558	91.512	125.492	214.730	41.28	4.09	12.45	0.93	
JCA02210-3121	黒曜石	横瀬川系	65.050	32.767	677.861	259.984	367.597	100.051	256.013	26.43	4.83	37.37	1.02	
JCA02210-3122	黒曜石	土上井行	46.693	47.789	910.658	150.561	389.241	85.375	245.841	17.29	5.25	44.69	1.29	
JCA02210-3123	黒曜石	隴谷系	71.594	23.988	597.328	310.242	93.545	127.865	213.139	41.65	4.02	12.56	0.92	
JCA02210-3126	黒曜石	隴谷系	64.703	22.591	618.298	281.889	86.217	115.519	201.124	41.17	3.65	12.59	0.98	
JCA02210-3127	黒曜石	隴谷系	65.381	23.673	561.703	297.984	92.642	122.992	204.705	41.48	4.21	12.90	0.93	
JCA02210-3129	黒曜石	隴谷系	59.392	21.223	503.725	286.890	89.269	119.832	200.478	41.19	4.21	12.82	0.93	
JCA02210-3131	黒曜石	隴谷系	73.947	28.800	687.543	323.791	95.622	129.638	214.354	42.41	4.19	12.53	0.97	
JCA02210-3136	黒曜石	隴谷系	68.035	25.188	564.426	307.267	96.619	127.527	213.583	41.24	4.46	12.97	0.92	
JCA02210-3145	黒曜石	隴谷系	67.282	23.310	586.500	306.475	92.397	123.331	206.938	42.03	3.97	12.67	0.94	
JCA02210-3146	黒曜石	隴谷系	66.339	24.710	576.532	302.606	90.890	124.069	210.726	41.55	4.29	12.48	0.94	
JCA02210-3182	黒曜石	隴谷系	66.014	22.504	549.579	308.174	92.368	127.265	215.610	41.45	4.09	12.42	0.92	
JCA02210-3155	黒曜石	隴谷系	65.089	23.761	566.187	308.327	95.359	127.030	215.186	41.34	4.20	12.78	0.94	
JCA02210-3156	黒曜石	隴谷系	71.775	25.341	612.947	311.299	95.953	129.635	226.807	40.76	4.13	12.56	0.93	
JCA02210-3157	黒曜石	隴谷系	69.930	23.826	604.323	304.416	91.074	122.992	205.775	42.03	3.94	12.57	0.94	
JCA02210-3158	黒曜石	隴谷系	117.148	21.351	516.304	311.231	90.079	123.483	204.771	42.66	4.14	12.35	0.64	
JCA02210-3159	黒曜石	隴谷系	65.373	21.640	515.029	301.917	91.671	125.117	207.807	41.56	4.20	12.62	0.90	
JCA02210-3180	黒曜石	隴谷系	55.752	21.266	474.693	275.359	85.217	120.631	201.046	40.36	4.48	12.49	0.93	
JCA02210-3181	黒曜石	隴谷系	60.739	22.749	527.228	290.030	89.720	117.537	198.567	41.68	4.31	12.89	0.94	
JCA02210-3182	黒曜石	隴谷系	68.081	22.431	573.888	305.072	91.474	123.616	207.347	41.93	3.91	12.57	0.93	
JCA02210-3183	黒曜石	隴谷系	70.881	23.982	620.185	307.178	93.150	123.032	204.900	42.18	3.87	12.79	0.94	
JCA02210-3184	黒曜石	隴谷系	70.770	25.502	613.430	321.817	97.360	132.977	218.413	41.76	4.16	12.63	0.94	
JCA02210-3185	黒曜石	隴谷系	66.448	23.918	583.836	309.540	92.657	125.474	209.450	41.99	4.10	12.57	0.94	
JCA02210-3171	黒曜石	牛ノ島系	56.475	26.873	857.396	218.593	195.580	98.290	352.041	25.29	3.13	22.62	1.18	



標石系: 標石, 有田川, 松浦川群 (松浦中田①, 松浦大崎②), 古里海岸③
 牛ノ岳系: 牛ノ岳 (土器田), 針尾米塚基地, 久木米塚基地, 殿台山, 前田陣栗塚, 殿船神社・東浜
 標葉川系: 標葉川, 古里海岸②
 阿蘇4系: 園見町海岸, 神代海岸, 和泉町, 和石
 松浦1群: 松浦中田①, 松浦大崎②
 松浦2群: 松浦中田③, 松浦大崎③
 針尾1群: 針尾中町①, 古里海岸④
 針尾2群: 針尾中町②, 古里海岸⑤
 針尾3群: 針尾中町③, 古里海岸⑥
 阿蘇3系: 御船町, 長谷峠
 松浦3群: 松浦中田④, 松浦大崎④
 針尾4群: 針尾中町④, 古里海岸⑦
 小園系: 小園, 竹ノ首

図2 石製品産地推定判別図(上: Rb散布図, 下: Sr散布図)

JCA202210(寺中A遺跡)-遺物番号



図3 分析資料写真(産地:未記入は腰岳)

(2) 寺中A遺跡の自然科学分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

島原市に所在する寺中A遺跡は、島原半島東部の火山麓扇状地上に位置する。これまでの発掘調査により、弥生時代の遺構・遺物が確認されている。調査区内の土層断面は、黒色や褐色を呈するいわゆる火山灰土の累積する様相を呈しており、雲仙火山を給源とする火山噴出物(テフラ)の堆積層は、それほど明瞭ではない。

本分析調査では、土層中に包含される火山砕屑物を検出し、分析することによって調査区内の土層の層序を確認する。特に、始良 Tn テフラ(AT:町田・新井, 1976)および鬼界アカホヤテフラ(K-Ah:町田・新井, 1978)など、細粒の火山ガラスからなる遠来のテフラの産状に注目し、層序を検証する。また、遺構から出土した炭化材の放射性炭素年代測定を実施し、年代に係る資料の作成も行う。

1. テフラの分析

1. 試料

調査区内の基本土層は、発掘調査所見により、上位より I 層から VIII 層までの分層がなされている。これらのうち、I 層は耕作土、II 層は黒色土、III 層は褐色土、IV 層は黒褐色土、V 層は黄灰色硬質ブロック層とされ、VI 層は黒褐色土を挟む灰色土、VII 層は黒色土、VIII 層は黄色土とされている。また、II 層と III 層は a～c に細分され、VI 層は a～e までの各層に細分されている。

試料は、調査区東壁と南西トレンチ南壁の2箇所にて採取され、前者では II b 層から V 層中部まで、後者では V 層中部から VIII 層上部までの各層位にわたって採取されている。試料は、厚さ 10cm で連続に、前者では No. 1～No. 15 までの 15 点が採取され、後者では No. 16～28 までの 13 点が採取されている。各試料の採取層位は、分析結果を呈示した図1と2に柱状図として併記する。

2. 分析方法

(1) 火山ガラス比分析

前述したように細粒の火山ガラスの産状を明らかにするために火山ガラス比分析を行う。分析の対象とされた試料は、No. 4～8、11、16、18～24、26、28の合計16点である。本報告では、これら16点について便宜的に試料番号1～16までの番号も付されている。以下に処理過程を述べる。

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4mm-1/8mmの砂分をポリタングステン酸ナトリウム(比重約2.96に調整)により重液分離し、軽鉱物分における砂粒を250粒数え、その中の火山ガラスの量比を求める。火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。また、火山ガラス比分析における「その他」とは、軽鉱物分における火山ガラス以外の粒子(石英や長石類などの鉱物粒子および風化変質粒など)である。

(2) 屈折率測定

火山ガラスおよび重鉱物斑晶を対象として、No. 5、7、16、19、24、26、28の合計7点の試料について行う。なお、重鉱物斑晶については、火山ガラス比分析の結果から、それぞれUK-AhとATの降灰層準と考えられるNo. 7とNo. 24は斜方輝石を対象とし、他の試料については重鉱物の主体を占める角閃石を対象とした。屈折率の測定は、古澤(1995)のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

3. 結果

(1) 火山ガラス比分析

結果を表1、図1、図2に示す。調査区東壁では、IIIc層のNo. 7とIV層のNo. 8に少量のバブル型火山ガラスが認められた。火山ガラスの中には褐色を帯びたものも微量含まれる。他の試料では、火山ガラスは極めて微量かほとんど含まれない。

南西トレンチ南壁では、VII層最上部No. 24とVIe層No. 23に明瞭なバブル型火山ガラスの濃集層準が認められた。バブル型火山ガラスは、No. 22以上にも少量含まれるが上位ほど減少する傾向が示され、V層下部のNo. 16には極めて微量しか含まれない。また、VII層中部のNo. 26やVIII層上部のNo. 28には火山ガラスは極めて微量しか含まれない。なお、バブル型火山ガラスの含まれる試料には少量の中間型や少量または微量の軽石型も伴われる。

(2) 屈折率測定

火山ガラス、斜方輝石、角閃石のそれぞれの結果を図3～5に示す。以下に火山ガラス、斜方輝石、角閃石に分けて述べる。

1) 火山ガラス

南西トレンチ南壁VII層No. 24のバブル型火山ガラスの濃集層準における火山ガラスの屈折率は、n₁. 497-1. 501のレンジを示し、n₁. 498-1. 499に高い集中度を示す。同地点のNo. 19やNo. 16の火山ガラスも概ね同様のレンジを示す。一方、調査区東壁IIIc層No. 7とIIIa層No. 5では、レンジがn₁. 508-1. 514でモードがn₁. 509付近を示す火山ガラスが主体を占め、n₁. 499付近の火山ガラスは微量混在するのみである。

南西トレンチ南壁VII層No. 26とVIII層No. 28では、n₁. 496-1. 500のレンジを示す火山ガラスが少量含まれ、n₁. 506-1. 508のレンジを示す火山ガラスも極めて微量混在する。

表1. 火山ガラス比分析結果

試料番号	地点名	層名	試料No.	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	合計
1	調査区東壁	IIIa	4	0	2	0	248	250
2			5	1	1	0	248	250
3		IIIb	6	4	1	0	245	250
4		IIIc	7	17	2	0	231	250
5		IV	8	8	0	4	238	250
6			11	3	5	0	242	250
7	南西トレンチ南壁	V	16	3	2	1	244	250
8		VIa	18	12	12	1	225	250
9			19	10	6	1	233	250
10		VIb	20	14	14	5	217	250
11			21	19	24	2	205	250
12		VIc	22	32	15	11	192	250
13		VIe	23	86	2	18	144	250
14		VII	24	66	11	7	166	250
15			26	1	4	1	244	250
16		VIII	28	1	4	0	245	250

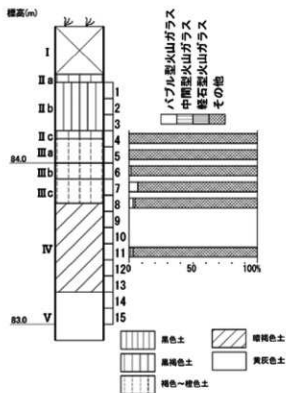


図1. 調査区東壁試料の火山ガラス比

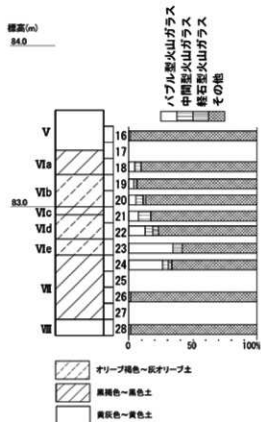


図2. 南西トレンチ南壁試料の火山ガラス比

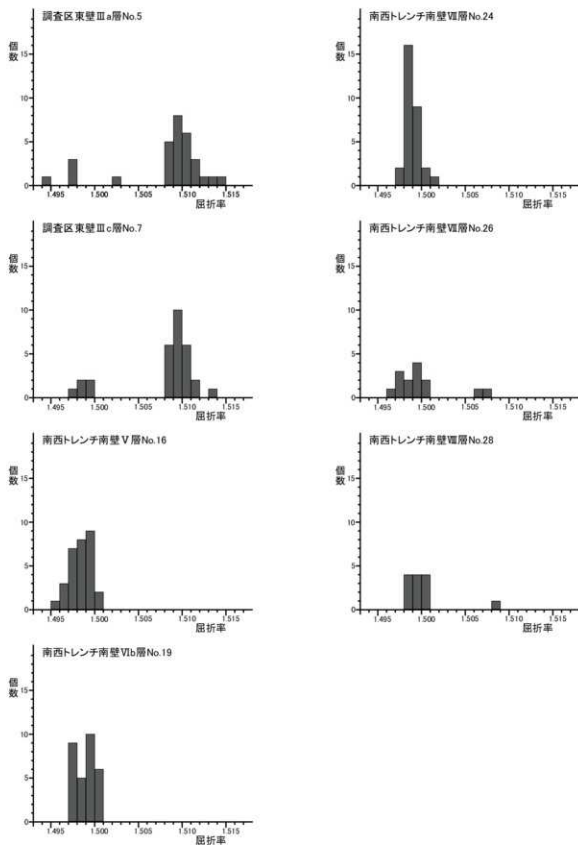


図3. 火山ガラスの屈折率

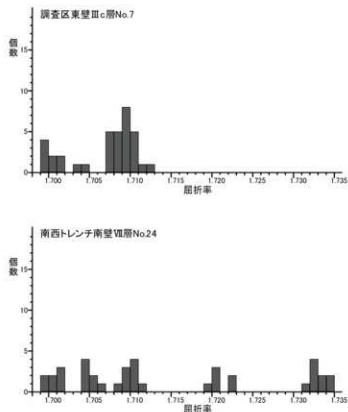


図4. 斜方輝石の屈折率

2) 斜方輝石

南西トレンチ南壁VII層No. 24のバブル型火山ガラスの濃集層準における斜方輝石の屈折率は、 γ 1.699～1.734までの非常に広いレンジを示すが、詳細には、 γ 1.699-1.706の最低屈折率のレンジと γ 1.708-1.711の低屈折率のレンジ、 γ 1.719-1.722の中屈折率のレンジ、 γ 1.731-1.734の高屈折率のレンジとに判れる。

調査区東壁IIIc層No. 7では、 γ 1.707-1.712のレンジを示す斜方輝石が主体を占め、 γ 1.699-1.704の低屈折率の斜方輝石が少量混在する。

3) 角閃石

調査区東壁IIIa層No. 5と南西トレンチ南壁V層No. 16では、レンジの値が n_1 1.672-1.692と非常に広いが、主要なレンジは n_2 1.677-1.682にある。同IVb層No. 19のレンジは n_2 1.673-1.686であるが、主要なレンジは上述した2点の試料とほぼ同様である。

南西トレンチ南壁VII層No. 26のレンジは n_1 1.672-1.680であり、モードは n_2 1.678付近にある。同VIII層No. 28のレンジは n_1 1.672-1.683であり、モードは n_2 1.676付近と n_2 1.680付近の複数ある。

4. 考察

本分析結果から、最も明瞭かつ有効な対比指標は、南西トレンチ南壁のVII層最上部からVIe層に認められたバブル型火山ガラスの濃集層準である。この火山ガラスは、その形態と屈折率の値および同試料中

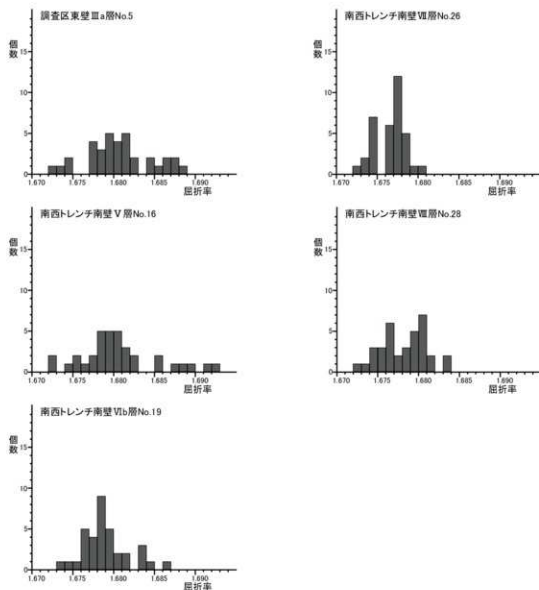


図5. 角閃石の屈折率

の斜方輝石の屈折率に γ 1.730を超える高屈折率が確認されたことにより、鹿児島湾奥部の始良カルデラを給源とするATに由来する。南西トレンチ南壁におけるATの産状は、ATが降灰後に攪乱と再堆積を繰り返したことを示唆しているが、このように土壤中に特定テフラが混交して産出する場合はテフラ最濃集部の下限がそのテフラの降灰層準にはほぼ一致すると言われている(早津, 1988)。南西トレンチ南壁のⅦ層No. 26の火山ガラスの産状を考慮すれば、本地点のATの降灰層準はⅦ層最上部のNo. 24付近に推定される。なお、ATの噴出年代については、水月湖の年縞堆積物の研究により、暦年で3.0万年前とされている(Smith *et. al.*, 2013)。

一方、調査区東壁のⅢc層にも濃集とまでは言えないものの、特徴的にバブル型火山ガラスが含まれることが指摘できる。この火山ガラスは、その形態と褐色を帯びたものが混在することおよび屈折率の主要なレンジの値さらには同試料中の斜方輝石の主要なレンジの値とから、九州南方の鬼界カルデラを給源とす

るK-Ahに由来すると考えられる。その降灰層準はIIIc層中にあることは確実である。

ここで、寺中A遺跡におけるATの降灰層準はVII層最上部、K-AhのそれはIIIc層であるとする層序が確認されたといえる。新期雲仙火山のテフラ層序については、概略が守安ほか(2008)などに示されているが、今回確認されたATとK-Ahの降灰層準を指標とすれば、今回の発掘調査所見で示されている礫石原火砕流の堆積層準と六ツ木火砕流の堆積層準とは整合する。また、調査区内で出土した縄文早期の土器や縄文後晩期の土器の出土層準とも矛盾はない。

なお、今回の分析では角閃石の屈折率について、層位的に異なる傾向が窺えた。角閃石は、おそらくその多くは雲仙火山の噴出物に由来すると考えられるため、今後、雲仙火山噴出物の角閃石の屈折率の測定事例が蓄積されれば、土層断面では雲仙火山の噴出物の判別が難しい場所においても、その層序の推定が可能になることも期待される。

II. 放射性炭素年代測定

1. 試料

試料は、SX01の覆土から出土した炭化材1点である。試料番号17が付されている。樹種はコナラ属コナラ亜属クスギ節に同定された。

2. 分析方法

炭化物は、形状を観察し、小さなものは全量を試料とする。炭化物からは、メス・ピンセットなどにより、根や土壌など後代の付着物を、物理的に除去する。

次に塩酸(HCl)により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム(NaOH)により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理AAA: Acid Alkali Acid)。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に1mol/Lであるが、試料が脆弱な場合や少ない場合は、アルカリの濃度を調整して試料の損耗を防ぐ(AaAと記載)。試料がさらに少ない場合、アルカリ処理を行うと測定に必要な炭素が得られなくなるため、1mol/Lの塩酸処理のみにとどめている(HClと記載)。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化(鉄を触媒とし水素で還元する)はElementar社のvario ISOTOPE cubeとIonplus社のAGE3を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした ^{14}C -AMS専用装置(NEC社製)を用いて、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$)を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局(NIST)から提供される標準試料(HOX-II)、国際原子力機関から提供される標準試料(IAEA-C6等)、バックグラウンド試料(IAEA-C1)の測定も行う。

$\delta^{13}\text{C}$ は試料炭素の ^{13}C 濃度($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表したものである。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma; 68%)に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う(Stuiver & Polach, 1977)。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正は、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、その後訂正された半減期(^{14}C の半減期5730 \pm 40年)を較正することによって、暦年年代に近づける手法である。暦年較正に用いるソフトウェアは、Oxcal 4.4 (Bronk, 2009)である。較正曲線は

Intcal20 (Reimer et al., 2020)を用いる。

3. 結果および考察

結果を表2に示す。今回は加速器質量分析計による年代測定に必要な炭素量は十分回収できている。同位体補正を行った試料の年代値は、 1100 ± 20 BPである。表2および図6には暦年較正值も示す。測定誤差 2σ の暦年代をみると、紀元後9世紀末から10世紀末の範囲にあり、平安時代の中頃に相当する年代である。この年代とSX01の年代との関係については、試料の産状や他の遺構の調査所見なども含めて検討する必要がある。

表2. 放射性炭素年代測定結果

試料名	性状	方法	補正年代 (暦年較正用) BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正年代			Code No.		
					年代値		確率 %			
試料番号17 SX01 炭化物	炭化材 クスギ節	AAA (1M)	1100 ± 20 (1100 ± 22)	-29.43 ± 0.22	σ	cal AD 898 - cal AD 920	1052 - 1030 calBP	26.7	PLD- 49459	pal- 14661
						cal AD 956 - cal AD 991	994 - 959 calBP	41.6		
					2σ	cal AD 891 - cal AD 995	1060 - 956 calBP	95.4		

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であることを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68.2%が入る範囲) を年代値に換算した値。
- 4) AAAは、酸・アルカリ・酸処理を示す。
- 5) 暦年の計算には、OxCal v4.4を使用。
- 6) 較正データセットは、IntCal20を使用。
- 7) 較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 8) 統計的に真の値が入る確率は、 σ が68.2%、 2σ が95.4%である

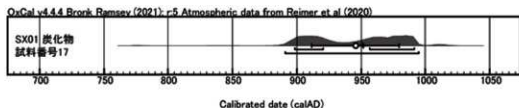


図6. 暦年較正結果

引用文献

- Bronk RC., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51, 337-360.
- 古澤 明, 1995, 火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別. 地質学雑誌, 101, 123-133.
- 早津賢治, 1988, テフラおよびテフラ性土壌の堆積機構とテフラクロノロジー-ATにまつわる議論に関して-. 考古学研究, 34, 18-32.
- 町田 洋・新井房夫, 1976, 広域に分布する火山灰-始良Tn火山灰の発見とその意義-. 科学, 46, 339-347.
- 町田 洋・新井房夫, 1978, 南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ-アカホヤ火山灰. 第四紀研究, 17, 143-163.
- 守安 誠・奥野 充・高島 勲・長岡信治・阪口和則・鮎沢 潤, 2008, 新期雲仙火山、古江・礫石原・湯江川火砕流堆積物の熱ルミネッセンス年代. 福岡大学理学集報, 38, 53-62.
- Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk Ramsey, C., Butzin M., Cheng H.,

- Edwards R., Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon, J. Turney, C. Wacker, L. Adolphi, F. Buentgen U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Koehler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A., & Talamo S., 2020, The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). *Radiocarbon*, 62, 1-33.
- Smith, V.C., Staff, R.A., Blockley, S.P.E., Ramsey, C.B., Nakagawa, T., Mark, D.F., Takemura, K., Danhara, T., Suigetsu 2006 Project Members, 2013, Identification and correlation of visible tephras in the Lake Suigetsu SG06 sedimentary archive, Japan: chronostratigraphic markers for synchronizing of east Asian/west Pacific palaeoclimatic records across the last 150 ka. *Quarternary Science Reviews*, 67, 121-137.
- Stuiver M., & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of ^{14}C Data. *Radiocarbon*, 19, 355-363.

V. 総括

今回の調査地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「寺中A遺跡」の南西端部にあたる。寺中A遺跡は、弥生時代の遺物包含地として周知されているが、今回の本調査ではSK01やSX01など弥生時代より新しい古代・中世の遺構の一部を確認し、弥生時代から中世の生活面が後世に削平を受けて消失したことがわかった。

遺構に関しては、Ⅱ層においてはトレンチャーによる攪乱やⅡa層～Ⅱc層の土色が類似していたため遺構の検出が困難であった。Ⅲ層以下に関してはトレンチャーの影響はなく、Ⅳ層上面においてはおとし穴状遺構と思われるSK06を1基確認することができた。第Ⅲ章第2節第3項第1節に述べたとおり、島原市教育委員会が実施した長貫A遺跡や下油堀遺跡の調査報告においてSK06に類似する遺構が確認されている。

遺物に関しては、範囲確認調査や今回の調査地南側に位置する大高野遺跡において2021(令和3)年度に実施した本調査の結果からⅡ層とⅢ層の境界、Ⅲ層とⅣ層の境界にて出土することを想定して調査を行なった。結果としては、層境界付近にあたるⅢa層上面、Ⅳ層上面で多くの遺物が出土した。Ⅲa層上面で出土した遺物に関しては、縄文時代後晩期のいわゆる黒川式土器と思われる土器片が多く出土した。また、Ⅳ層上面では縄文時代早期のいわゆる貝殻文円筒形土器と早水台式から下管生B式の並行期にあたる押型文土器と弘法原式土器と思われる土器片が一括で出土した。

これらの結果から考えると、Ⅲa層上面、Ⅳ層上面がそれぞれ当時の生活面であると思われる。このうちⅣ層上面は縄文時代早期には狩猟場であったと考えられる。

【引用・参考文献】

- 長崎県教育委員会1994『長崎県埋蔵文化財調査年報』長崎県埋蔵文化財調査報告書第113集
- 長崎県教育委員会2019『長崎県埋蔵文化財調査年報27〔平成30年度分〕』長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第33集
- 長崎県教育委員会2020『長崎県埋蔵文化財調査年報28〔令和元年度分〕』長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第36集
- 長崎県教育委員会2022『津吹遺跡—一般国道251号改良工事(出平有明バイパス)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第41集
- 長崎県教育委員会2023『津吹遺跡・原口B遺跡・上新高野遺跡・大高野遺跡—一般国道251号改良工事(出平有明バイパス)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第46集
- 吾妻町教育委員会1991『守山地区区営園場整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書』吾妻町の文化財第12集
- 有明町教育委員会2001『一野遺跡Ⅱ』有明町文化財調査報告書第14集
- 島原市教育委員会1994『畑中遺跡』島原市埋蔵文化財報告書第9集
- 島原市教育委員会2008『小原下遺跡』島原市文化財報告書第12集
- 島原市教育委員会2017『上油堀・下油堀遺跡』島原市文化財報告書第17集
- 島原市教育委員会2020『長貫A遺跡』島原市文化財報告書第19集
- 深江町教育委員会2006『権現脇遺跡』深江町文化財調査報告書第2集
- 南島原市教育委員会2021『権現脇遺跡』南島原市文化財調査報告書第28集
- 水ノ江和同2012『九州縄文文化の研究—九州からみた縄文文化の枠組み—』株式会社雄山閣
- 大坪芳典2020『九州北部における一野式系土器の空間的展開—高並垣式土器と隔弓式土器との関係—』『西海考古第11号』西海考古同人会



調査区北壁土層状況(南西から)



調査区東壁土層状況(北西から)



土壌サンプル採取箇所(西から)



土壌サンプル採取箇所(北から)



Gr0226D皿a 層上面遺物出土状況(東から)



IV層上面遺物出土状況(北から)



SK06 完掘状況(東から)



SX01 検出状況(西から)



SX01 土層状況(北から)



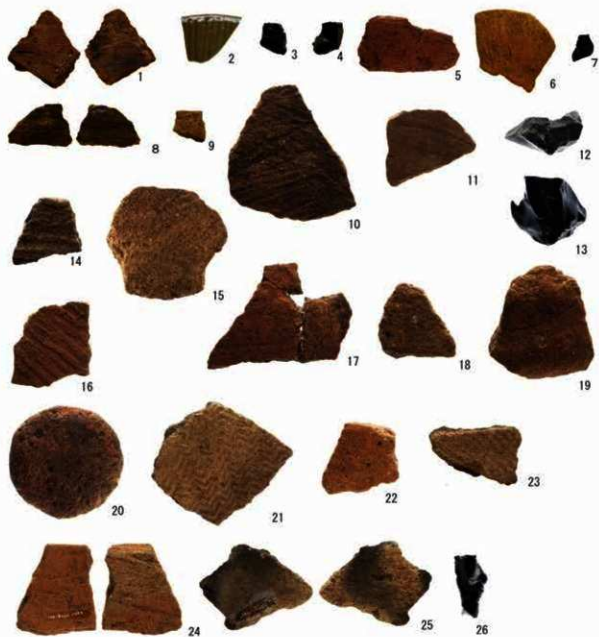
IV層上面遺物出土状況(南から)



IV層上面遺物出土状況(北から)



調査風景



遺構出土遺物



包含層出土遺物 1



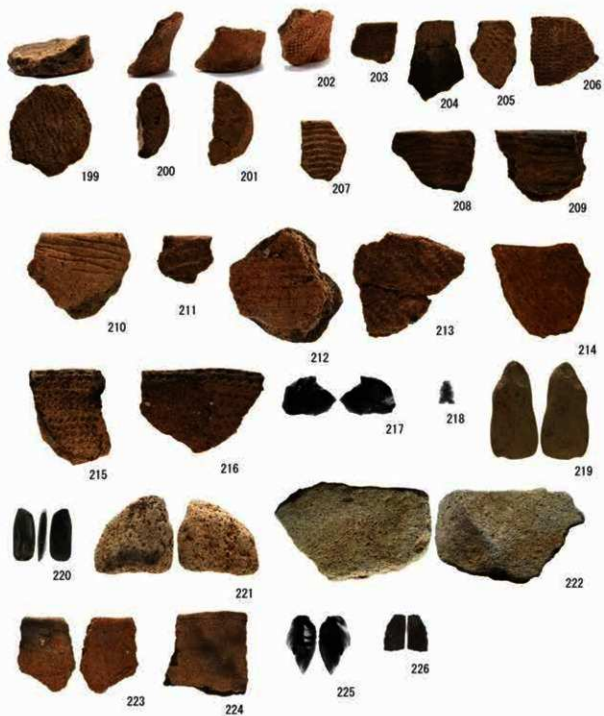
包含層出土遺物 2



包含層出土遺物 3



包含層出土遺物 4



包含層出土遺物 5

報告書抄録

ふりがな	じちゅうえーいせき							
書名	寺中A遺跡							
副書名	一般国道251号道路改良工事（出平有明バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	Ⅲ							
シリーズ名	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号名	第49集							
編著者名	新井実和							
編集機関	長崎県埋蔵文化財センター							
所在地	〒811-5322 長崎県老岐市芦辺町深江鶴亀触 515 番地1 電話 0920 (45) 4080							
発行年月日	西暦 2024 年 3 月 21 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〇〇°	東経 〇〇°	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
じちゅうえーいせき 寺中A遺跡	ながさきけんししまばらし 長崎県島原市 寺中町	42203	011	32° 48' 59"	130° 20' 09"	本調査 2022.7.8 ～ 2022.11.30	1,141 m ²	道路建設
収録遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
寺中A遺跡	遺物包含地	縄文時代 弥生時代 古墳時代 古代 中世		ビット状遺構 土坑 不明遺構		剥片 縄文土器 (早期・後晩期) 弥生土器 石器 貿易陶磁器 鉄器		

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書第49集

寺中 A 遺跡

令和6(2024)年3月21日

発行 長崎県教育委員会
長崎市尾上町3番1号

印刷 株式会社 昭和堂